-千葉県君津市-

松本ピアノ工場調査報告書

平成２５年５月

君津市教育委員会

序　文

松本ピアノは、明治中期に君津市常代出身の松本新吉が創設したピアノ製造メーカーです。新吉は３５歳で渡米し、ピアノの作り方を学び、大正１２年の関東大震災で被災するまで、東京でピアノを製作していました。

翌年、新吉は帰郷し、八重原村の外箕輪に松本ピアノ工場を建設し、二代目の新治、三代目の新一へと受け継がれました。しかし、大手企業の大量生産の波に押され、平成３年に工場の操業を停止、以降はピアノの修理を続けていましたが、平成１９年に建物の取り壊しが決定し、その長い歴史に幕を閉じることとなりました。

そして、平成１９年１月から５月にかけて、生涯学習課（当時）と久留里城址資料館が主体となり、建物、ピアノ・オルガン、製作用具類などの調査、また戦時中に当工場が第二海軍航空廠の疎開工場であったことから、当時の関係者に聞き取り調査を行いました。ピアノや関係資料については、市に受贈され、教育委員会で保管することとなりました。資料は平成２０年度から２２年度にかけて、松本ピアノ・オルガン保存会が整理し、ピアノは平成１９年度から松本新一さんが修復を手がけ、現在、明治期から昭和期のピアノ９台がコンサートで活躍しています。

本報告書は、平成１９年に実施した松本ピアノ工場の調査成果をまとめたものです。現在、ピアノ工場のあった場所は再開発され、この地でピアノを製作していたことなど想像がつきません。本書が日本の音楽史における国産西洋楽器の黎明期を探り、あるいは君津市の歴史、産業史を知る一助となれば幸いです。

最後に、調査に際しご協力をいただきました松本新一・衣子ご夫妻、ご指導・ご助言をいただきました佐倉市民文化ホールの馬場孝之さんをはじめ、調査に参加されましたボランティアの方々のほか、全ての関係者の皆様に対しまして、心より感謝の意を表します。

平成２５年５月

君津市教育委員会
教育長　本吉　貞夫

例　言

1　本書は、君津市外箕輪（そとみのわ）４丁目３２番１２に所在した松本ピアノ工場の解体に伴い、平成１８年度、君津市教育委員会が実施した松本ピアノ工場調査報告書で、整理された一部の項目について、調査成果を報告するものである。

2　工場内にあったピアノ関係資料は、貴重資料を選定し、運搬、保管した。作業のうち、重要事項については、併せて報告するものとする。なお、これらの資料については、君津市教育委員会に寄贈された。

3　調査・整理作業期間は、下記のとおりである。

〔事前調査〕平成１９年（２００７）１月１２日

〔本 調 査〕平成１９年１月２６日～１月２９日

〔補足調査・運搬〕平成１９年２月１２日・１９日・２６日、３月１日・７日・２６日、４月６日、５月２９日

〔整理作業〕平成１９年４月～６月

4　報告書の執筆・編集については、矢野淳一（当時久留里城址資料館）・氏部まり（当時生涯学習課）の補佐のもと、布施慶子（当時久留里城址資料館学芸員）が担当した。また、３１頁下段の「図８　倉庫２・小屋３平面図」、３２頁の「図９　工場平面図」は、池田和広（当時生涯学習課総括リーダー）が作成した。

なお、松本ピアノ工場の事務所（大正期建築）の建物実測は、渡邉義孝氏（風組・渡邉設計室）へ委託し、その成果については、別冊の『松本ピアノ旧事務所実測調査報告書』として、平成１９年３月１０日に発行している。

5　関係名称の表記は、下記のとおりとした。

・「松本ピアノ」は、ピアノ製作会社等の組織を指すものとした。

・「松本ピアノ工場」は、ピアノ製作を行う「工場群」や「所在場所」を指すものとした。

・「工場」は、外箕輪の敷地内北西にある工場の建物１棟を指す事とした。

・「松本製ピアノ」は、松本ピアノ工場で製作された楽器のピアノを指すこととした。

6　本文・写真中の方位は、便宜上、敷地に隣接する１２７号線の旧道を南北軸の基準に記している。また、建物壁面については、実際には「北北東の壁面」であるが、「北壁面」と表記した。

7　本書挿図のうち、図１は国土地理院発行２５，０００分の１地形図「鹿野山」を使用、図２は平成９年(財)君津郡市文化財センター刊行『外箕輪遺跡Ⅱ』より転載・加筆、図１２は平成１７年度久留里城址資料館企画展解説書『平和６０年　戦時下の記憶』より転載・加工。

8　表のうち、表１０～表１３については、平成２１年度～２２年度に松本ピアノ・オルガン保存会※ が資料整理を行い作成したものである。

9　文章の都合により、敬称を省略した箇所がある。

※本会は、君津市が国内のピアノ・オルガン製作の先駆者、松本新吉生誕地であることの広報、および現存ピアノ・オルガンの修復・保存・活用の支援を目的に、平成２０年４月１日に市民が結成した団体である。

目　次

序文
例言
１　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　松本ピアノ工場の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３　調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４　松本ピアノの沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（１）創業、（２）新吉の東京時代、（３）新吉と息子たちの時代、（４）戦時下、
（５）戦後から平成まで
５　所蔵ピアノとオルガン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（１）ピアノ、（２）オルガン
６　ピアノ製作の材料と用具等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
（１）材料、（２）用具等、（３）大型木工機械・大型工具、（４）圧着設備
７　敷地内の建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
（１）工場、（２）工場北東側に所在した建物、（３）母屋、（４）蔵、（５）倉庫２、
（６）小屋３の旧建物、（７）その他
８　作業空間の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
（１）昭和１９～２０年（１９４４～４５）の戦時中の状況、（２）昭和３０～
３５年（１９５５～１９６０）頃の状況、（３）昭和４８年（１９７３）以降
の状況
９　その他の資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
（１）会社関係資料ならびに紙製資料、（２）市民団体による資料整理
１０　所蔵写真資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
１１　木更津第二海軍航空廠の疎開・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
（１）航空廠と松本ピアノ工場への疎開、（２）聞き取り調査、（３）残留資料、
（４）解説、木更津高等女学校第３４回生についての補足
１２　資料等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１

挿図

図１　松本ピアノ工場位置図
図２　松本ピアノ工場周辺地形図
図３　松本ピアノ工場建物配置図
図４　ピアノ・オルガン位置図（調査時）
図５　大型工作機械・工具位置図
図６　圧着設備の寸法
図７　建物建築年代
図８　倉庫２・小屋３平面図

図９　工場平面図　　図 10　作業空間の変化
図 11　資料取り上げ用 建物区割図　　図 12　第二海軍航空廠 疎開工場位置図

表

表１　松本ピアノ工場所在ピアノ・オルガン一覧
表２　松本ピアノ・オルガン年代別一覧
表３　大型工作機械・大型工具一覧
表４　会社関係資料ならびに紙製資料一覧
表５　市民団体による整理資料一覧
表６　航空廠関係資料一覧
表７　資料所在一覧
表８　建築関係保存部材一覧
表９　調査写真集 項目一覧
表 10 松本ピアノ関係資料一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）
表 11 松本ピアノ関係追加資料一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）
表 12 松本ピアノ関係新聞報道一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）
表 13 松本ピアノ関係ＣＤ・ＤＶＤ一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）

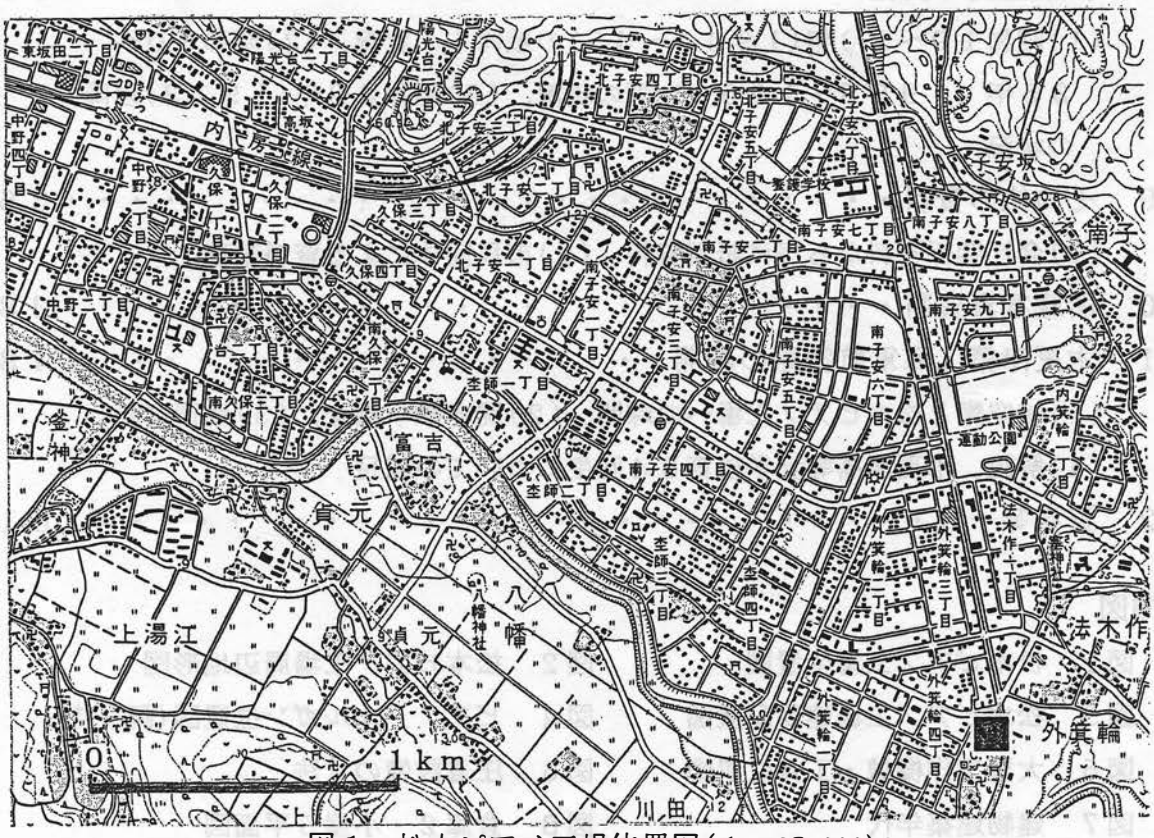


図１　松本ピアノ工場位置図（１：25,000）

1　調査に至る経緯

松本ピアノは、日本のピアノ製造産業の中で重要な役割を果たした。初代の松本新吉は、周南村常代(現君津市)の出身で、東京で初期の国産ピアノ生産に携わり、後に長男の広が経営する月島工場から独立し、八重原村外箕輪(現君津市)に「松本ピアノ工場」をおいた。この工場は、今回の調査に至るまで、手作りによるピアノ製作を続けた貴重な歴史をもつ。工場内には製作に関わる多くの資料やピアノが残され、ピアノについては、君津市指定文化財候補として審議が進められている。また、事務所の建物は調査当時、君津市内に現存した最古の擬洋風建築と考えられる。さらに、アジア・太平洋戦争中には軍需工場の疎開先となり、当時の関係資料も残されるなど、多方面からその重要性が指摘されていた。

平成１８年(２００６)１０月頃から、現当主の松本新一氏と君津市教育委員会との間で、ピアノ受贈に係る協議を始めた。その後、建物取り壊しの日程が決定し、松本ピアノ工場全体の総合的な重要性を鑑みて、君津市教育委員会が主体となり、平成１９年（２００７）１月下旬から緊急調査及び資料受贈の手続き、選定、運搬が行われた。

調査の概要については次項で述べるが、調査によって得られた情報は厖大であり、これらはボランティア調査員の協力による成果であることを特記しておく。

調査組織等は、下記のとおりである。

〔君津市教育委員会〕

全体責任者	三田正義（生涯学習課長）
事務局	氏部まり（生涯学習課文化担当文化財主事）
調査担当	布施慶子（君津市立久留里城址資料館学芸員）
運搬担当	真板明也（生涯学習課文化担当リーダー統括主査補）
調査員・運搬補助員	矢野淳一（君津市立久留里城址資料館副主査） 牧野健二、池田和広、山口君子、丸　博幸、當眞紀子、小林太郎（以上、生涯学習課）

〔調査員（ボランティア)〕

青木重夫、新井孝男、伊藤伸久、稲葉理恵、甲斐佳織、甲斐博幸、河井衣子、桐村久美子、鈴木精一、関崎雅子、竹内順一、西飯　清、能星　正、元岡陸視、山﨑弘隆、和田　昇（あいうえお順）

〔特別協力者〕

松本新一、松本衣子

馬場孝之／ピアノ調査（佐倉市民文化ホール、音楽プロデューサー）

渡邉義孝／建築調査（風組・渡邉設計室、一級建築士）

〔協力者〕

青木　馨・植野英夫・内田順子・梅田　徹・荻根英子・小澤　弘・木田美代・武井澄子・多田信子・豊巻幸正・濱崎淑子・能城秀喜・眞板眞也・三辻亮二・渡邉茂男（あいうえお順）

２　松本ピアノ工場の位置(図１・２)

君津市外箕輪４丁目３２番１２に所在する松本ピアノ工場は、ＪＲ内房線君津駅の南東３．５ｋｍ、国道１２７号線外箕輪交差点の南側３００ｍの地点に位置する。工場は小糸川下流域右岸の標高１６ｍ前後の河岸段丘上にある。この一帯は弥生時代中期から中世におよぶ外箕輪遺跡の範囲内にあり、工場南側には千葉県と君津市の指定史跡である前方後円墳の八幡神社古墳が存在する。

工場西側には、江戸期の房総往還、明治期に房総西街道と呼ばれた旧道が、北東から南西へ走行し、工場の北側で西方の杢師、東方の三直に至る道と交差する。このため、工場付近は小字名を「辻」という。また、現国道１２７号線は、北子安字名郷から外箕輪字辻にかけて２ｋｍほど直線道路となっているが、これは昭和１８年(１９４３)から軍事道路として敷設されたものである。なお、工場東側の１２７号線ができるのは、昭和３０年代後半以降である。

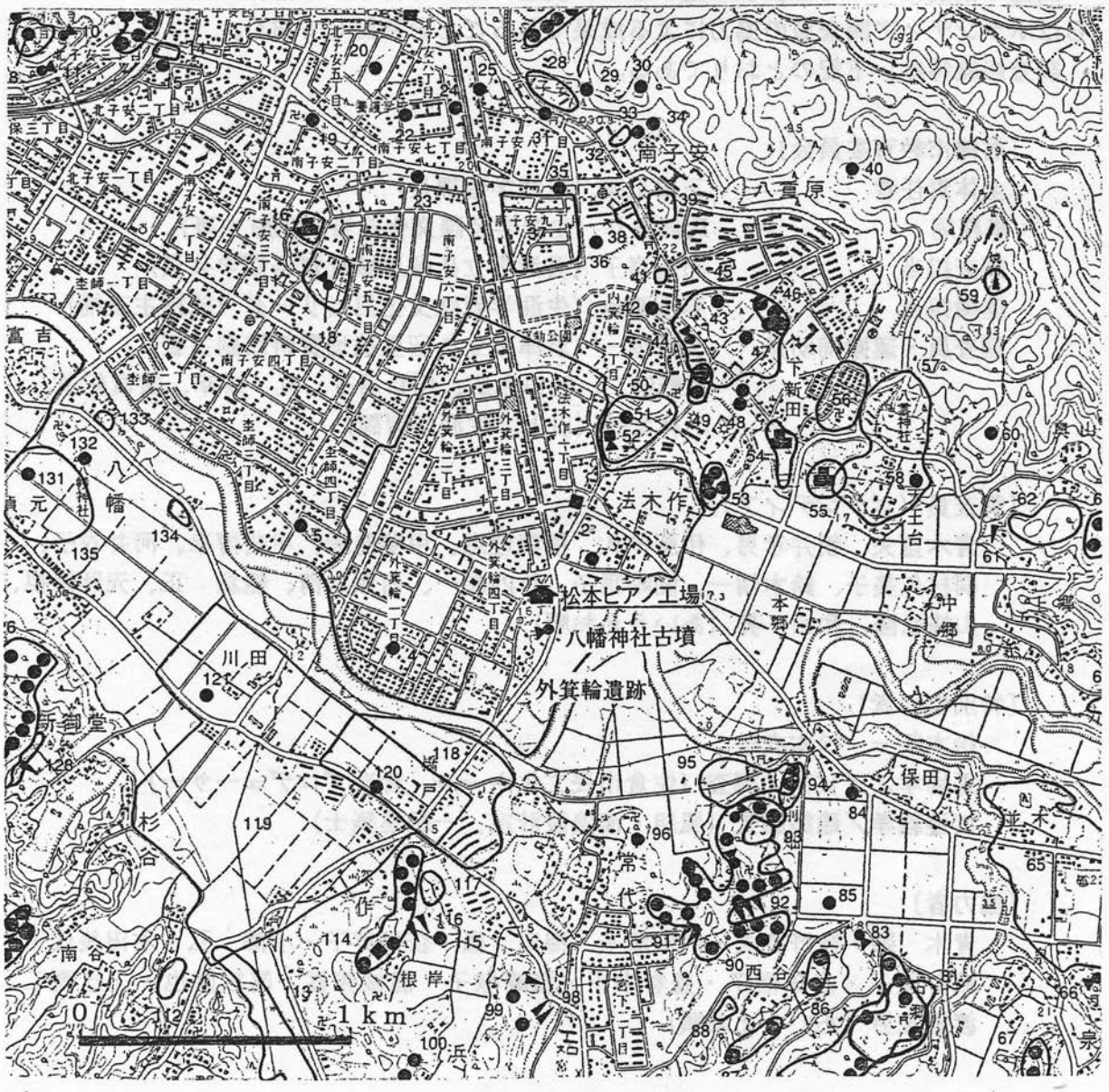


図２　松本ピアノ工場周辺地形図(１：25,000)

3　調査内容

（1）ピアノ確認調査

①ピアノ銘等確認、②個別写真撮影、③現状位置確認

（2）ピアノ製作状況確認調査

①工場設備及び用具等の使用状況聞き取り調査（ビデオ撮影・録音）

②工場設備及び用具等の詳細写真撮影

（3）建築調査

①敷地内建物配置実測(図３)

②事務所＝実測（平面図・四方立面図・断面図・天井伏図・梁伏図等作成)、写真撮影

③工場及び付属棟＝実測（平面図作成)、写真撮影

④倉庫２・小屋３＝実測（平面図作成)、写真撮影

（4）松本ピアノ及び松本家関係史料調査

①関係史料収集、②古写真確認

（5）航空廠関係資料調査

①工場疎開関係聞き取り調査、②残留資料確認

（6）その他

整理作業については、建物実測結果の整理、聞き取り調査の内容確認、記録写真の整理、受贈資料の一部の名称確認について行ったが、ピアノ製作用具の識別や所蔵ピアノの詳細確認等は行っていない。

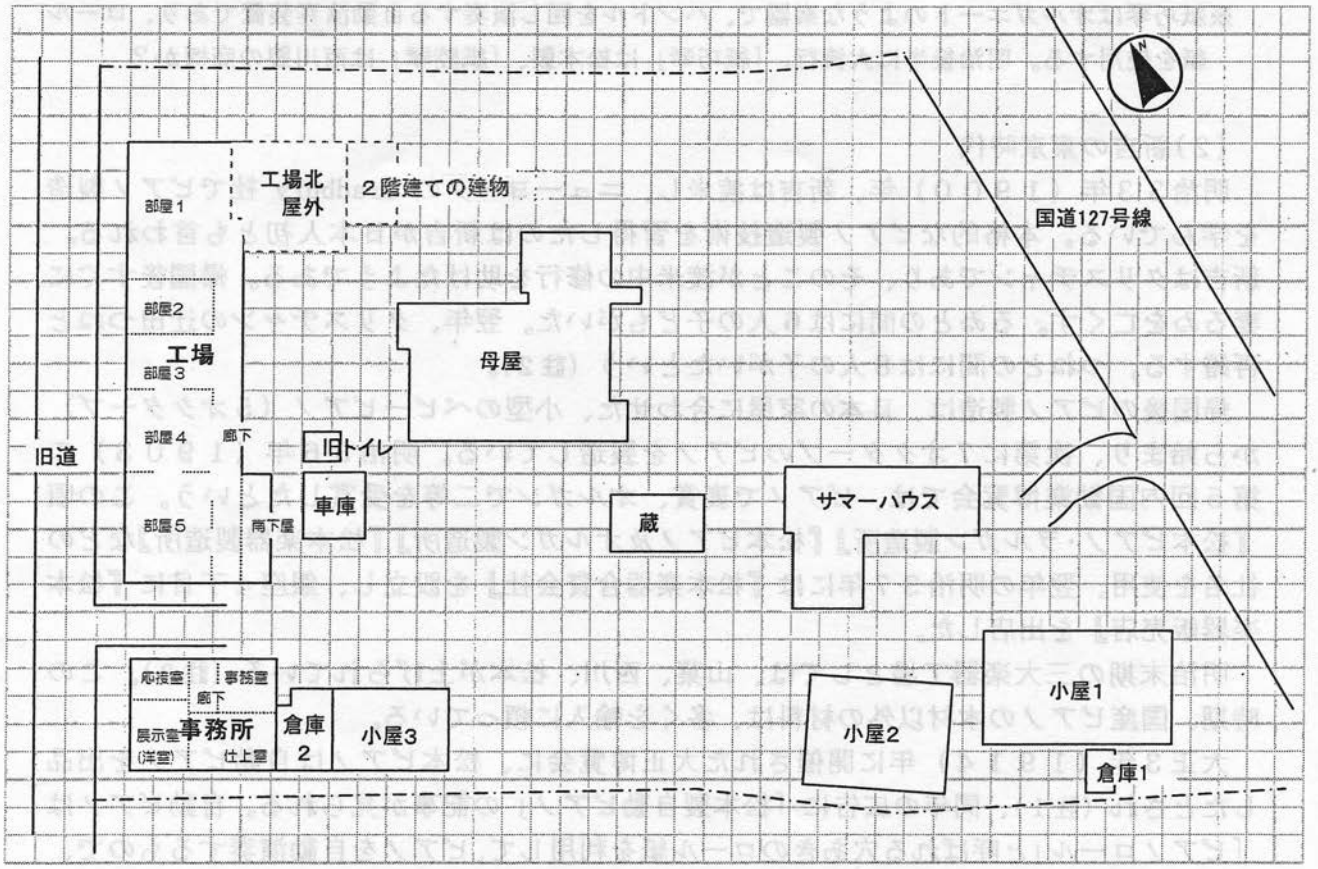


図３　松本ピアノ工場建物配置図（Ｓ＝１/５００、１目盛＝１間＝１．８１８ｍ）

※建物の部屋の名称は、調査時に付けたもので、必ずしも実際の呼称を示すものではない。

４　松本ピアノの沿革

松本ピアノの沿革については、『松本新吉伝』（註１）及び『明治の楽器製造者物語』（註２）に詳しい。ここでは既存資料からの抜粋と、松本新一氏から聞き取った近年の事柄を加えて概要を記す。この中で、調査結果と関連する事項は特筆していく。

（１）創業

松本ピアノの創業者、松本新吉は元治２年（１８６５　4/7、慶応元年に改元）２月に常代村（現君津市常代）に生まれている。１９歳で西川虎吉の姪、るゐと結婚し、農業の傍ら左官の手伝いをしていたとされている。西川虎吉は国産初のリードオルガン製造者であり、「西川オルガン」の名で全国にオルガンを普及させているが、新吉と同じ常代の出身であるという。

明治２０年（１８８７）、西川オルガン工場は横浜市日之出町に移され、新吉はこの時期に西川オルガンで修行を始めている。新吉は優秀な弟子だったようだが、やがて解雇される。

その後、新吉は独立して東京日本橋区下槙町（したまきちょう）に住み、楽器修理店を開業し、明治２７年（１８９４）には、京橋区新湊町に工場と住まいを移した。この時、紙巧琴（しこうきん）※という楽器や、オルガンを販売している。なお、このオルガンはリードオルガンである。社名は特にないようで、「松本新吉」の名で広告を出している。創業は明治２５年（１８９２）説と、翌年の２６年説があり、フレームやアクションの銘の創業年や広告などの表記に、異なる２通りが見られる。

※紙巧琴はオルガニートのような楽器で、ハンドルを回し演奏する自動演奏装置であり、ロール紙を使用する。明治後半に大流行。「紙巧琴」は松本製、「紙腔琴」は西川製の商標か？

（２）新吉の東京時代

明治３３年（１９００）年、新吉は渡米し、ニューヨークの Bradbury 社でピアノ製造を学んでいる。本格的なピアノ製造技術を習得したのは新吉が日本人初とも言われる。新吉はクリスチャンであり、そのことが渡米中の修行を助けたようである。帰国後すぐに妻るゐを亡くす。るゐとの間には６人の子どもがいた。翌年、クリスチャンの辻田つねと再婚する。つねとの間には８人の子がいたという（註２）。

帰国後のピアノ製造は、日本の家屋に合わせた、小型のベビーピアノ（５オクターブ）から始まり、次第に７オクターブのピアノを製造している。明治３６年（１９０３）の第５回内国勧業博覧会では、ピアノで褒賞、オルガンで二等を受賞したという。この頃『松本ピアノ・ヲルガン製造所』『松本ピアノ及オルガン製造所』『松本楽器製造所』などの社名を使用。翌年の明治３７年には『松本楽器合資会社』を設立し、銀座４丁目に『松本楽器販売店』を出店した。

明治末期の三大楽器工場としては、山葉、西川、松本が上げられている（註３）。この時期、国産ピアノの木材以外の材料は、多くを輸入に頼っている。

大正３年（１９１４）年に開催された大正博覧会に、松本ピアノは自動ピアノを出品したとされ（註１）、同年の広告に「松本製自動ピアノ」の記事が見られる。自動ピアノは「ピアノロール」と呼ばれる穴あきのロール紙を利用して、ピアノを自動演奏するもので、国内では明治４５年（１９１２）にヤマハが完成させている。

松本ピアノ工場では火事が多く、明治３９年（１９０６）年に築地工場を全焼し、工場を月島に移している。その工場も大正３年（１９１４）年に全焼した。焼け跡に工場を

再建するが、大正１２年（１９２３）の関東大震災で三度全焼している。このときは販売店舗も焼失した。新吉は月島工場の再建を長男の広に任せ、自分は郷里に戻り大正１０年に購入した外箕輪の家を拠点に、生産を開始することとなった。

経営権について述べると『松本楽器合資会社』は、明治４２年（１９０９）年に山野政太郎が代表社員となり、大正４年（１９１５）年に『合資会社山野楽器店』に改称され、銀座の販売店舗は『山野楽器店』となった。先述の火災にあった工場は再建間近であったが、松本側に属することになり、この工場で生産されたピアノは、新たに京橋に設けられた『松本楽器店』で販売されることとなる。大正１２年３月には『松本ピアノ製造株式会社』が設立された。

東京時代の松本ピアノでは、楽器以外に家具製作を行っていた様子が見える。明治４４年（１９１１）の『実業家人名辞典』には、「デスク製造」「新様式の卓子、本箱等を製出」しつつあるという（註３）。また、知人の森永太一郎(森永製菓創業者)の発注で、商品を入れる木函を製造したとされる（註１)。大正１２年の新会社設立時の登記には「松本ピアノ松本オルガン其他一般楽器家具類の製造及び販売」が目的の一つに上げられている（傍点筆者)。

（３)新吉と息子たちの時代

関東大震災を期に、３月に設立したばかりの『松本ピアノ製造株式会社』は解散された。焼失した月島工場は、大正１３年（１９２４）年に再建され、長男の広が製作を続けた。販売店は場所を木挽町（こびきちょう）に移し、『松本ピアノ店』としている（註４)。大正末期にはピアノ月産５０台であったという。なお、広によるピアノについては、今回の調査で鍵盤蓋銘に「H. Matsumoto Tokyo」とあるグランドピアノ１台を確認している。

関東大震災当時の外箕輪には、すでに新吉の家族がいたが、七男（註２）の新治は震災後の東京の様子を自転車で見に行ったという(註１)。

八重原村外箕輪の松本ピアノ工場には、大正１３年頃、新吉本人が設計したものと伝えられる工場と、当時としては珍しかったであろう擬洋風建築の事務所も建てられた。地元では「ピアノ屋」「松本ピアノ屋」などと呼ばれた。この工場は、新吉と七男の新治が運営し、途中から新治の弟の剛夫も加わっている。職人は近所から集めていたが、賃金形態や日曜休みという出勤体制が、当時としては特殊であったという。今回の調査では、この時期のピアノとして、鍵盤蓋の銘「MATSUMOTO」、フレーム銘「S.MATSUMOTO PIANO.MANUFACTORY.」を確認している。

昭和初期の八重原村において、ピアノは主要産業であり、昭和８年（１９３３）には、米、麦、酒に次ぐ売り上げがあった。

（４)戦時下

戦争の影響で、昭和１３年（１９３８）頃から、平和産業自粛の動きが強くなり、ピアノ製造も困難になる。クリスチャンだった新吉も菩提寺を常代の光聚院（こうじゅいん）とし、住職をよく訪ねるようになったという。新吉は昭和１６年（１９４１)、７７歳で心臓発作により他界した。

昭和１９年(１９４４)、木更津市岩根の軍需工場、第二海軍航空廠が、戦局の悪化に伴い空襲の標的から逃れるために工場を分散疎開させ、松本ピアノ工場もその疎開先の一つとなった。ここでは木更津高等女学校の生徒が航空計器の修理業務に動員されていた（註

５)。松本ピアノ工場では、計器類の他に時計を作っていたという。また、航空廠関係の家具を作っていたのではないかともいう（註６)。

東京の工場は、昭和２０年(１９４５)の東京大空襲でその幕を閉じたと伝えられている。

(５)戦後から平成まで

昭和２０年、新治が他界する。その後は新治の妻和子と新治の弟剛夫が中心となり工場を経営した。ピアノの銘は、昭和２８年（１９５３）「MATSUMOTO＆SONS」に変わったという（註６)。昭和３０年には、映画『ビルマの竪琴』の竪琴の音を担当し、ピアノにつけた装置で、竪琴の音を出すことに成功している。

昭和３０年代は、全国のピアノ産業で機械による量産体制が主流になり、国外へも輸出され、世界で大きなシェアを占めるようになった時期である。同時期に京葉工業地域の発達や新日本製鐵の進出もあった。全国的な機械化の流れのなかで、松本ピアノのような手工業によるピアノ製作は打撃を受ける。こうした状況で、国立音楽大学で講師をしていた新一(新治長男、昭和１０年 1935 生まれ)が、昭和４６年(１９７１)頃には講師を辞め、外箕輪に戻って和子とともに工場を経営するようになった。

平成２年(１９９０)９月１３日、君津市民文化ホールの完成に際し、新一が製作した最後のアップライトピアノ１台が寄贈された。その後、ピアノの修理や調律などの業務を続けていたが、外箕輪の工場は平成１９年（２００７）にその幕を閉じた。

註

註１　大場南北 著『松本新吉伝』うらべ書房　１９８５

註２　松本雄二郎 著『明治の楽器製造者物語　西川虎吉　松本新吉』創英社　１９９７

註３　芳賀登 編『日本人物情報大系　第３２巻』皓星社　２０００

註４　宇都宮信一 著『宮さんのピアノ調律史』東京音楽社　１９８２

註５　山﨑庸男 著『増補版 21 世紀の君たちへ・伝えておきたいこと』うらべ書房　２００６

註６　松本新一氏への聞き取り

参考文献

・君津町誌編纂委員会 編『君津町誌』君津町　１９７３

・『楽器の事典ピアノ』東京音楽社　１９９０

・西原　稔 著『ピアノの誕生』講談社　１９９５

・『小糸川倶楽部 平成１５年度記録集 小糸川洪水ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ すゑ風土記編』君津市立中央公民館 小糸川倶楽部 ２００４

・九島行正編『小糸川倶楽部　平成１７年度記録集』君津市君津中央公民館　２００５

・赤井 励 著『オルガンの文化史』青弓社　２００６

５　所蔵ピアノとオルガン(図４、表１・２)

松本ピアノ工場には、１８台のピアノ及び１０台のオルガンが所在しており、この全てを確認した（調査当時、松本家で使用されていたものを除く)。これらのピアノ及びオルガンは松本製のものだけではない。また、製作中のピアノ、修理中のピアノも含まれていた。さらに、修理用部材確保の目的で破損したオルガンを保管しており、この台数も含むものである。

この作業は、建物解体に伴う緊急の移動に際して行われたものであり、簡易な確認に止まった。確認項目はピアノとオルガンの「鍵盤蓋の銘」「色」「種類」「鍵盤数」「フレームの銘」「製造番号」、及び置かれていた「位置」である。結果は表１及び、図４に示した。

なお、このうちのピアノ１３台とオルガン５台は、君津市教育委員会へ寄贈された。他に１台が国立音楽大学へ寄贈され、破損オルガン２台は修理用部材確保のために君津市教育委員会で保管することとなった。

以下に、確認調査の結果と松本新一氏からの聞き取りの結果をまとめて記した。

(1)ピアノ

調査対象ピアノについてメーカーの内訳を見ると、松本製ピアノ１４台（グランド４・アップライト１０)、ヤマハピアノ１台（グランド)、西川ピアノ１台（アップライト)、タイガーピアノ１台（アップライト)、リーピアノ１台（アップライト）である。

年代についての詳細な調査は行っていないが、松本製ピアノについては、鍵盤蓋の銘と新一氏の記憶によると、表２のようになる。外箕輪工場で製造していたピアノは当初８５鍵であり、年を追って８８鍵になったという。

調査番号１５のピアノは、その製造番号から、明治期にさかのぼる可能性のあるピアノであるという。フレームが途中で継ぎ足され、過去には上部が木であったと思われる。アクションは外国製であった。

調査番号１２のピアノは、アクションが松本製である。

調査番号１のピアノは、関東大震災後に東京で、広が経営した工場のピアノである。銘は「H.Matsumoto　Tokyo」とある。

調査番号１３は、カタログに掲載されたピアノで、当時の価格は３６０円であった。

調査番号１１は、小櫃小学校にあったピアノの可能性が伝えられている。終戦後の早い時期に、工場に残っていた部品を集めて、作ったのではないかという。

調査番号１０のグランドピアノには、銘が見あたらないが、松本製ピアノである。戦後に製造された、たった１台のグランドピアノであるという。「１９５９．４．１」の墨書があり、この年に周南小学校に納められたという。後に小学校で使用しなくなり、松本ピアノ工場に引き取られたが、修理に携わった職人が途中で亡くなり、分解した部材の所在が判らなくなってしまったという。周南小学校は地元の小学校であり、また新吉の次女の愛子が教員をしていたという（就業時期は大正期か？)。

松本製ピアノの鍵盤蓋の銘について整理すると、「Matsumoto　Tokyo.」、「H.Matsumoto Tokyo」、「Matsumoto」「MATSUMOTO」、「MATSUMOTO&SONS」の銘のピアノが残っていた。これらは松本ピアノ工場で製作・販売された銘である。また、松本ピアノ工場で製作され、他社から販売されたピアノがあるという。新一氏によれば、その銘は「チッヘル」や「ローゼンスタイン」で、販売店は西ピアノ、東和ピアノ、銚子方面のピアノ店などがあった

調査番号	運送番号	寄付番号	鍵盤蓋のブランド名	色	ピアノ・オルガンの種類	鍵盤数	フレームの銘
1	A-1	1	H.Matsumoto Tokyo	黒	グランド	88	Grand Piano TOKYO JAPAN
2	A-2	2	MATSUMOTO	黒	グランド	88	
3	A-3	3	TIGER	黒	アップライト	88	Tiger PIANO
4	A-5	4	NISHIKAWA	黒	アップライト	88	GOLD MEDAL PIANO N.G.K YOKOHAMA
5	A-6	5	MATSUMOTO(縁取り文字)	黒	アップライト	88	
6	A-4	6	Matsumoto Tokyo.	黒	アップライト	86	
7		④	NIPPON GAKKI SEIZO KABUSHIKI KAISYA	木目	オルガン	49	
8		⑤	YAMAHA ORGAN	木目	オルガン	61	
9	B-1	7	YAMAHA	黒	グランド		YAMAHA
10				黒	グランド		
11	C-1	8	Matsumoto	黒	アップライト	88	
12	D-2	9	Matsumoto Tokyo.	黒	アップライト	85	
13	D-4	10	MATSUMOTO	黒	アップライト	85	S.MATSUMOTO PIANO.MANUFACTORY.
14	D-3	11	MATSUMOTO	木目	アップライト	88	プレートの下に「千葉県君津郡八重原村 松本ピアノ工場 1932.10.31」
15			Matsumoto Tokyo.	黒	アップライト	85	
16	D-5	12	TALEE-PIANO	黒	アップライト	85	T.A.LEE
17	D-6	13	MATSUMOTO	黒	グランド	88	
18			MATSUMOTO & SONS	黒	アップライト		
19			MATSUMOTO & SONS	木目	アップライト		
20				黒	アップライト		
21		①	Matsumoto Organ Tokyo Japan	木目	オルガン	61	
22		②	西川	木目	オルガン	61	
23		※	KAWAI ORGAN	木目	オルガン	61	
24		③	Matsumoto Organ Tokyo Japan	木目	オルガン	61	
25		※	YAMAHA ORGAN	木目	オルガン		
26			MATSUMOTO	木目	オルガン		
27			ヤマハ	木目	オルガン		
28			AOI ORGAN	木目	オルガン		

表1　松本ピアノ工場所在ピアノ・オルガン一覧　寄付番号欄の※印は、材料確保用として保存

製造番号	その他	松本新一氏からの聞き取り
	松本新治作	昭和10年(1935)以前
	produced YOSHIO YAMAHA TIGERGAKKIK.K	戦後
24050	アメリカンスタイル	製造大正12年(1923)頃ヵ。元は黒ではない。
		製造昭和28年(1953)以前。貞元小ピアノ
	装飾エンブレム、装飾脚、象牙の鍵盤	伝大正3年(1914)、月島工場製
	YOKOHAMA FACTORY	小暮医院オルガン
		昭和6年(1931)製リードオルガン。過去に膠が剥がれ修理
	脚・鍵盤が外してある	湊小ピアノヵ
	脚・鍵盤・蓋・線なし。墨書「1959.4.1」	松本製ピアノ。周南小。戦後製作グランドとして1台のみ残るもの
	塗装の剥離多し	小櫃小ピアノヵ。戦後早い時期に、残り部分で製作したと思われる。
2679	前面飾り。アクション松本製	ウイットホスというピアノのコピー
	カタログのピアノ	八重原松本工場製の初期ピアノ
		調査番号13より新しい。剛夫の作ったピアノ
1258		明治末期製ヵ。フレームが継ぎ足されている。元は上部が木だったと思われる。アクション外国製
		大正期ヵ。木更津中央高校に置かれていたことがある。
22186	修理中、鍵盤なし、1958	
	作りかけ	
	修理中、鍵盤、線、蓋なし	松本ピアノ
	刻書「明治四十一年十月三十日　開校記念寄贈　榎本熊次郎　松本新吉」　※周南小学校の開校記念	
	刻書「明治四十一年十一月寄附之　横浜市日出町二丁目　日本オルガンピアノ製造元祖西川虎吉」	
	傷みが激しい	
	両側に燭台あり。明治40年代の月島工場製	
	傷みが激しく、状態かなり悪い。保証書付	
	傷みが激しく、状態かなり悪い。	ディスクオルガン
	傷みが激しく、状態かなり悪い。	

という。

事務所の残留資料に、「SICHER」と「RICHTONE」の銘の材料が残されており、ピアノ銘の研究にも、「SICHER チッヘル（茂呂ピアノ）」「RICHTONE リッチトーン（東和ピアノカ）」「S.RODESTEIN　エス、ローデスタイン（松本ピアノ？）」の名がみえる。

松本製以外のピアノについては以下のとおりである。

調査番号４のピアノは、「NISHIKAWA」の銘が入っているが、フレームには「GOLD　MEDAL PIANO　N.G.K　YOKOHAMA」の銘が入っている。鍵盤の蓋を開けると譜面台が飛び出すアメリカンスタイルで、大正１２年(１９２３)頃の製造ではないかという。

調査番号３のピアノは、タイガー楽器製で、「YOSHIO　YAMAHA　TIGERGAKKI　K.K」と記されている。昭和２９年（１９５４）４月８日付けの音楽レコード新聞の広告によれば、タイガーはヤマハ系で、「創始者直系を誇る最優秀品！」であるという。

調査番号１６は、「LEE（李)」ピアノである。リーピアノは横浜に所在したピアノメーカーである。大正期から昭和初期には社名を確認できる。

ピアノのフレームも多く残されていた。特記すべきフレームは、ハンガリー製のもの、アメリカ製「STODART　PIANO　CO　NEW　YORK」のものなどである。

(２)オルガン

オルガンについては、状態の良いものが６台であり、その他の４台は破損が激しく、修理用の部材確保のために保管してあったものである。松本製のオルガンは３台であった。

調査番号２１の松本製オルガンには刻書があり、明治４１年（１９０８)、周南小学校の開校記念に寄贈されたものであることが判る。榎本熊次郎と松本新吉の名が併記されている。７ストップのオルガンで、行田市郷土博物館蔵のオルガン（製造番号１９１４６　大正期か？／赤井　励 著『オルガンの文化史』青弓社　２００６による』）と似ている。蜀台と持ち手はないが、その痕跡がある。

調査番号２４の松本製オルガンは、調査番号２１と似ているが、両側に蜀台と持ち手が付く。同じく７ストップである。明治４０年代の月島工場製ではないかという。

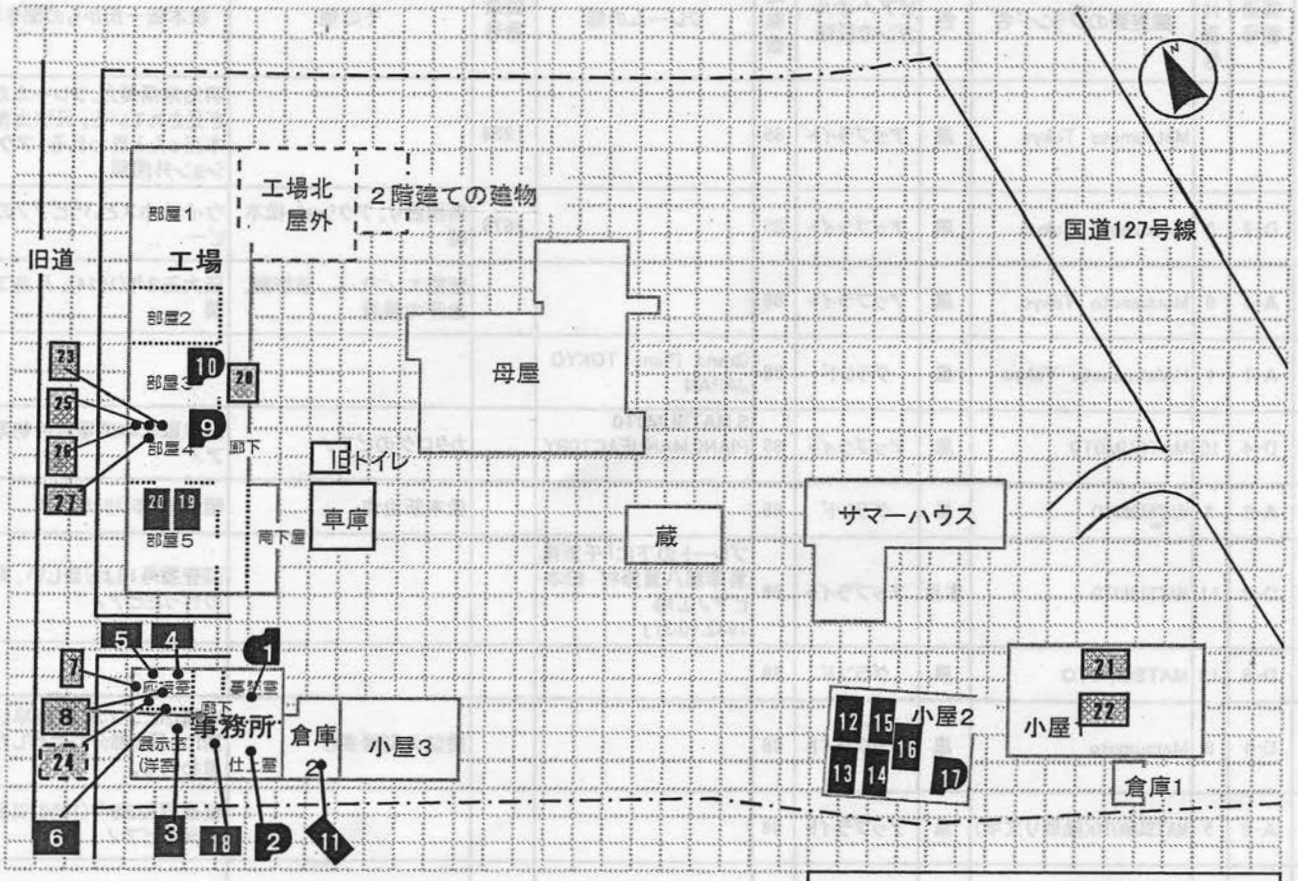
調査番号２２の西川製オルガンには刻書があり、明治４１年に西川虎吉が寄附したものであることがわかる。

調査番号７のオルガンも西川製であるが、銘は「NIPPON　GAKKI　SEIZO　KABUSHIKI KAISYA」となっている。

調査番号２５のオルガンはヤマハ製で、裏面内側に保証書が貼り付けられている。

調査番号	運送番号	寄付番号	鍵盤蓋のブランド名	色	ピアノ・オルガンの種類	鍵盤数	フレームの銘	製造番号	その他	松本新一氏からの聞き取り
15			Matsumoto Tokyo.	黒	アップライト	85		1258		明治末期製カ。フレームが継ぎ足されている。元は上部が木だったと思われる。アクション外国製
12	D-2	9	Matsumoto Tokyo.	黒	アップライト	85		2679	前面飾り。アクション松本製	ウイットホスというピアノのコピー
6	A-4	6	Matsumoto Tokyo.	黒	アップライト	86			装飾エンブレム、装飾脚、象牙の鍵盤	伝大正3年(1914)、月島工場製
1	A-1	1	H.Matsumoto Tokyo	黒	グランド	88	Grand Piano TOKYO JAPAN			
13	D-4	10	MATSUMOTO	黒	アップライト	85	S.MATSUMOTO PIANO.MANUFACTORY		カタログのピアノ	八重原松本工場製の初期ピアノ
2	A-2	2	MATSUMOTO	黒	グランド	88			松本新治作	昭和10年(1935)以前
14	D-3	11	MATSUMOTO	木目	アップライト	88	プレートの下に「千葉県君津郡八重原村 松本ピアノ工場 1932.10.31」			調査番号13より新しい。剛夫の作ったピアノ
17	D-6	13	MATSUMOTO	黒	グランド	88				
11	C-1	8	Matsumoto	黒	アップライト	88			塗装の剥離多し	小櫃小ピアノカ。戦後早い時期に、残り部分で製作したと思われる。
5	A-6	5	MATSUMOTO(縁取り文字)	黒	アップライト	88				製造昭和28年(1953)以前。貞元小ピアノ
18			MATSUMOTO & SONS	黒	アップライト			22186	修理中、鍵盤なし、1958	
10				黒	グランド				脚・鍵盤・蓋・線なし。墨書「1959.4.1」	松本製ピアノ。周南小。戦後製作グランドとして1台のみ残るもの
20				黒	アップライト				修理中、鍵盤、線、蓋なし	松本ピアノ
19			MATSUMOTO & SONS	木目	アップライト				作りかけ	
21		①	Matsumoto Organ Tokyo Japan	木目	オルガン	61			刻書「明治四十一年十月三十日 開校記念 寄贈 榎本熊次郎 松本新吉」※周南小学校の開校記念	
24		③	Matsumoto Organ Tokyo Japan	木目	オルガン	61			両側に燭台あり。明治40年代の月島工場製	
26			MATSUMOTO	木目	オルガン				傷みが激しく、状態かなり悪い。	ディスクオルガン

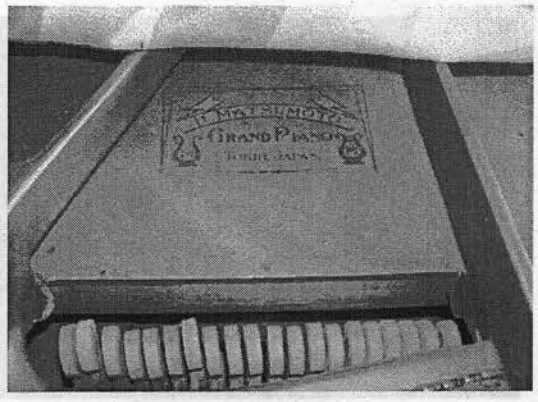
表２　松本ピアノ・オルガン年代別一覧



アップライトピアノ
グランドピアノ
オルガン
※ピアノ等のマークの大きさは、実際の縮尺とは異なる

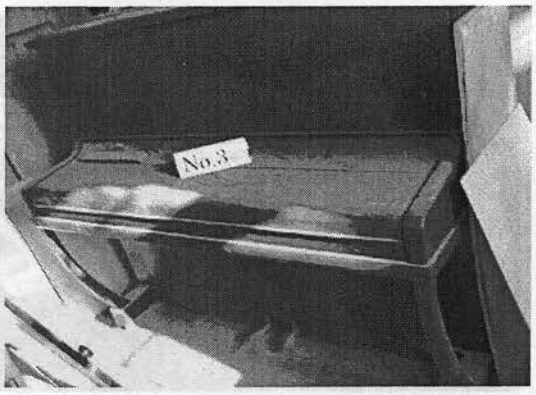
図４　ピアノ・オルガン位置図（調査時）

調査打ち合わせ(平成１９年１月２７日)



調査番号１

調査番号２

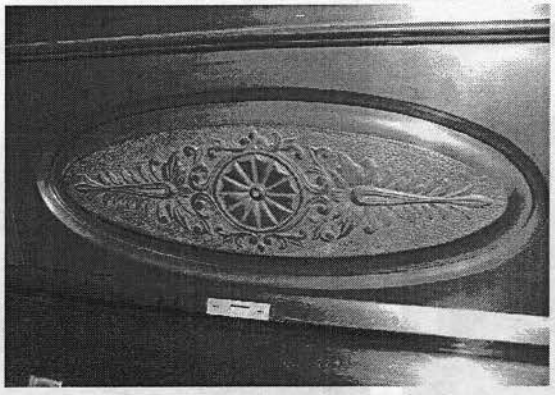


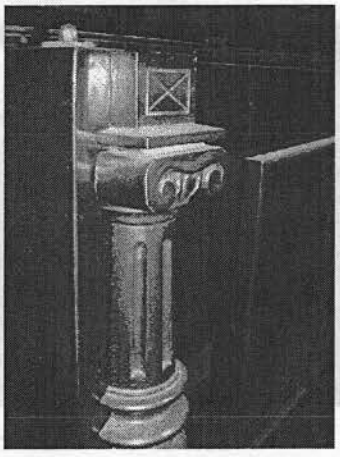
調査番号３

調査番号４

調査番号５

調査番号６



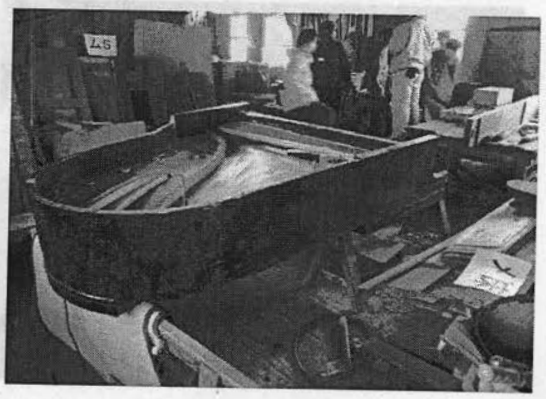


調査番号６の装飾

調査番号７

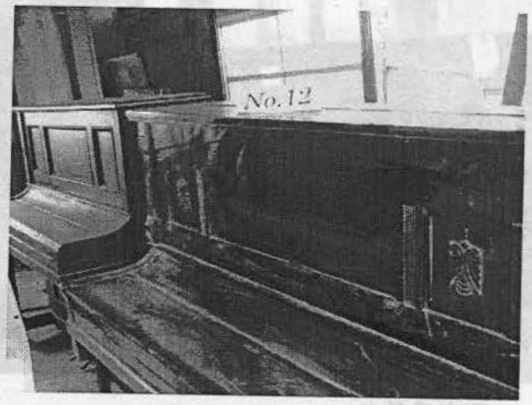
調査番号８

調査番号９



調査番号１０

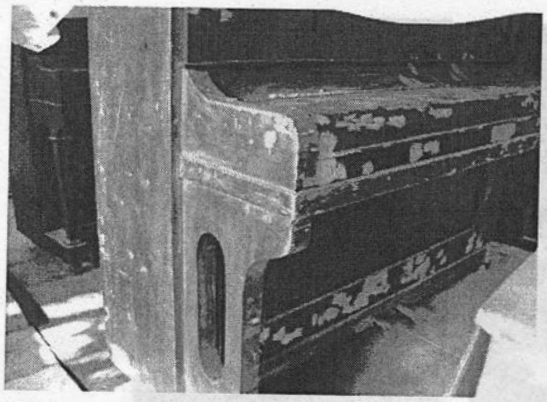
調査番号１１



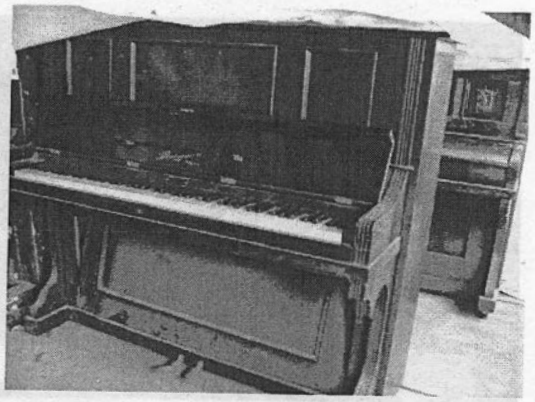
調査番号１３(左)・１２

調査番号１２フレーム銘

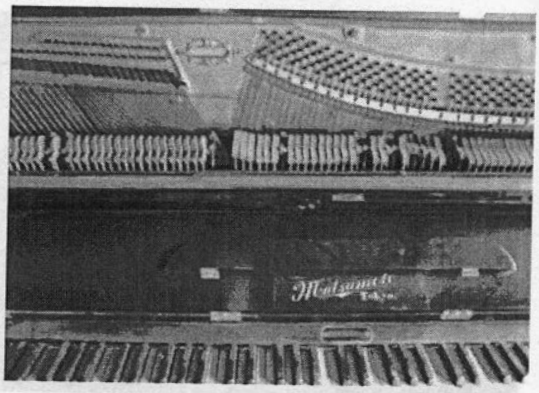
調査番号１３フレーム銘



調査番号１４

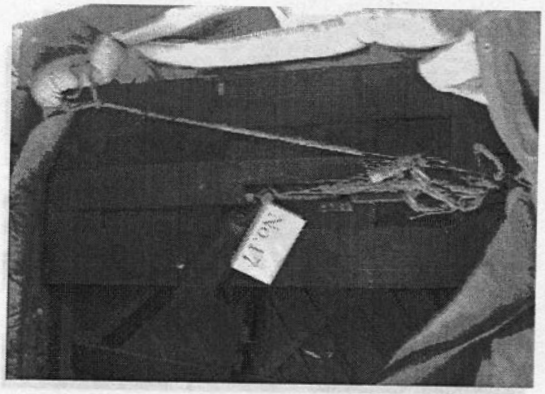


調査番号１５

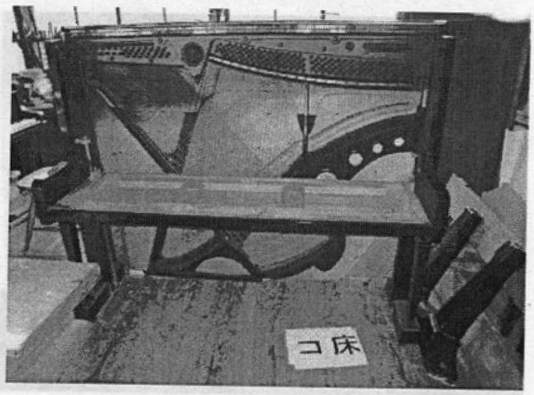


調査番号１５鍵盤蓋銘

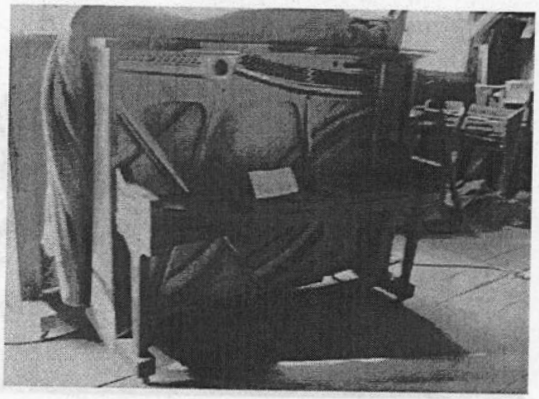
調査番号１６鍵盤蓋銘



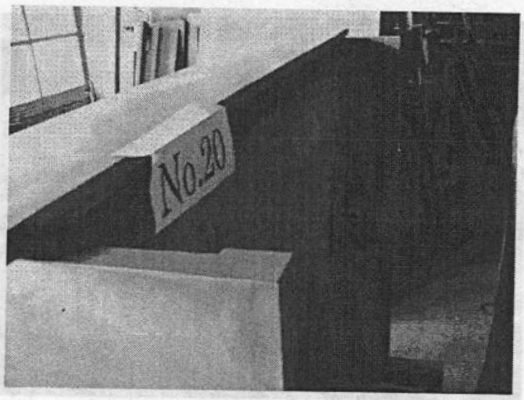
調査番号１７



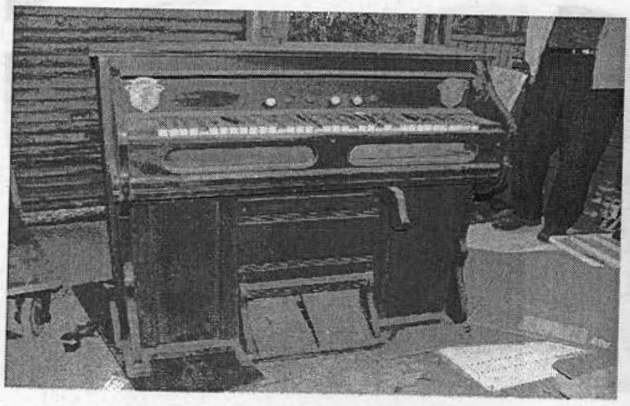
調査番号１８アクション



調査番号１９アクション

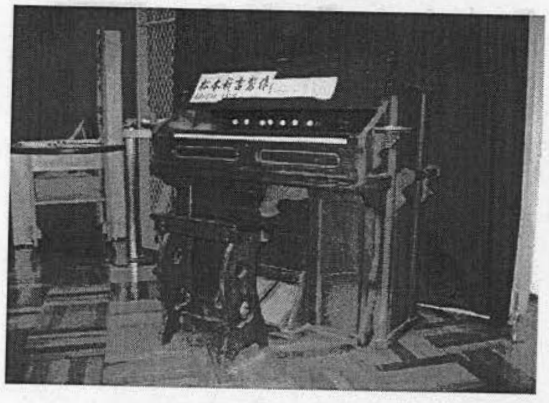


調査番号２０

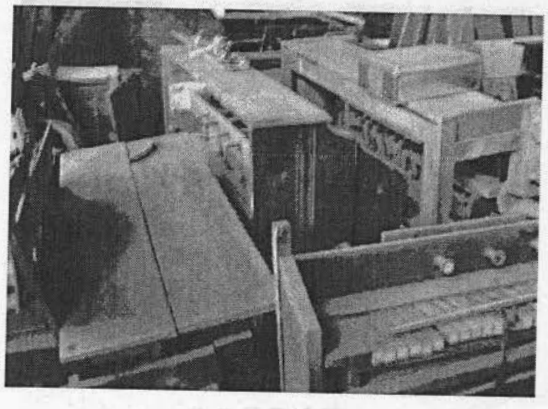


調査番号２１

調査番号２２



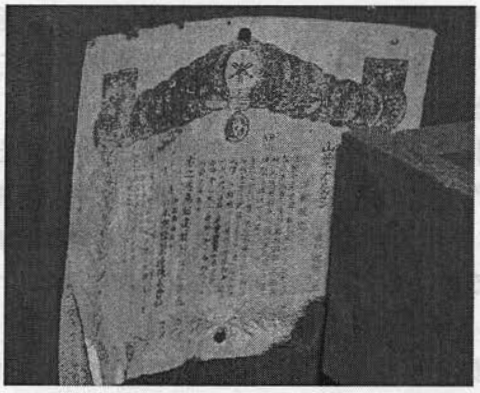
調査番号２４



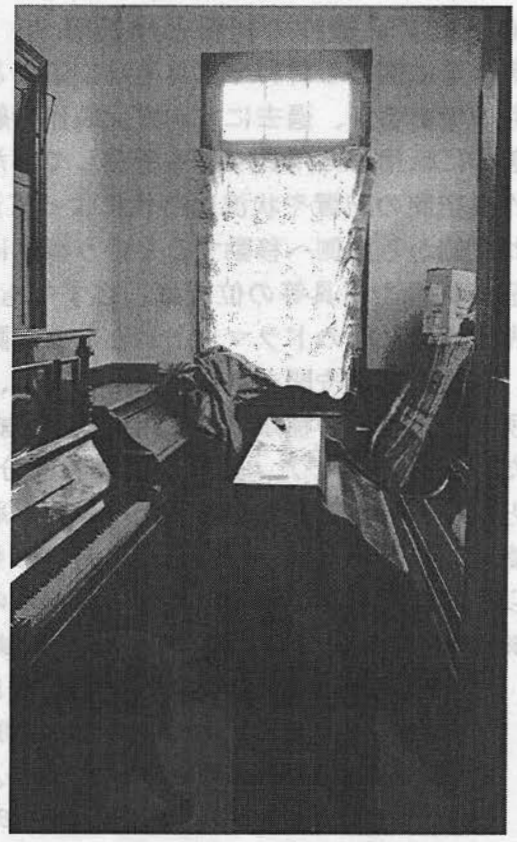
調査番号２６・２５・２３・２７(手前右)

調査番号２３

調査番号２５



調査番号２５保証書



事務所応接室のピアノ・オルガン

松本ピアノ工場(工場北屋外)調査風景

6　ピアノ製作の材料と用具等

製作等に関わる材料や用具等は、工場と事務所に残されていた。主にピアノ製作のためのものであるが、過去にオルガン製作や航空廠関係で使用して置いたままのものや、ピアノ製作に転用した用具なども所在していた。

作業空間の配置や状況は時代によって変化しているが（詳細は後述）、作業工程がおおむね北側から南側へ移動するという流れには変化がなかったようである。時代ごとの変化を経た材料や用具等の位置は、必ずしも工場の当初状況を伝えるものではなく、加えて昭和後期に２度のドラマロケ地となった際に、用具を大幅に移動した可能性もある。しかし、建物の構造や聞き取り調査とも併せ、変遷を垣間見ることができると考える。

所在した用具の種類は、工具、大型機械、治具、型（治具）などで、厖大な数であった。また、手作りのピアノ製作用具は特種分野でもあり、短期間での詳細調査が困難であることから、写真記録及び新一氏への聞き取りによる調査とした。用具等の中から主なものを寄贈いただいたが、整理段階においても個別の識別等は行っていない。

以下に、用具等の概要と、新一氏からの聞き取り調査の結果を部屋ごとにまとめる。

※治具⇒英語の「jig」の当て字で、「機械工作で部品の加工位置を正確に定め、刃物や工具を正しく当てるために用いる道具（『日本国語大辞典』小学館）」で、一般的には機械等に直接固定したり、機械と同時に使用する補助用具のことを指し、筆記具などで形を写し取る型にはこの名を使用していない。しかしピアノ製作においては「製作に用いる型類」が治具であるとされ（註１）、新一氏の聞き取りにおいても同様の傾向であるため、これに従って「製造に使用する型類」で木製のものは治具と解釈し、このうち部品の形を写し取る用途のもの（木製）を「型（治具）」等と表記した。

（１）材料

ピアノ製作の材料として、工場部屋１と工場部屋３に木材が多く残されていた。種類は、エゾマツ、カエデ、米ツガ、ニャトー（南洋材）などである。

エゾマツは柾目の材を使用し、状態の良い部分を取って剥ぎ合わせ、響板・響棒用に使用していたという。

カエデは音響版の上に付くコマ材の材料である。またピン板にも使う。ピン板はピアノ線などの金属と接するため塩分を嫌う。取引きがあった東京・木場の材木屋では、通常の木材は海水に浸けてしまうため、錆の原因とならない配慮として、材の保存や運送（陸送）には気を使い、特別に頼んでいた。また、材は丸太から、特別な厚さに挽いてもらい、松本ピアノ工場ではこの次の段階から加工を行った。

ニャトーは腕木などに使用していた。

（２）用具等

①工場

工場部屋１は最も北側にあり、工場北屋外の木工作業場と同様に、基礎的な木材加工のための大型機械が設置されていた（大型機械の詳細は後述）。また、こうした大型機械に取り付ける切断用の鋸刃や溝加工用の刃などが残されていた。鉄製フレームに穴を空けるボール盤の近くには、フレームの穴の位置を示す型（治具）が壁にかけられていた。この部屋には、材料となる木材も多く残されていた。

工場部屋２には、圧着のための設備や道具がおかれていた（圧着設備の詳細は後述）。ストーブも残されており、接着用のにかわを軟化させたり、接着した響板を乾かすために使用されたという。この部屋の壁面には棚が吊られ、１０段程度の桟が設けられ、この桟に部材をのせて乾燥させていた。またこの部屋には、響板などの木材加工に使用される治具が置かれていた。治具の内容は、板材の厚みを斜めに加工するものや、貼り付けの位置を決めるものなどである。

工場部屋３には、木材が多く残されていた。また、カンナかけの台や、薄い板を貼り付ける工具もあった。この部屋にあった２つの机は、戦時中に航空廠から持ち込まれたものではないかという。脚が切られて高さが低くされている。部屋中央の机の引出しには様々な種類のカンナがしまってあった。壁面南側に寄せられた机には大型の万力が取り付けられ、引出しの中には「㊞（新治のマーク）」の工具があった。この部屋にも治具が多く残されていた。治具の種類は、木型類（戦前のピアノ型を含む）が多く、イスの型もあった。天井には棚がつられ、材料や定規が置かれていた。グランドピアノの型や、仮組みをする時の治具も天井に吊った棚にのせられていた。

この部屋の廊下には、オルガンの木型が残されていた。また、同じく廊下に収納棚が置かれており、戦時中にはこうした家具を作らされていたものではないかという。

工場部屋４にも治具が多く残されていた。加工するときの治具として、コマ板の位置を示す型などがあり、貼り付けに使用する治具では、響棒の位置及び木ネジの位置を示すものがあった。この部屋には、すでに接着された板も置かれていた。また、出荷の際にピアノを入れる木箱に「松本ピアノ」の文字をペイントするための型などがあった。この部屋の南西側に置かれた机は、もともと松本ピアノ工場にあった机（航空廠とは無関係）ではないかという。廊下には圧着のための大型工具があった。

工場部屋５には、最近まで使用していた用具や塗料が集めて置かれていた。昭和３０年代前半の様子を当時勤務していたM氏に聞くと、この部屋でピアノを塗装していたとのことであった。最近では新一氏がこの部屋を使用してアップライトピアノの製作を行っていた。改造されたボール盤が置かれており、アップライトピアノを寝かせてこのボール盤で加工するための手作りの台も置かれていた。また、幅方向の圧着を行う旧型の道具が置かれていた。石を重石として組み合わせて使用するということで、そのための石もいくつか置かれていた。

②事務所

事務室には、戸棚の中に、図面や型紙、鍵盤蓋の銘の材料などが残されていた。部屋の入り口には受け付けの小窓があった。

仕上室には、治具が残されていた。新一氏が現在使用しているものと、旧型の８５鍵用の治具も見られることから、以前に使用していたものが混在しているものと思われる。この部屋には、巻線のコイルを手動で製造する道具があった。また、航空廠時代の小引き出しがあり、ピアノ用部品の小物入れとして使用されていた。南側窓の上部は、壁であったものを、航空廠時代に明かり取りのために改造したという。窓際の机は、脚の細いものが戦前からのもの、脚の太いものは航空廠関係の机ではないかという。部屋におかれた部品は、工場に比べ金属が多い。

展示室には、巻線機が置かれ、新一氏の引いたフレームの原図が残されていた。フェル

トなどの材料も荷解きをしないまま置かれており、この差出しは浜松の業者であった。

応接室には製作用具や材料は残されていなかった。過去には中央付近に丸いテーブルが置かれていたという。風景画が一枚残されていたが、以前は南側の壁にかけられていたという。また、松本ピアノのカタログが複数置かれていた(図面・カタログ等の資料については、「９　その他の資料」を参照)。

(３)大型木工機械・大型工具(図５・表３)

大型工作機械等については、表３に示す資料が残されていた。このうち、工場北屋外の木工作業場においては、帯ノコ、手押しカンナ、自動カンナといった手順で材料が加工されたという。帯ノコは直線や曲線を切り出し、手押しガンナで平面と側面の直角を整えるなどして、自動ガンナで厚さを整える。

帯ノコは、昔はさらに大きいもの(工場東壁面の車輪)を使用していたという。刃は幅広のベルト状の鉄の側面に付く。交換用のベルトが残されていたが、４ｍほどの大きな輪になっていた。刃の幅の細いものは、曲面の加工ができ、広いものは直線を切るときに使うという。帯ノコは別名をバンドソーともいう。

自動カンナは２点あり、１点には「諸機械製造販賣　神田萬世橋際　神宮伊勢松商店」のプレートが付いていた。

工場部屋１には丸ノコや、「縦軸」があった。この「縦軸」は、刃が地面に対し水平に回転し、軸が縦方向についているため「縦軸」と呼ばれ、ホゾ加工などに使用したという。また、四角い穴が開けられる機械や、鉄製フレームに穴を開けるためのボール盤が残されていた。刃物を研ぐための自動刃物研磨機もあった。

事務所展示室には巻線機があった。線の巻き具合でピアノの音の高低を作り出す機械である。この巻線機は、広島の東洋楽器で使用していたもので、今後も使用するため、保存されることとなった。

こうした機械は、過去には小さなモーター（２．２３８ｋＷ）１つの動力で動かしていた。モーターは工場北屋外にあった木工作業場の北西部分に置かれ、その上部に配電盤があった。電気は３ｋＷの契約しかしていなかったのではないかという。モーターから帯ベルトでメインのシャフトを常に動かし、木工作業場と部屋１のすべての大型機械に力が伝わるようになっていた。個々の機械にスイッチがあるわけではなく、使用していない時は、動力を伝えるベルトをずらすなどして動きを止めた。作業中にベルトに巻き込まれるなど危険度も高かった。メインのシャフトは工場部屋１の東壁面に付けられ、その穴は調査時にも残っていた。

また、これらの機械の中には航空廠に関係するとされる機械があった。しかし、航空廠の作業のために持ち込まれ置き去られたか、あるいは戦後に払い下げを購入したものなのかは不明である。

その他に、手動の大型工具として、巻線コイル製造機、板圧着用具、大型の万力などがあった。板の圧着用具については、水平方向に積み重ねて接着するための用具と、幅方向の面積を広げるよう接着を行う用具があった。後者は幅広板を作るために、板の側面同士を接ぎ合わせる道具だが、この形式のものは日本ではあまり見かけないという。漬物石のような石を重石として組み合わせて使用する。

No.	大型機械名称	場 所	製作年代	機 能	構 造	その他
1	帯ノコ	工場 北屋外	戦中(航空廠)カ	木材の直線・曲線の加工。ジグソーのように使う。粗加工の段階。	帯状の鋸の刃を輪に巻きつけ、動力で回転させ、上から下に向かって刃が動いて木材を切断する。	昔は、さらに大型だった(工場東壁面に、当時の輪が立てかけてあった)。
2	手押カンナ	工場 北屋外	戦中(航空廠)カ	木材部品のカンナかけ。面と側面を直角にできる。帯ノコの次に使用。	前後二つの台からなり、片方の台に刃がつく。台の高さをかえて面を削る。側面の金属の当て板で、平行方面の角度の調整と垂直方面の直角加工ができる。	
3	自動カンナ1	工場 北屋外	大正期カ	板の厚さを決める。手押しカンナの次に使用。	カンナは、上部について回転する。台の高さを調節すると厚さを決めて自動的に木が送られる。速度可変。	プレート「緒機械製造販売 神田萬世橋際 神宮伊勢松商店」
4	自動カンナ2	工場 北屋外	戦後カ	〃	〃	
5	丸ノコ	工場 部屋1		決まった幅などを切り出す。スピードは2段変則。	丸いノコギリ刃が回転し、台の隙間から刃を上部に出して、木材を切断する。	
6	丸ノコ	工場 部屋1	新しい	決まった幅などを切り出す。	〃	稼動する定規が付けられる。
7	縦軸	工場 部屋1		溝の加工をする。厚みのある刃で、ホゾ加工などをする。	回転軸が縦方向につき、台上で円を描いて回転。台上に壁が作られ、その隙間から刃先ずでる仕組み。	
8	角ノミ	工場 部屋1	戦後カ	四角いホゾが空けられる。		
9	ボール盤(金属加工)	工場 部屋1		鉄のフレームに穴を空ける(型とおりにポンチで、印付けをしておく)。		
10	ボール盤	工場 部屋5		鍵盤の穴空けに使用。幅広の加工ができるよう、変形させてある。		
11	自動刃物研磨機	工場 部屋1		大型機械の刃を研ぐ。		
12	モーター	工場 廊下2		大型機械の動力。	2. 238kW	すべての大型機械の動力。3kWくらいの電力契約だったカ
13	巻線機	事務所 展示室		ピアノの線を巻く。線の巻き具合で、音の高低が決まる。		広島の東洋楽器で使用されていたもの。
No.	大型工具名称	場 所	製作年代	機 能	構 造	その他
14	巻線コイル製造機	事務所 仕上室		ピアノの元のコイルを作る。		
15	圧着用具	工場 部屋1		板を圧着する(ピン板など)。	ターンバックル・H鋼・ベースの木の組み合わせ。	
16	圧着用具	工場 部屋3		〃		
17	圧着用具	工場 部屋4		〃	上下の圧力で圧着。	
18	圧着用具(幅接ぎ)	工場 部屋5		板の切り口同士を接着させ、幅広板を作る。	平均台状の2本の台と重石を使用する。	他では見たことがない。
19	大型の万力	工場 部屋3・4		加工する材などを固定する。		作業机の左端に固定。

表３　大型工作機械・大型工具一覧

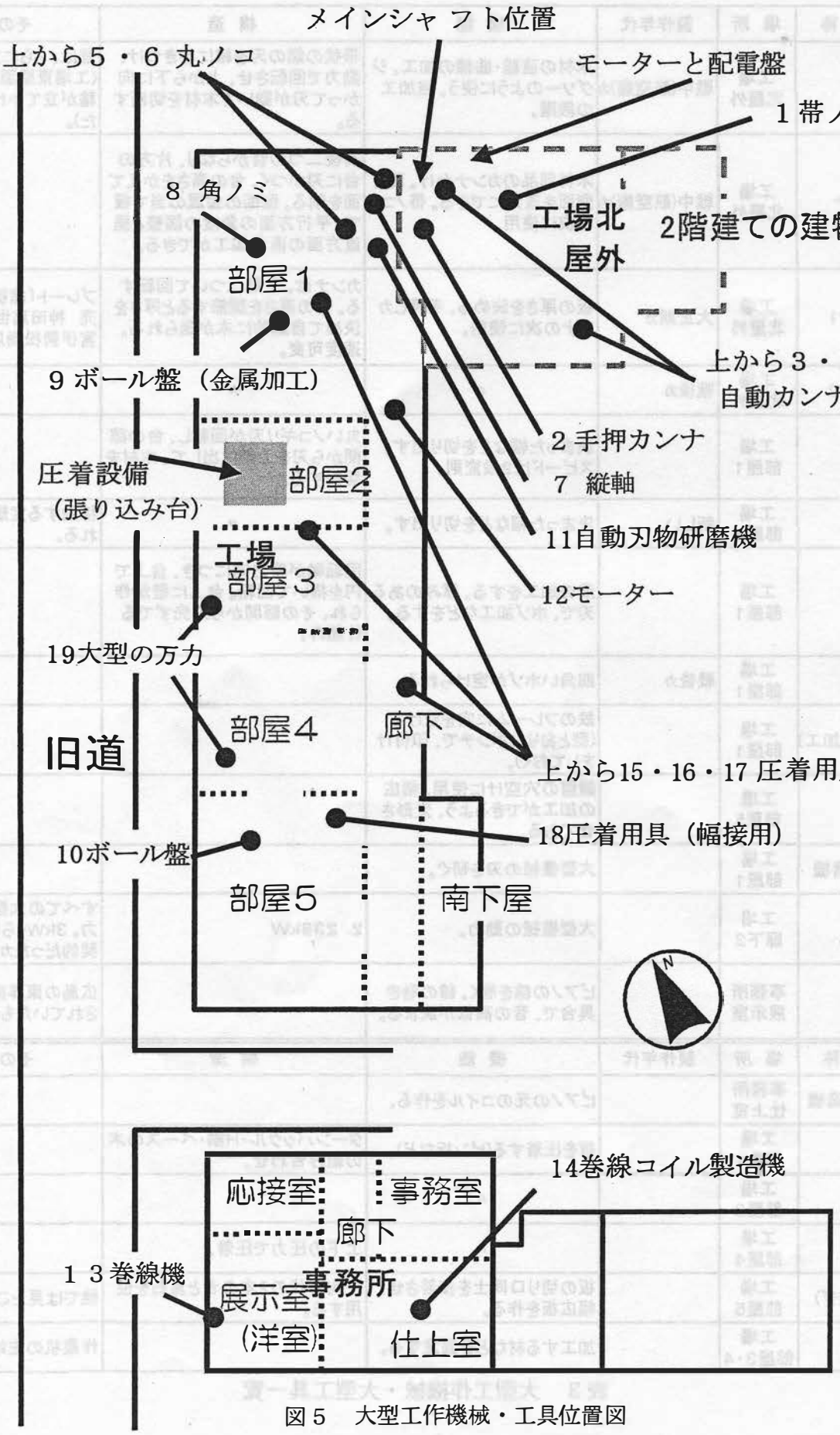
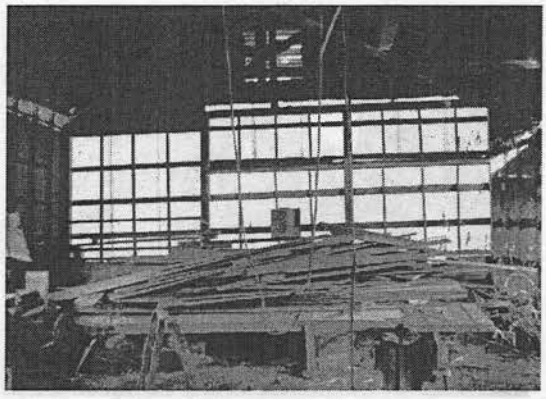
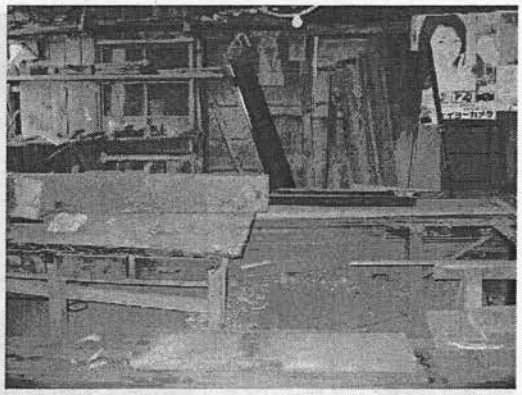


図５　大型工作機械・工具位置図

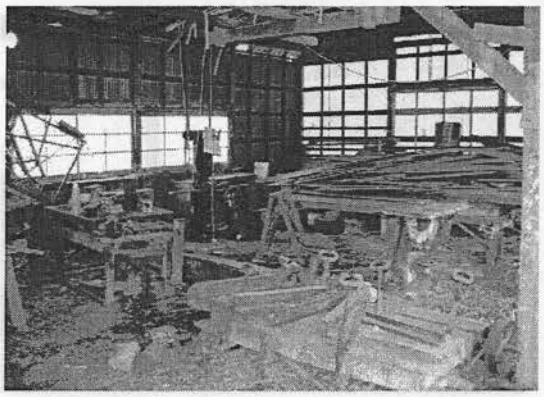
※　番号は表３の№と対応する。



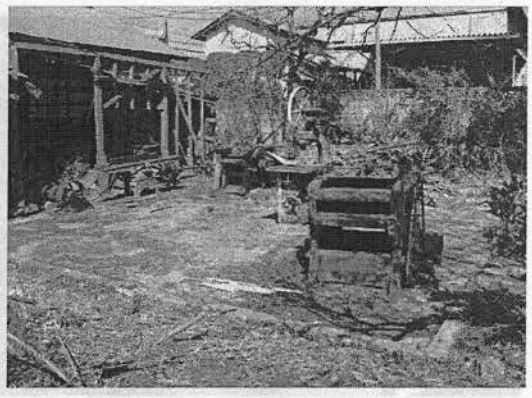
工場部屋１　材料が置かれた様子



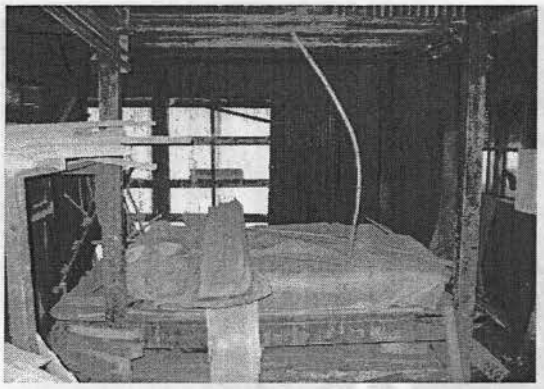
工場部屋３



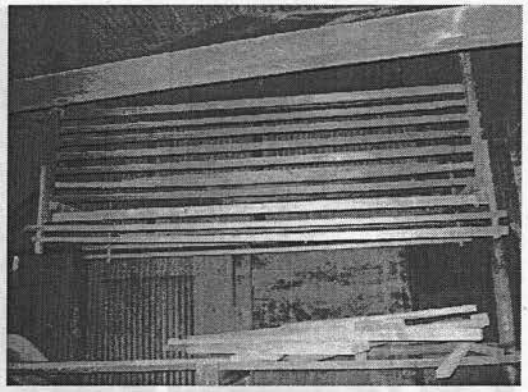
工場部屋１



工場北屋外

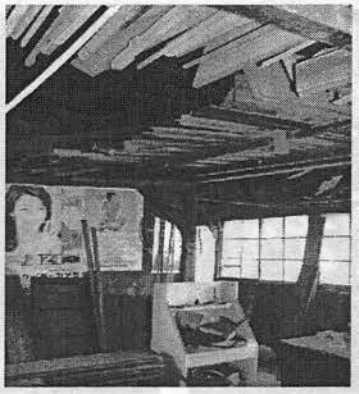


工場部屋２

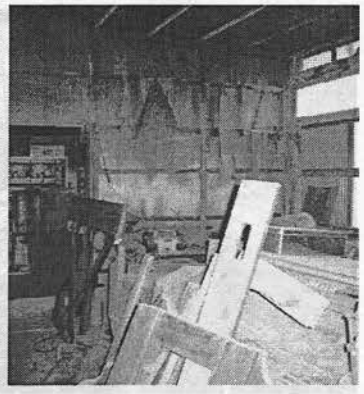


工場部屋２　南側壁面

工場部屋３　南西隅

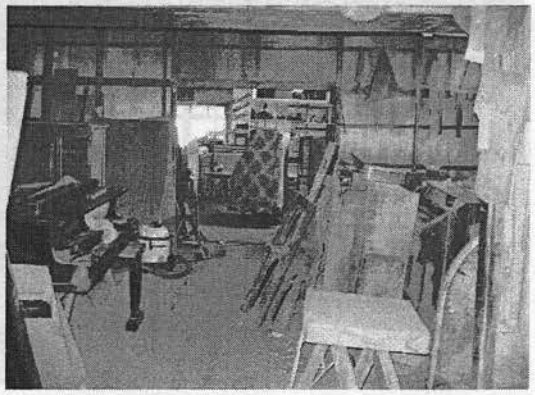


工場部屋３　北東側

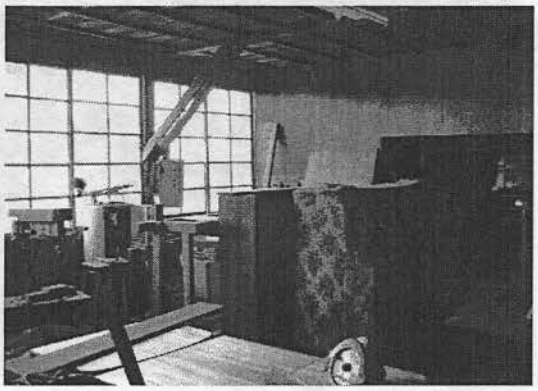


工場部屋４

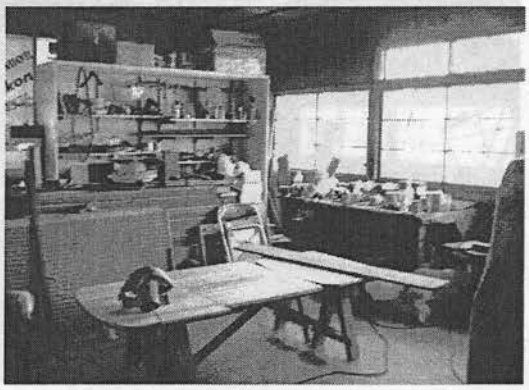
工場部屋４　東側



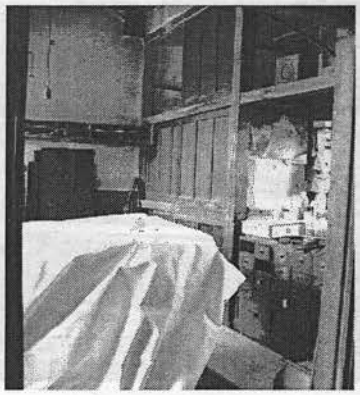
工場部屋４　南側



工場部屋５　北西側

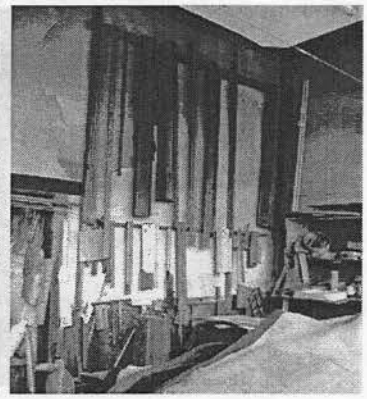


工場部屋５　南西側

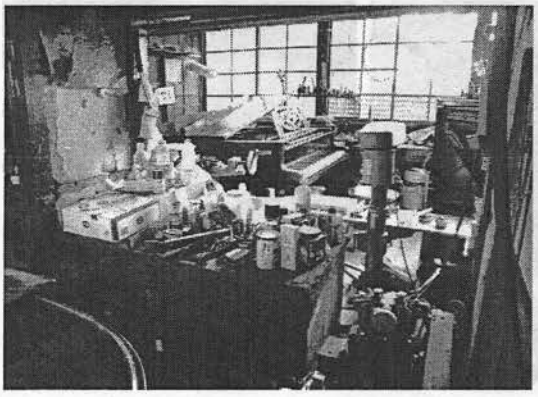


事務所事務室

事務所展示室

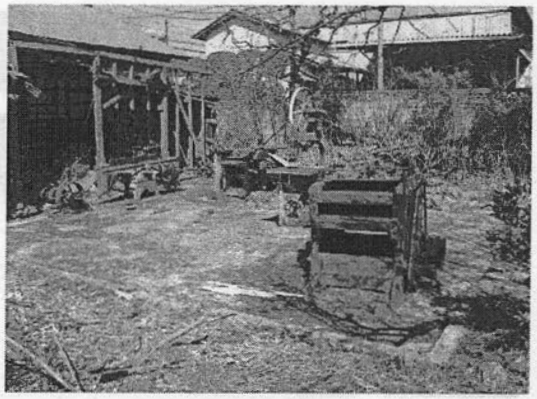


事務所仕上室



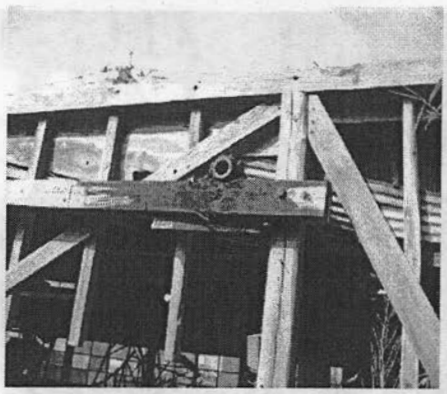
事務所仕上室　事務室より見る

事務所仕上室

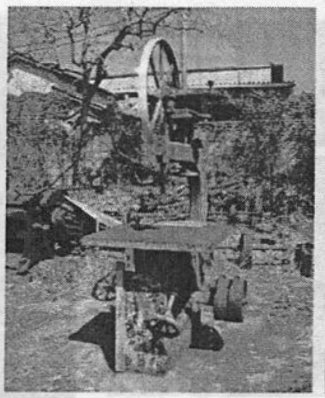


工場北屋外の大型機械　手前は自動ｶﾝﾅ２

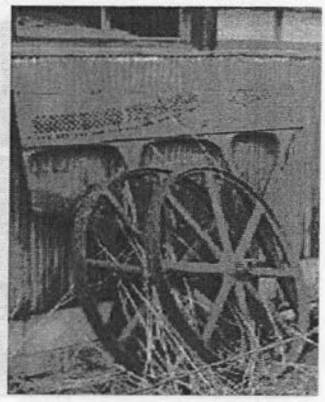
大型機械・シャフト



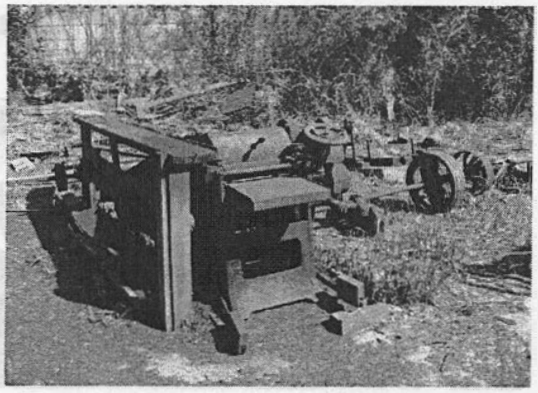
メインシャフトの穴



帯ノコ（表３－№１）

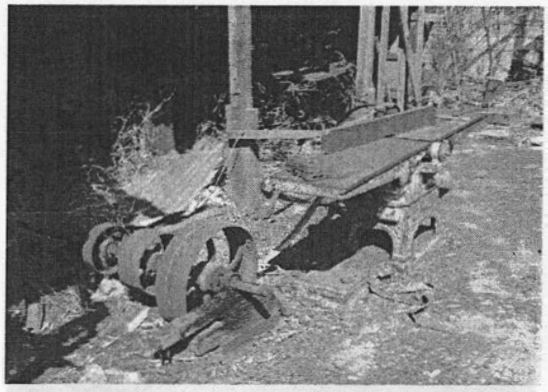


帯ノコの車輪



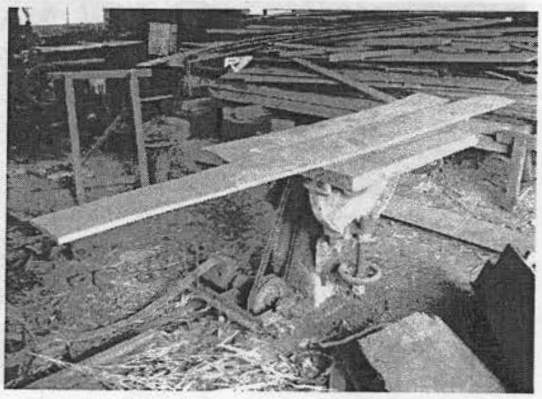
自動カンナ１（表３－№３）

自動カンナ１のプレート

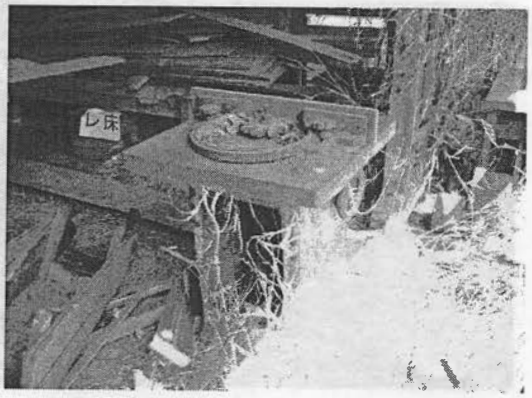


手押しカンナ（表３－№２）

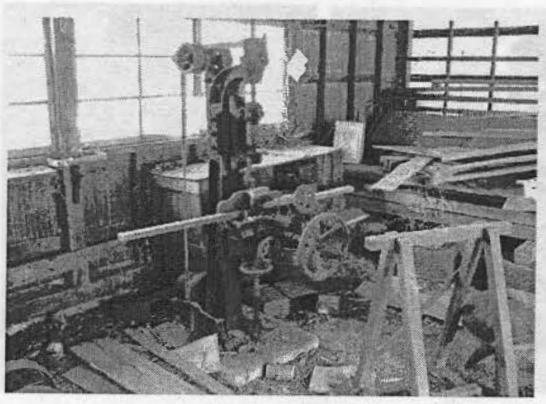
自動カンナ２（表３－№４）



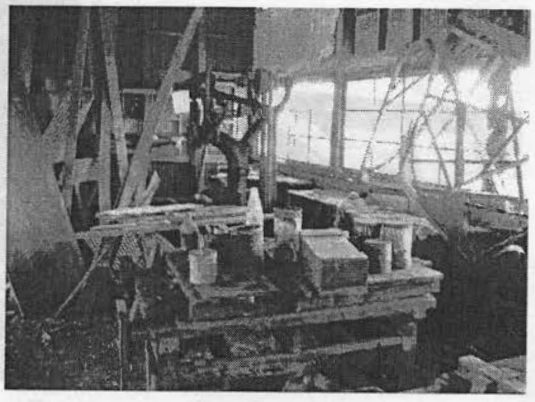
丸ノコ(表３－No.６)



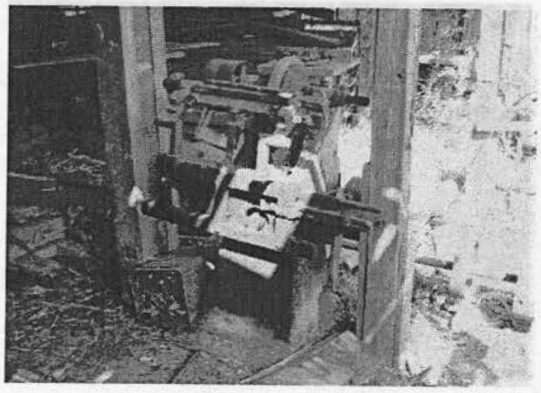
縦軸(表３－No.７)



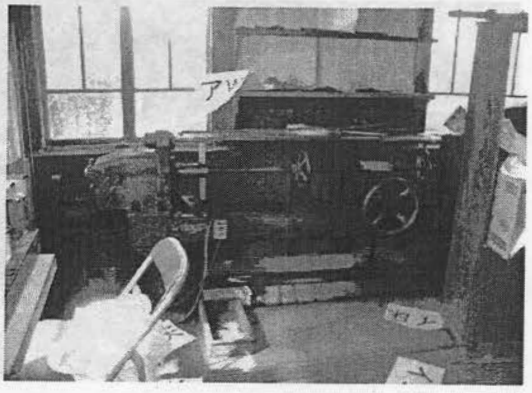
角ノミ(表３－No.８)



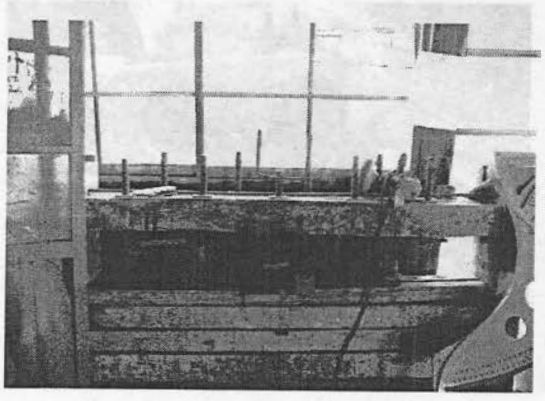
ボール盤(金属加工/表３－No.９)



自動刃物研磨機(表３－No.11)



巻線機(表３－No.13)



圧着用具(表３－No.17)

幅接ぎ用の圧着用具(表３－No.18)

（4）圧着設備（図6）

圧着設備（張り込み台　go　bars　註2）が部屋2にあった。大きさは、幅１９５０㎜、奥行き１９６５㎜、高さ２４７０㎜である。内部の台の上に、響板と響棒などを置き、接着面ににかわを塗る。接着する部材と台の天井との隙間に「竹」をつっかえ棒のように設置して圧を加える。台の上部から天井までの空間は１３９０㎜である。張り込み台の一般的な例を見ると、棒には竹ではなく木が使用されているが、西上総は竹の産地であるのでこれを用いたのであろう。新一氏によれば「竹の方は力があると思うが、木の方は力が安定しているのかもしれない」との話である。

一般的な台は、面が平らである場合と凹面である場合があるというが、この台については確認していない。

この部屋にはストーブが置かれていたが、にかわを湯煎して軟化させたり、接着した材を乾燥させたりする目的があるとの話である。火を使用するため、この部屋だけ壁面にブリキのトタンを張り巡らせていたという。トタン張りの理由として、乾燥のために機密性を高めたとも考えられる。

接着された響板は壁面に設けられた１０段程の桟に乗せられ、乾燥のため、１年程度放置される。またこの桟には、他の部材の乾燥にも使用されたという。

註

註１　中谷孝男 著『ピアノ構成論』エイデル研究所　２００１

註２　Samuel　Wolfenden　著『ピアノ製作技術論』エイデル研究所　１９９９

参考文献

・福島琢郎 著『ピアノの構造・調律・修理』音楽之友社　１９５０

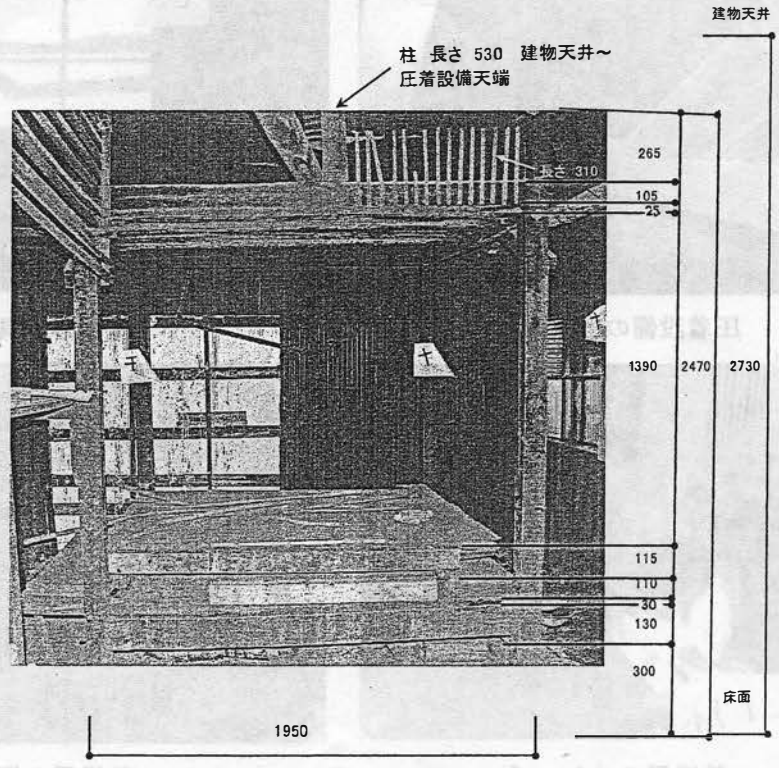
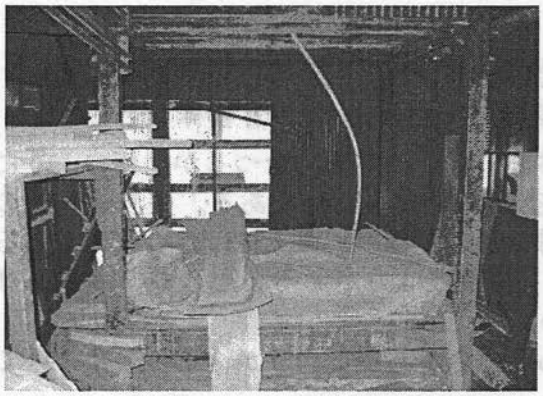
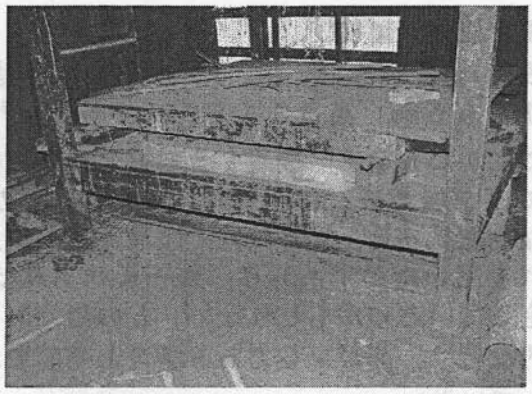


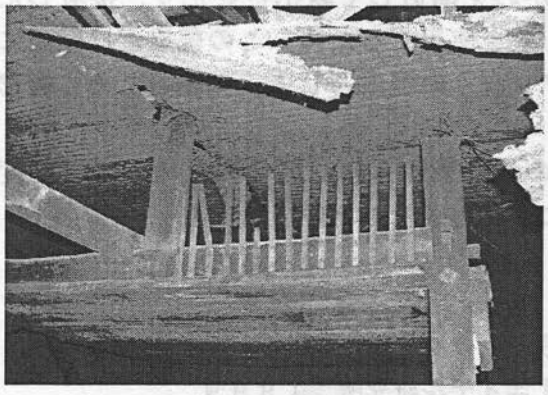
図６　圧着設備寸法（単位㎜）



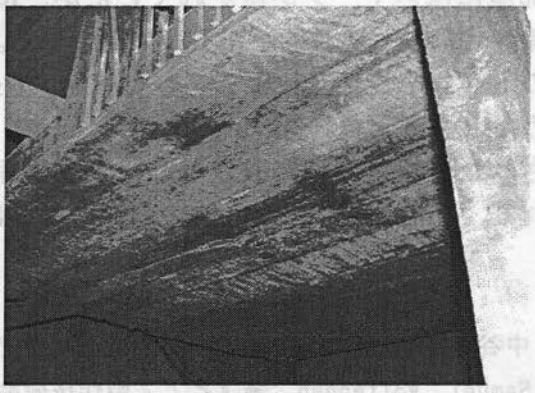
工場部屋２の圧着設備



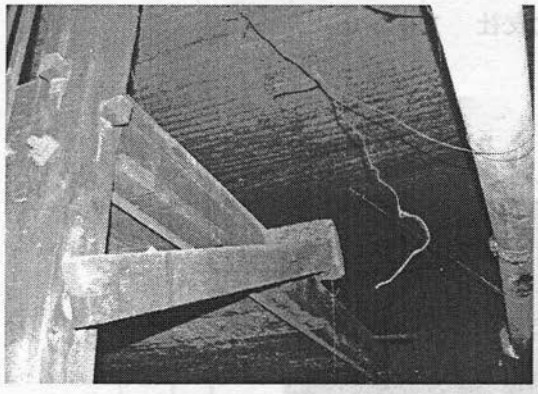
圧着設備の台部分



圧着設備の上部

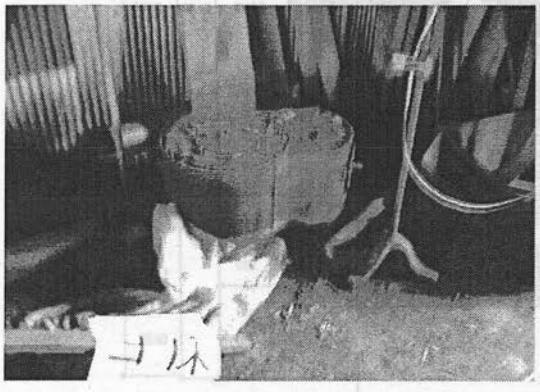


圧着設備の天井部分

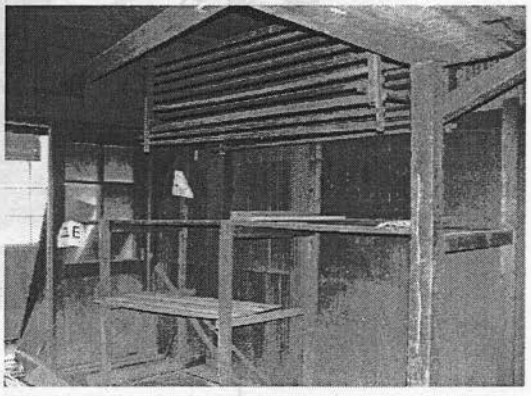


圧着設備の上部側面

壁面の治具



乾燥用のストーブ



乾燥用の棚

７　敷地内の建物(図７～９)

松本ピアノ工場の所在した土地は、大正１０年（１９２１）に、松本新吉が旧小川家から購入したとされる(註１)。

敷地内にある建物の建築年代については、図７のとおりである。このうち、ピアノの製造や歴史に関わる建物についてとりあげ、建物の構造と、新一氏からの聞き取りによる使用状況をあわせて記す。

なお、事務所の建物については、別冊に詳述する。

(１)工場

工場は敷地の西側、旧道沿いにあった。過去の写真では工場の壁面に「松本ピアノ」の文字が書かれ、宣伝効果を持たせていた。工場は大正１３年（１９２４）年頃の建築である。構造は木造平屋建て、小屋組みはトラス構造、屋根は切妻屋根、波板カラー鉄板葺き、２箇所に越屋根があった。この越屋根は、雨の吹き込みを防ぐため、後に低くされたという。屋根の棟瓦は建築当時のものである。壁は古写真によるとアメリカ下見板張りであるが、調査当時には波板カラー鉄板（一部波板ビニールトタン及び板張り）を１枚貼り付けたのみであった。窓は引違い窓、入口は南側にあり、方引き戸で妻入りである。南北の妻部分には通風のためのガラリを設けていた。古写真によると、工場部屋４付近の西壁面に玄関風の入口が見られるが、調査当時は壁になっていた。また、工場の北側３間ほどは後に増設されたものであるという。南東側に張り出した下屋部分の小部屋も後の増設である。調査段階に存在した工場建物の幅は４間（中央部)、奥行き１６間である。

大工は常代の松本（屋号＝やぐら)、左官は浜子の荒井の可能性があるという。

工場内に部屋は５つある。建物の東側には１間幅の廊下が通り、その南端に入口がある。工場の各部屋の間に堅牢な壁はなく、調査当時は柱にベニアを打ち付けて仕切っていた。部屋２のみが特殊な構造と使用状況であり、その使用方法については、前項に述べたとおりである。部屋１の床は、コンクリートのたたきであり、それ以外の床は板張りであった。

(２)工場北東側に所在した建物

かつては工場の北東側に小屋が続き、木工作業場として使用されていた。昭和６０年（１９８５）年頃までは、使われていたというが、その後に解体し、調査当時には大型機械が野ざらしになっていた。地面には、コンクリートのたたきが残っていた。奥行き（南北）は４間、幅（東西）４間であった。

さらに、新一氏幼少期には、その東側に隣接して、２階の建物があったという。この建物の痕跡もあり、奥行き（南北）３間、幅（東西）約１．７間であったことが判明した。木工作業場との接続部分には大谷石が使用されていた。

(３)母屋

母屋は工場の東側にあった。建物は木造平屋の鍵屋で南向き。屋根は寄棟造り、茅葺きで棟に瓦を乗せる。建物の正面には下屋庇を設けている。向かって西に、現在の玄関、東に式台玄関、両者の間を出格子窓でつなぐ。正面はすべてガラスの引違い戸と引き違い窓で、東面の雨戸もガラス戸である。建物は当初西側に張り出し、今よりも広かったものを縮小したという。

この建物は、大正１０年（１９２１）に、松本新吉が旧小川邸を購入した際には、すでに存在していた。購入時に壁を全て落とし、内部に筋交いを入れてから塗りなおしたため、関東大震災で近隣の住居が被害にあう中で、無事であったという（註１）が、筋違いの有無は確認できなかった。震災時の古写真が残っていたが、母屋の被害は少ないように見える。内部の調査は行っていない。

（４）蔵

蔵は敷地のおよそ中心部にあり、建築年代は不明である。建物は木造２階建てで西向き、屋根は切妻造りで、波板鉄板葺きである。小屋組みは和小屋（折置組み）で、地棟に登り梁がのる。東側壁面には窓がなく、南上部から北下部に向けて、１本の筋違いを入れている。外壁面は、漆喰を波板鉄板で覆う。震災時の古写真に写る蔵と同じものかは不明。

間口２間、奥行き３間の建物で、１階には航空廠関係の資料が保管されていた。

（５）倉庫２

事務所と小屋３をつなぐ建物。建築年代は、昭和１９年（１９４４）年である。航空廠の工場疎開のために作られたとされ、工場や事務所の部材と比較すると頑丈な部材が使用されている。建物は木造平屋、屋根は波板鉄板葺きである。南側から西側にかけてＬ字型に床をつくり、それ以外は土間である。調査当時は、改造して車庫として使用されていた。西側は事務所に、東側は小屋３に通じるガラス戸があり、戦時中の航空廠関係者の玄関の役割を果たした場所ではないかという。一段高くなった床の隅に航空廠関係の小引出しなどが残されていた。

（６）小屋３の旧建物

調査当時の小屋３は３代目である。当初はピアノ製作の仕上げのための工場があったようであるが、この建物は戦時中に君津町役場に移築されている。以前、旧庁舎の裏に少し小さな建物があって、これがその建物に該当したという。次に戦時中、航空廠関係の建物が建てられた。この建物は現在の小屋３よりも大きく東に張り出し、航空廠関係の作業をするために使われたという。新一氏によれば、戦時中この建物の東側に変電設備があり、裏側では食事を作っていた記憶があるという。建物は戦後しばらく残っていたが、木更津の海苔商に移築されたという。現在の小屋３は、その跡に建てられ、調査当時は物置となっていた。

（７）その他

敷地の東側（国道側）１/３は、レベルが高くなっているが、これは昭和４２年（１９６７）に完成した国道１２７号線の小山野トンネルを掘削した際に出た土で、盛り土をしたものであるという。

過去には蔵の東側に茅葺の物置きがあり、小屋２のあたりに材料の木などを保管する木小屋があったが火事で燃えてしまったという。

母屋のそばに、上総掘り技術による井戸があった。新井孝男氏の調査によれば「深さ約２８６ｍ（±3）、ＰＨ７．３～７．８位（弱アルカリ）、臭いはほとんどなし、水量はわずかにしみ出す程度。（従って、空気と接触するのでにおいがなくなる。）」であったという。

註

註１　大場南北 著『松本新吉伝』うらべ書房　１９８５

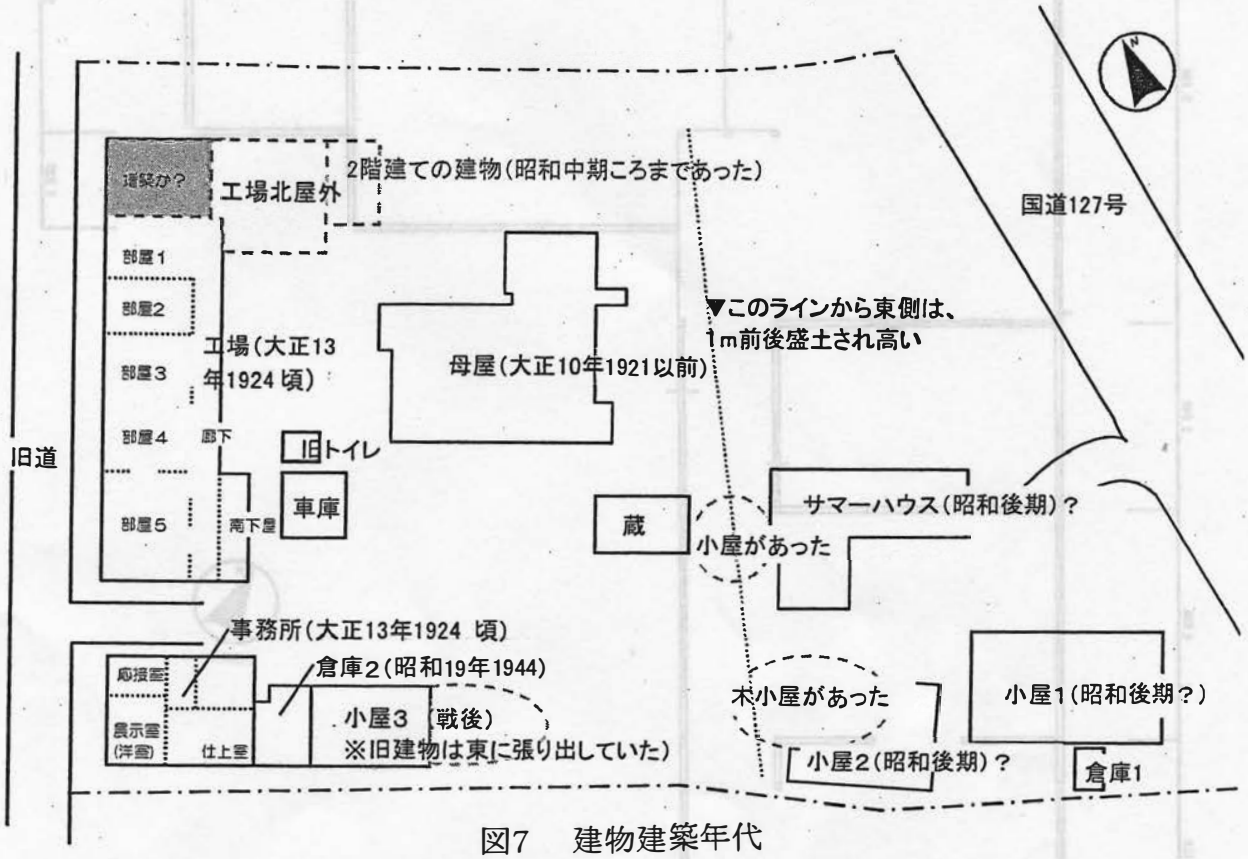


図7　建物建築年代

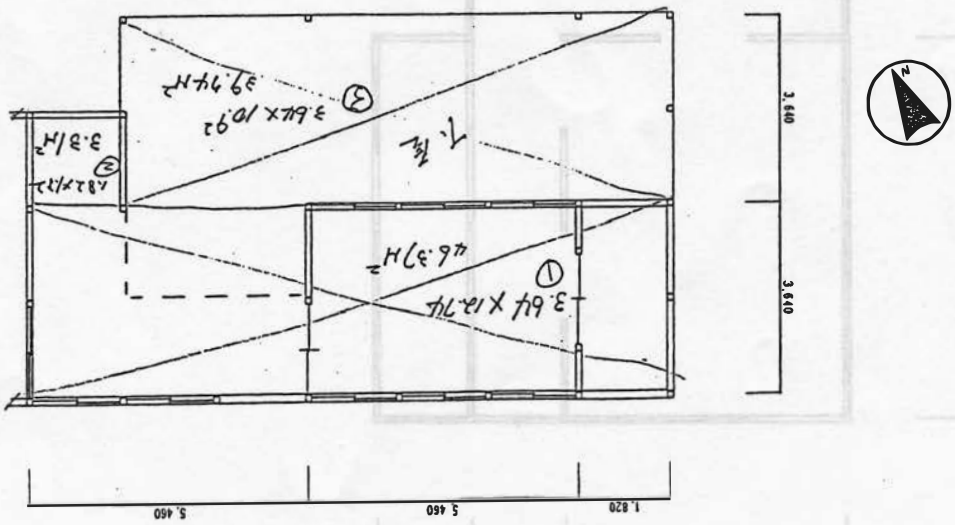


図８　倉庫２・小屋３平面図（Ｓ＝１/１５０）

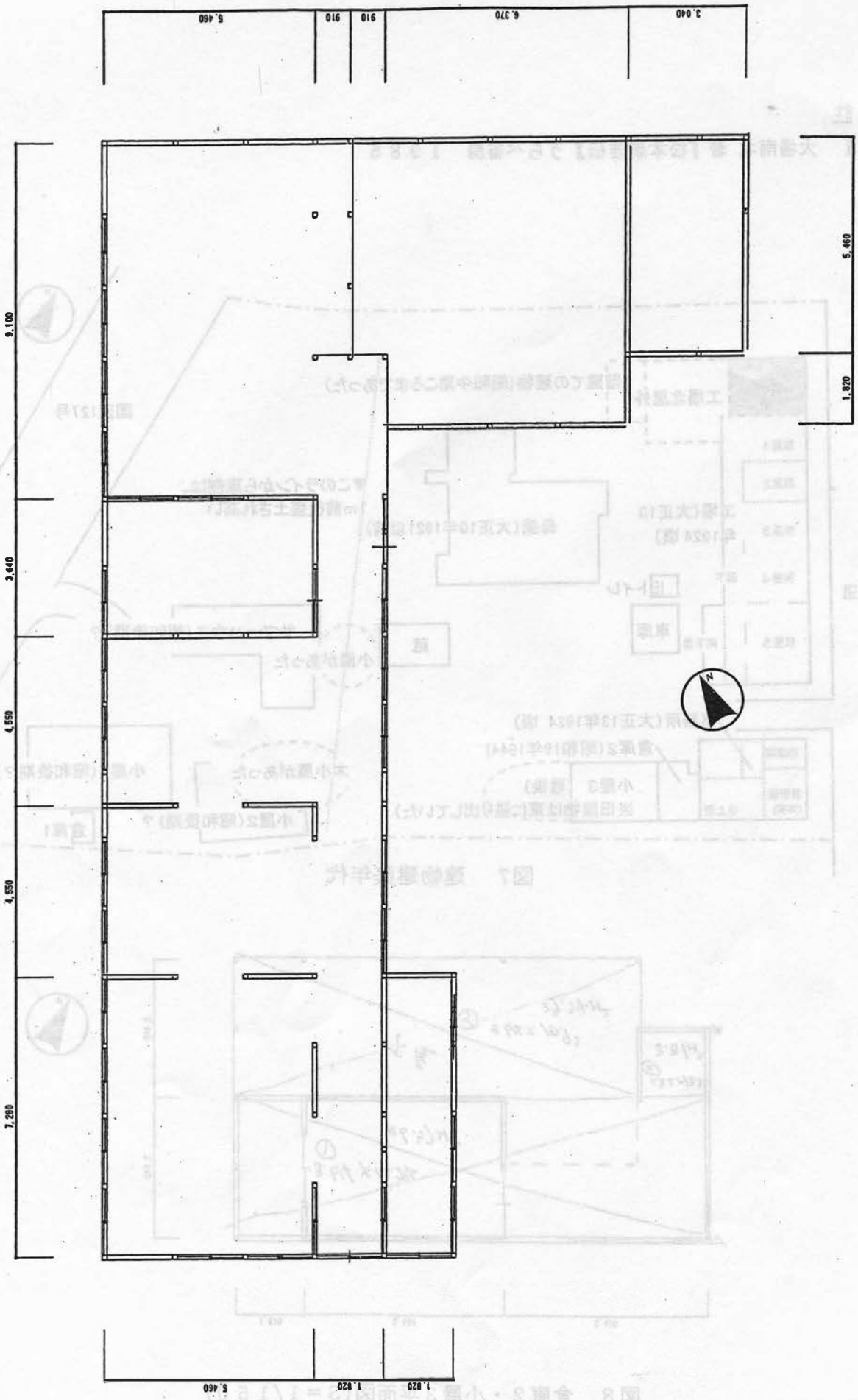
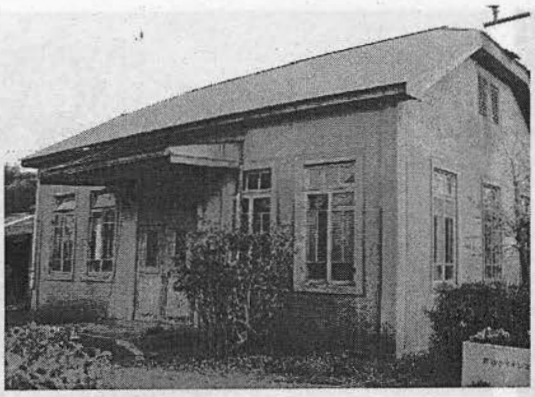
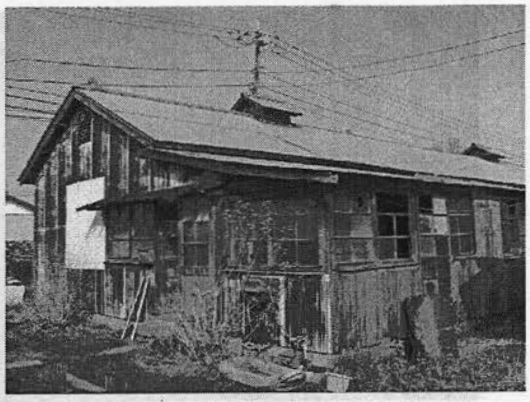


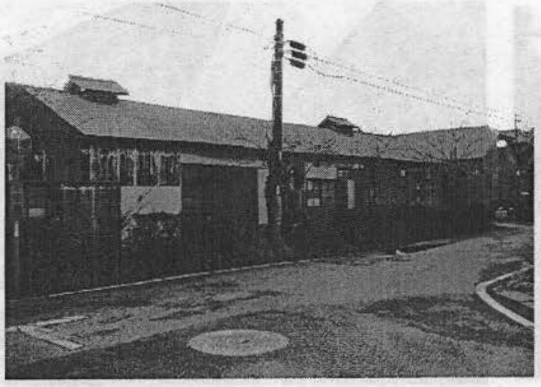
図９　工場平面図（Ｓ＝１/１５０）



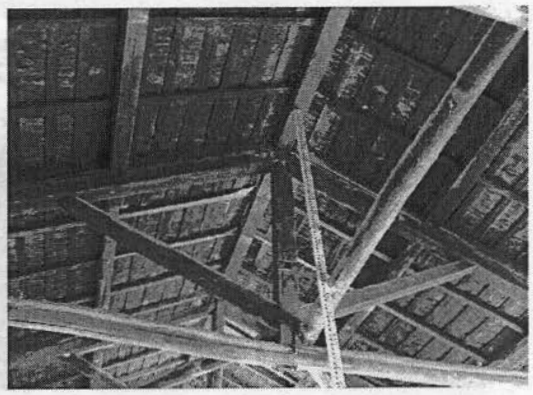
擬洋風建築の事務所



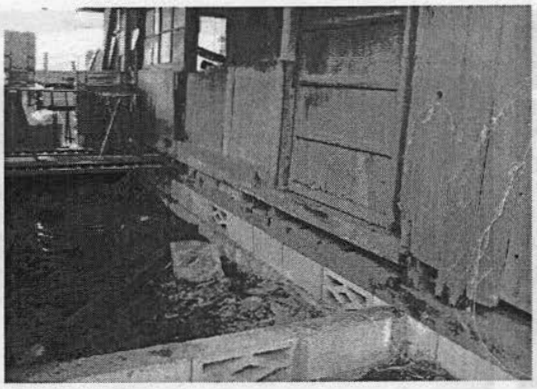
工場の南側壁面と南下屋(右)



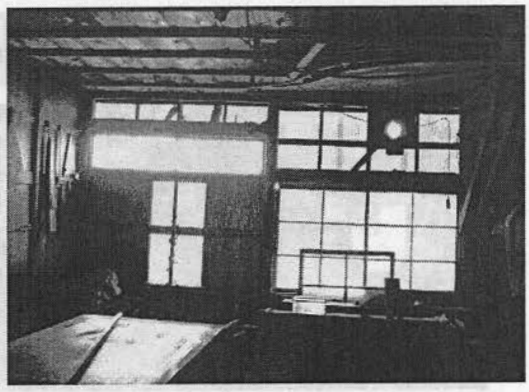
工場の西側壁面



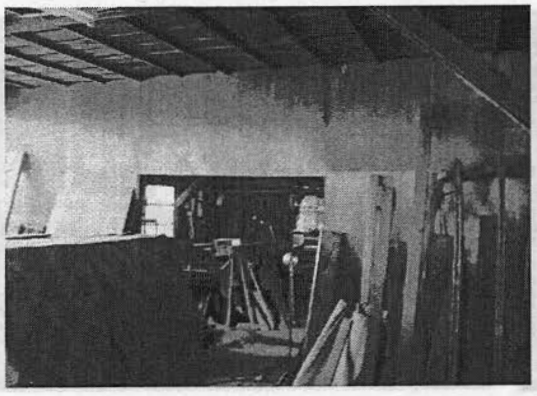
工場の小屋組



工場の基礎

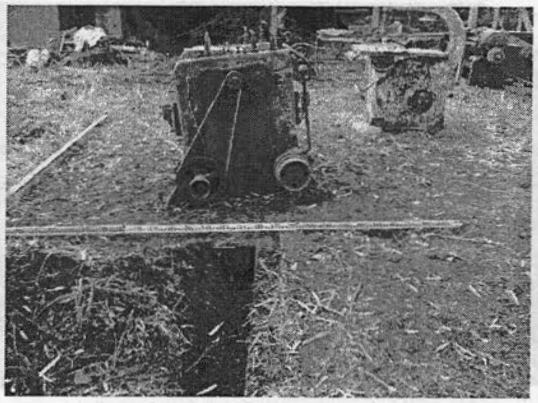


工場部屋４の壁面　過去は玄関カ



工場部屋４・５の仕切り

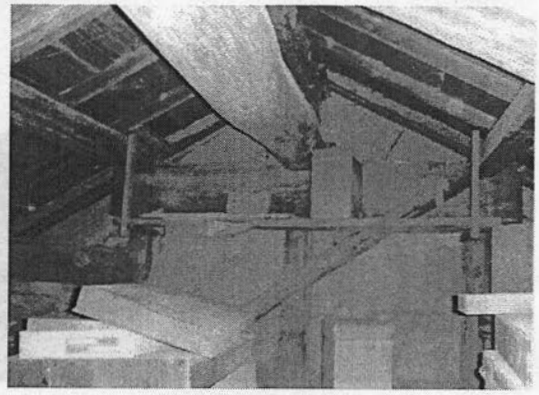
工場部屋１と北屋外の境目



北屋外と２階建物の基礎　スケール部分

茅葺屋根の母屋

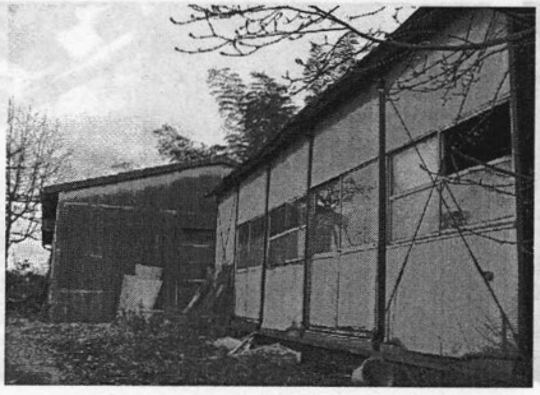
蔵　母屋の南側にある



蔵内部の筋違い

倉庫２

小屋３



小屋１（奥）・小屋２

小屋１・２のある盛土された敷地東側

8　作業空間の変化(図１０)

ピアノ製作に使用された建物は工場と事務所であったが、行程ごとの作業空間は時代により異なったようである。概略をいえば北側が基礎加工の空間であり、完成に近付くにつれて南へ進む。過去には旧小屋３にまで、完成の工程が及んでいたのではないかという。

空間の使われ方を示す手がかりとして、事務所の各部屋の入口に打ち付けられた、名称プレートがあったが、新一氏によればこれは戦後に取り付けたものであるとのことである。

調査期間中に、松本ピアノ工場に関係する３人の方から、異なる時期の部屋の使用状況を聞き取った。以下にその概要を記す。

(１)昭和１９～２０年(１９４４～４５)の戦時中の状況

①当時、木更津高女生Ｂ氏の記憶

工　場：使用していた覚えがない。
仕上室：時計の製作(軍関係か？)。
小屋３：航空廠計器部の計器修理。

②松本新一氏(昭和１０年１９３５生まれ) の記憶

工　場　：航空廠の家具製作。
仕上室　：航空廠の時計製作。
倉庫２　：小屋３への入口。
小屋３　：航空廠の計器修理。
小屋東側：変電設備。
小屋南側：調理場。

(２)昭和３０～３５年(１９５５～６０)頃の状況〔松本和子・剛夫中心の時代〕

・当時、松本ピアノ工場に勤務したＭ氏の記憶

工場北屋外：木工機械作業場。床はセメンのたたき。２階屋はなかった。
工場部屋１：木工機械作業場。大型機械で基礎的な木材加工を行う。床はたたき。
工場部屋２：組み立ての部屋。
工場部屋３：たいこ（響盤）造り。
工場部屋４：鍵盤造り。
工場部屋５：塗装。
事務室　　：事務の部屋。
仕上室　　：調整を行う。
展示室　　：完成したピアノを置く。
応接室　　：応接の部屋。
小屋３　　：建物はあったが使っていなかった。

(３)昭和４８年（１９７３）以降の状況

・松本新一氏の記憶

※松本新一⇒八重原工場２代目松本新治氏の子息で、八重原の松本ピアノ工場３代目を継ぐ。昭和１０年(１９３５)、当地で生まれ、青年期を過ごした後上京する。昭和

４８年頃、当地に戻りピアノ製作を行うが、以前からピアノ製作の手伝いの経験はあった。

工場北屋外：木工作業場。大型機械で基礎的な木材加工を行う。

工場部屋１：木工作業場。大型機械で基礎的な木材加工を行う。

工場部屋２：圧着と乾燥の部屋。響板圧着と、接着した響板やその他の木材の乾燥を行った。

工場部屋３：木工製作室　木の加工（手作業の段階）。カンナかけなど。

工場部屋４：木工製作室。

工場部屋５：木工製作室。

特にどの部屋で何をするとは、決まってはいなかった。

工場南下屋：物置。過去には休憩室だった。

事務所：現在は物置。過去には事務や経理をしたと思う。南東角の戸棚が南西にもあり、仕上室と区切られていたのではないか？電話は事務室にあった（八重原８番）。

仕上室：作業場。アクションをつけるなどの組み立てをする。

整調・整音もしていた。調査時にあった治具は最近まで使っていたもの。しかし昔からのものもあるのではないか。

展示室：作業場と物置。過去には展示室だったのではないか。

応接室：ピアノ倉庫。過去には丸いテーブルがあり、絵が壁にかかっていた応接の部屋。

小屋３：倉庫。昔は仕上げや塗装をしていたのではないか。戦時中は航空廠関係の建物だった。調査当時のものは３代目。

９　その他の資料

（１）会社関係資料ならびに紙製資料（図１１・表４）

会社関係資料ならびに紙製資料として、寄贈された資料を表４に挙げる。これらの資料は、事務室及び応接室を中心に残されていた。

内容はパンフレットや価格表の類が６点のほか、銅版のスタンプ、広告うちわなどの営業に関わるもの、昭和２５年（１９５０）以降の職人の出勤簿、図面や型紙、鍵盤蓋の銘の材料などの製作にかかわるもの、松本新吉や松本ピアノについて掲載されている出版物などであった。

パンフレットなどの年代の同定や、資料内容の分析は行っていない。

（２）市民団体による整理資料（表５）

（１）の資料のほか、松本ピアノ工場の調査前に調査・活用の目的で、市民団体により工場から搬出された表５に示した資料があり、調査期間中に松本ピアノの周知のため、君津市立中央図書館に資料の一部が展示された。

その後、平成２１年度から２２年度にかけて、松本ピアノ・オルガン保存会が、資料整理を実施した。資料は現在、君津市教育委員会で保管している。

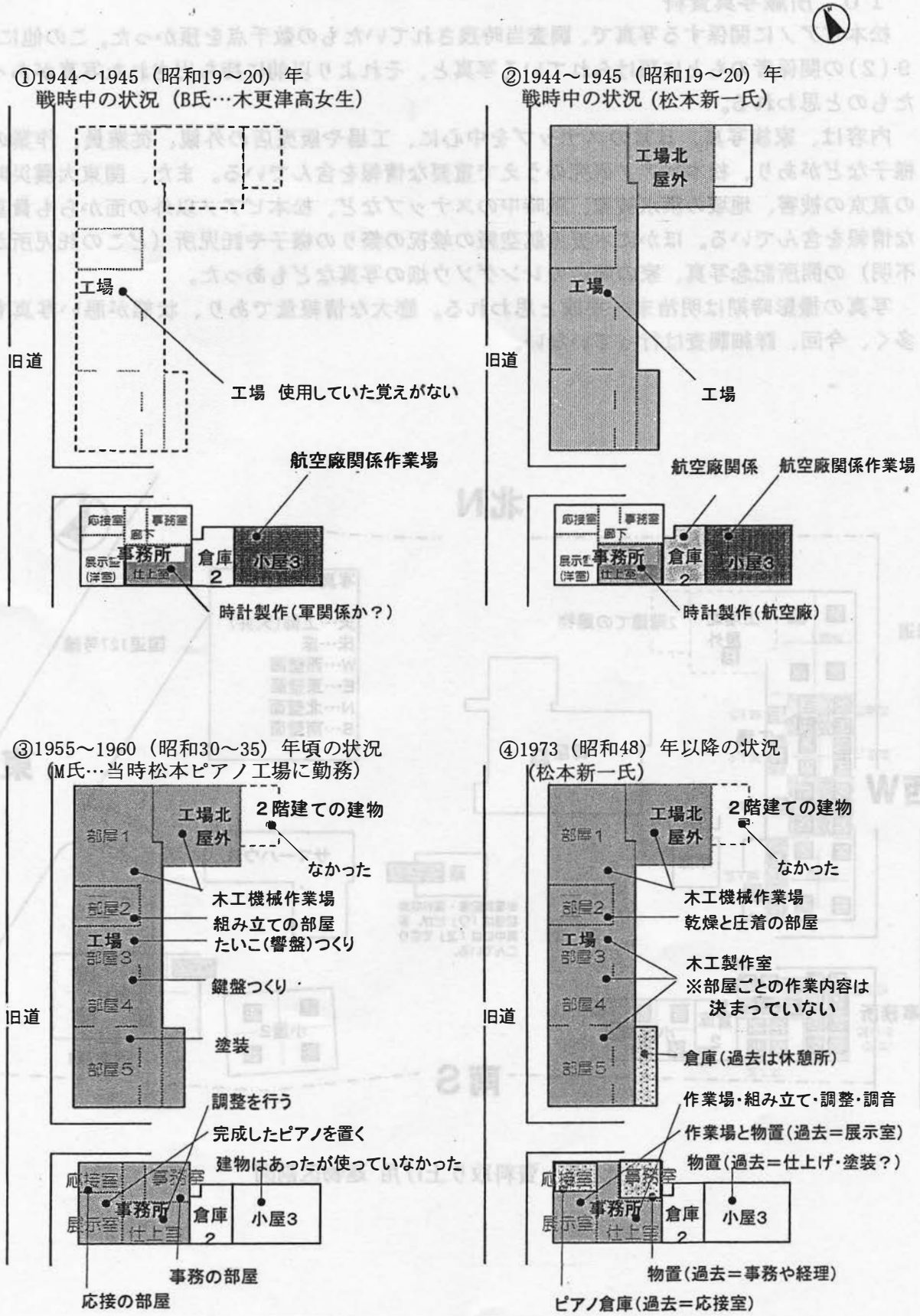

①1944～1945（昭和19～20）年
戦時中の状況（B氏…木更津高女生）
工場
旧道
工場 使用していた覚えがない
航空廠関係作業場
応接室
事務室
廊下
展示室
(洋室)
事務所
仕上室
倉庫
2
小屋3
時計製作(軍関係か？)
②1944～1945（昭和19～20）年
戦時中の状況（松本新一氏）
工場北
屋外
工場
旧道
工場
航空廠関係
航空廠関係作業場
応接室
事務室
廊下
展示室
(洋室)
事務所
仕上室
倉庫
2
小屋3
時計製作(航空廠)
③1955～1960（昭和30～35）年頃の状況
(M氏…当時松本ピアノ工場に勤務)
工場北
屋外
2階建ての建物
なかった
部屋1
木工機械作業場
部屋2
組み立ての部屋
工場
部屋3
たいこ(響盤)つくり
鍵盤つくり
部屋4
旧道
塗装
部屋5
調整を行う
完成したピアノを置く
建物はあったが使っていなかった
応接室
事務室
展示室
事務所
仕上室
倉庫
2
小屋3
事務の部屋
応接の部屋
④1973（昭和48）年以降の状況
(松本新一氏)
工場北
屋外
2階建ての建物
なかった
部屋1
木工機械作業場
部屋2
乾燥と圧着の部屋
工場
部屋3
木工製作室
※部屋ごとの作業内容は
決まっていない
部屋4
旧道
倉庫(過去は休憩所)
部屋5
作業場・組み立て・調整・調音
作業場と物置(過去＝展示室)
物置(過去＝仕上げ・塗装？)
応接室
事務室
展示室
事務所
仕上室
倉庫
2
小屋3
物置(過去＝事務や経理)
ピアノ倉庫(過去＝応接室)

図１０　作業空間の変化

１０　所蔵写真資料

松本ピアノに関係する写真で、調査当時残されていたもの数千点を預かった。この他に、９（２）の関係者のもとに預けられている写真と、それより以前に持ち出された写真があったものと思われる。

内容は、家族写真、日常のスナップを中心に、工場や販売店の外観、従業員、作業の様子などがあり、松本ピアノ研究のうえで重要な情報を含んでいる。また、関東大震災時の東京の被害、地域の洪水被害、戦時中のスナップなど、松本ピアノ以外の面からも貴重な情報を含んでいる。ほかに木更津航空廠の竣祝の祭りの様子や託児所（どこの託児所か不明）の開所記念写真、家の周辺のレンゲソウ畑の写真などもあった。

写真の撮影時期は明治末～平成と思われる。膨大な情報量であり、状態が悪い写真も多く、今回、詳細調査は行っていない。

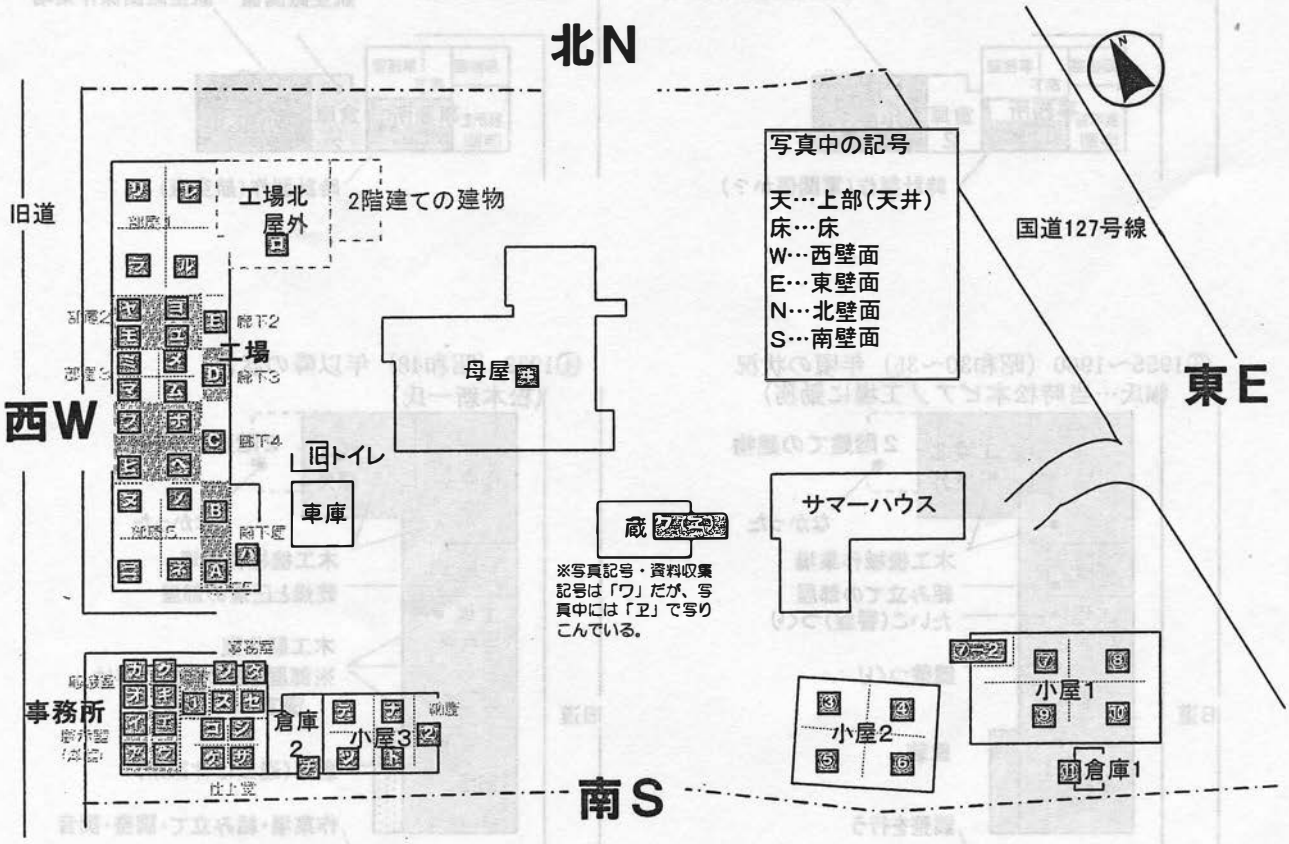


図１１　資料取り上げ用 建物区割図

No.	建物・調査区	資料名	点数	年代	備考
1	事務所応接室キ(南東区)	銅版スタンプ	1		
2	事務所応接室キ(南東区)	賛美歌楽譜集	1	1926？	THE NEW CHURCH HYMNAL
3	事務所応接室キ(南東区)	名鑑 京濱實業化名鑑	1	明治40年？	
4	事務所応接室キ(南東区)	出勤簿(昭和26年～)	1	昭和26年	
5	事務所応接室キ(南東区)	雑誌	3	1931他	「Literary Digest」「THE NATHIONAL GEOGRAPHIC MA」「- THE BIRTH PLACE OF THE WORLD'S -」
6	事務所事務室ソS(北西区南)	和英辞典	1	大正8年	TAKENOBU'S JAPANESE－ENGLISH DICTIONARY
7		全国楽器協会員名簿	1	昭和34年	
8	事務所事務室ソS(北西区南)	チラシ 「MATSUMOTO＆SONS」	3		
9	事務所事務室ソS(北西区南)	神尾式速算法	1	大正6年	
10	小屋1⑩S(南東区南)	ファイル(広告写、原稿、日記、パンフレット)	1式	平成か？	M28広告コピー、M29広告コピー、新吉日記(活字)、スタンウェイパンフレット、原稿
11	小屋2④S(北東区南)	定価表	4		「MATSUMOTO＆SONS」
12	蔵(ワ-38)	パンフレット「ピアノ展」について	1	1953	主催 全國ピアノ技術者協会
13	事務所事務室ソS(北西区南)	カタログ「MATSUMOTO PIANOFORTES」	17		
14	事務所事務室ソS(北西区南)	ピアノ図面	1		パンフレット裏面メモ
15	事務所事務室ソS(北西区南)	銅版スタンプ	3		グランド×2 アップライト×1
16	事務所事務室ソS(北西区南)	うちわ	1		松本ピアノ広告うちわ
17	蔵(ワ-37)	音楽レコード新聞	1	昭和29.4.8	
18	不明	製図帳	1		社名印字
19	不明	グランドピアノマーク	1		H.MATSUMOTO 板に印字
20	不明	エンブレム	1		
21	不明	社銘	2		「ESTABLISHED1892」「FOUNDER SHINKICHI MATSUMOTO 1885-1841」(鋳物)
22	事務所事務室ソS(北西区南)	チラシ 「Matsumoto Piano」	17		3種
23	事務所事務室ソS(北西区南)	ピアノ図面原図	5	1969.4.12	グランドピアノ・アクション図面×1 グランドピアノ巻き線治具図面ほか×4
24	事務所事務室ソS(北西区南)	型紙入れ	1		型紙入り(4箇所)
25	事務所事務室ソS(北西区南)	型紙1	4		
26	事務所事務室ソS(北西区南)	型紙2	24		
27	事務所事務室ソS(北西区南)	型紙3	2		
28	事務所事務室ソS(北西区南)	型紙4	14		型紙図面
29	事務所事務室ソS(北西区南)	社銘(鍵盤蓋の銘)	40		MATSUMOTO＆SONS×5 RICHTONE×10 SICHER×25
30	事務所事務室ソS(北西区南)	その他銘	18		MATSUMOTO PIANO SEIZO K.K.×3 アルファベット単品×15
31	不明	名札	1		MADE IN USA ConeMills686 BLUEWAY

表4　会社関係資料ならびに紙製資料一覧

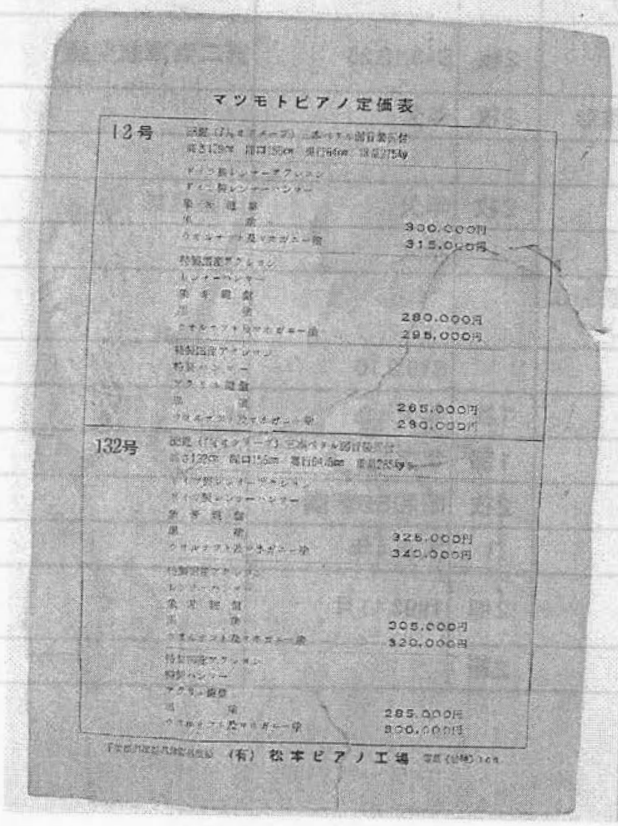
番号	資料名	数量	年代	備考
1	ビルマの竪琴 MDテープ	1	昭和30年	
2	CD ドラマ「君に香る花を」・ユートピアノ「四季」	1		
3	エンブレム s.Matsumoto Piano	1		
4	松本ピアノ広告 アップライトNo.2・4・6 グランドNo.10	3		冊子状
5	書籍『日本のピアノ100年』	1		
6	絵画 松本新吉生家の図	1		新吉三女 光代の作らしい
7	写真額つき 松本ピアノ月島工場	1		
8	写真 明治40年神奈川県師範学校 恩賜松本風琴	1		
9	送り状の板 銀座4丁目松本楽器合資会社宛	1		
10	猫足会席膳8客	1		
11	ピアノ展について 出品一覧表	1	1952年8月	東京上野 松坂屋
12	ピアノ展出品一覧表	1	1953年4月	大阪心斎橋 大丸
13	松本新吉写真額入り	1		
14	写真 ピアノ Matsumoto 額つき	1		
15	ピアノカタログ	1	1952年	
16	ピアノ定価表	1	戦後すぐ	
17	第一回全日本ピアノショー参加記念盾	1	昭和37年	
18	感謝状	1		
19	松本ピアノ店(名古屋販売店) 大きな名刺	1		名古屋
20	銀色松本ピアノエンブレム一式	1式		棒状2・丸型1
21	『オルガンの文化史』	1		
22	『楽器の事典ピアノ』	1		
23	最古巡礼(西川オルガン明治38年製) 週刊新潮記事			
24	松本新吉渡米時の日記コピー	10		
25	恩賜金で購入の松本ピアノ大正村へ(毎日新聞記事)	3		コピー
26	房総の手作り楽器 上総博物館企画展パンフ	4	平成2年	
27	日産経新聞紹介記事コピー	1	平成2年8月1日	
28	朝日新聞この人を訪ねて	1	平成2年5月21日	
29	Gellermqan's International REED ORGAN ATLAS コピー			
30	国民文化祭ちば'91関連(花のコーラス、報道のしおり)			冊状2、広報きみつ
31	君津市民文化ホールオープン号 広報きみつ			
32	東京大正博覧会受賞人名録コピー		大正3年7月10日発行	
33	松本新吉作「紙腔琴」写真 宇都宮誠一氏手紙付			
34	木更津市の主な戦争遺跡			冊状
35	きみつ「房総の技10」 君津製鐵所発行			
36	雑誌Ossa「ひと 手作りピアノを 松本新一」		1991年12月号	

表5 市民団体による整理資料一覧(河井衣子氏作成)

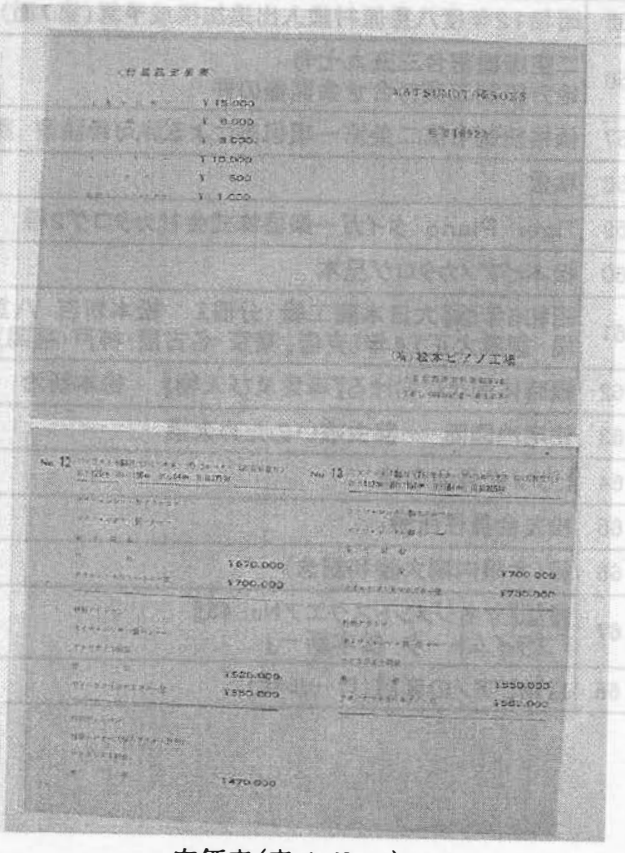
番号	資　料　名	数量	年　代	備　　考
37	戦時中の「航空時計」カタログ	1		
38	西川オルガン、西川ピアノ カタログコピー	8		日本楽器横浜工場
39	「銀座物語」 野口孝一著　中公新書		1997年10月25日	
40	「魯庵の明治」 山口・坪内編 講談社文芸文庫		1997年5月9日	
41	「明治事物起原」 石井研堂著　ちくま学芸文庫		1997年7月10日	
42	松本ピアノ名入りはっぴ反物			
43	賞状（感謝状3枚、推薦状2枚）	5枚		
44	千葉日報『四季・ユートピアノ」撮影報道	1	S55.1.9	
45	読売新聞24面テレビ欄 試写室『四季・ユートピアノ』評	1	S55.1.12	
46	「四季・ユートピアノ」に関する反響コピー NHK佐々木昭一郎	1式	S55.4.16	
47	礼状　NHK番組制作局長 及び佐々木昭一郎	1式	S55.4.10	
48	ピアノの保存について	1冊		
49	昭和29年～昭和33年までピアノ出荷及び昭和41年～ 部品納入台帳			
50	昭和16年度八重原村歳入歳出予算書	1冊	S16.2.27	
51	昭和14年度八重原村歳入歳出決算	1冊	S16.2.27	
52	鈴木恒夫・柴崎安治郎君争議御案内　八重原村		S15.3.11	
53	昭和13年度八重原村歳入出予算書			
54	昭和12年度八重原村歳入出決算			
55	昭和12年度八重原村歳入出追加構成予算（第7面）			
56	二空廠機密台三五九七号 地方統制工業打合せ会開催の件	2枚	S18.10.25	第二海軍航空廠
57	価格統制令第二条第一項但書による許可申請書 雛形	3枚	年欠	
58	私信			
59	Tiger Piano タイガー楽器株式会社カタログ2種	2枚	年欠	山葉良雄
60	松本ピアノカタログ見本	1	年欠	
61	昭和6年版『大日本商工録 分冊』　松本新吉 八重原工 場 創業大正14年（支店、東京・名古屋・神戸・福岡）			
62	戦時体制化における『事業及び人物』　松本新治		S19.3.10	
63	住宅地図面 一部虫喰いのため欠損	1枚	年欠	
64	ピアノ松月会名簿	1部	年欠	
65	松友会員住所録	2枚	昭和55年調	
66	箱（大隈内閣大勝利記念）	1	大正4年	
67	雑誌『マネジメントスクエアNo. 45』 「プライムトーク 松本新一」	2部	1993.11月	
68	自動ピアノの楽譜（ロール状）	2箱		

チラシ(表４-No.22)

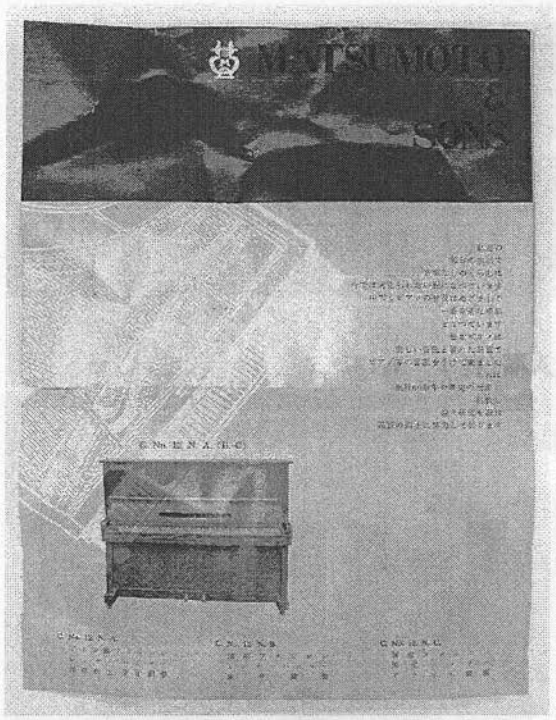
定価表(表４-No.22)



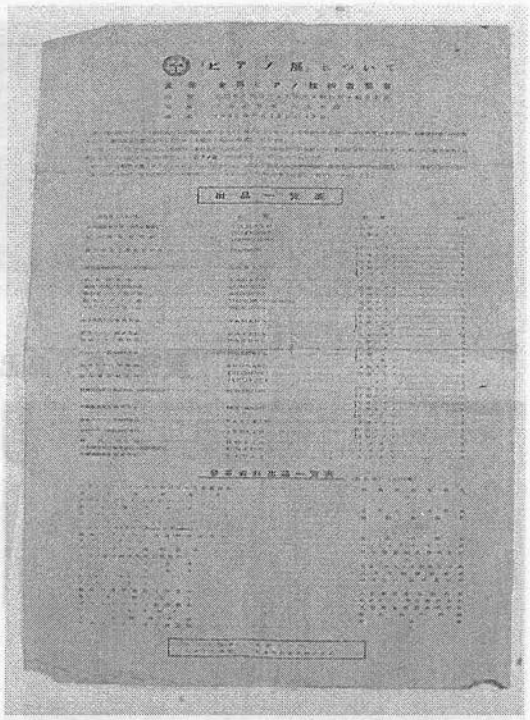
定価表(表４-No.22)



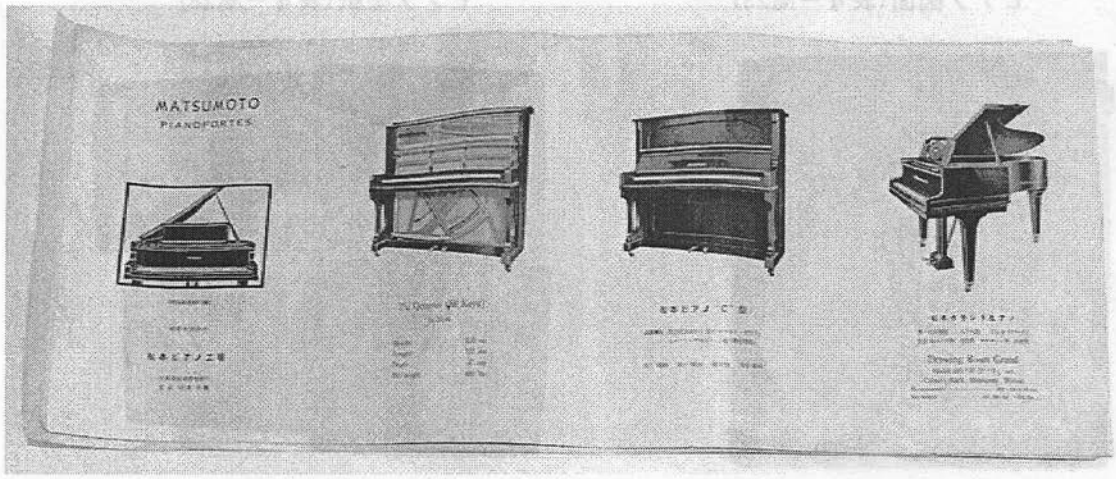
定価表(表４-No.11)



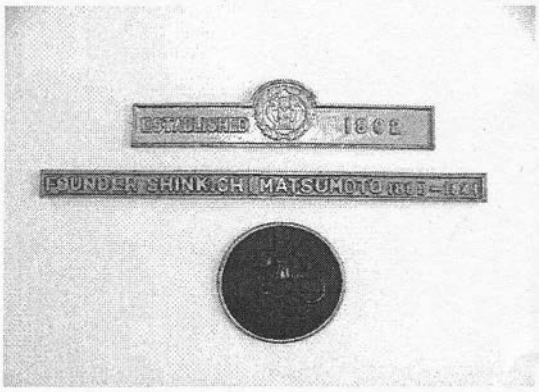
チラシ(表４－No.８)



「ピアノ展」出品一覧表(表４－No.12)

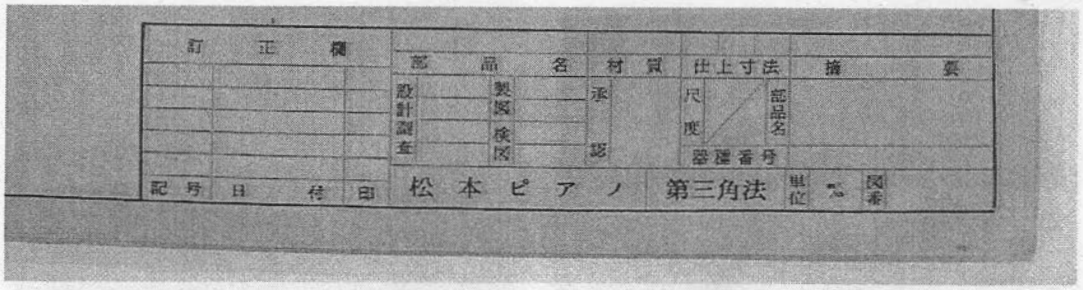


カタログ(表４－No.13)

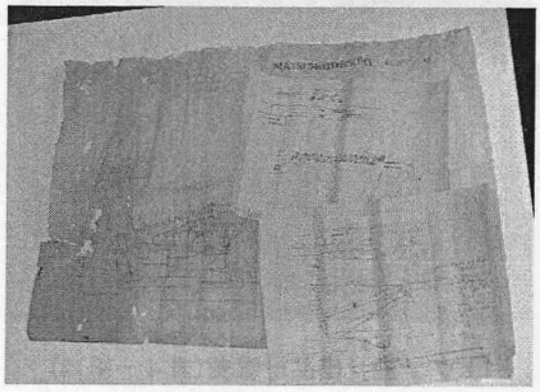


社銘・エンブレム(No.４－No.20・21)

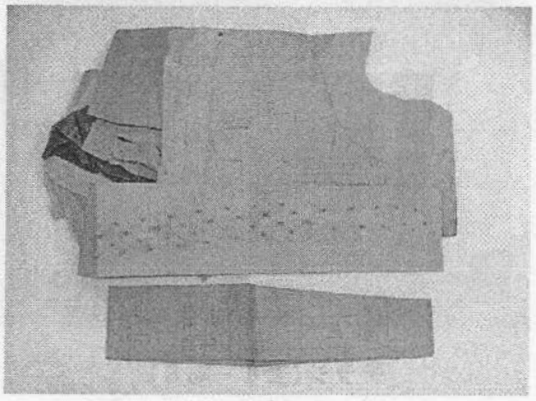
ピアノ鍵盤蓋の銘(No.４－No.29)



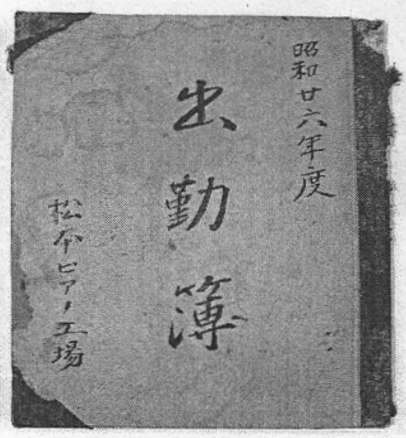
製図帳の下部記入欄(表４－No.18)



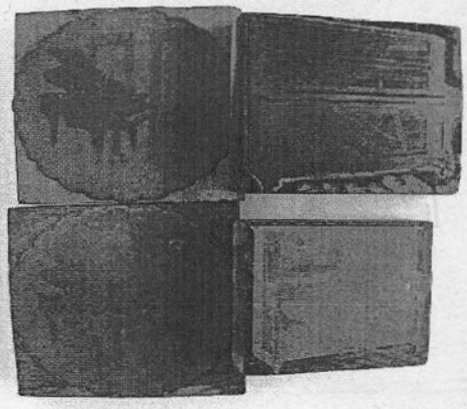
ピアノ図面(表４－No.23)



ピアノ型紙(表４－No.28)



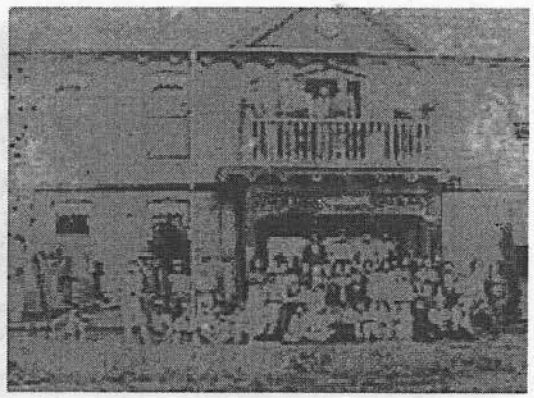
出勤簿(表４－No.４)



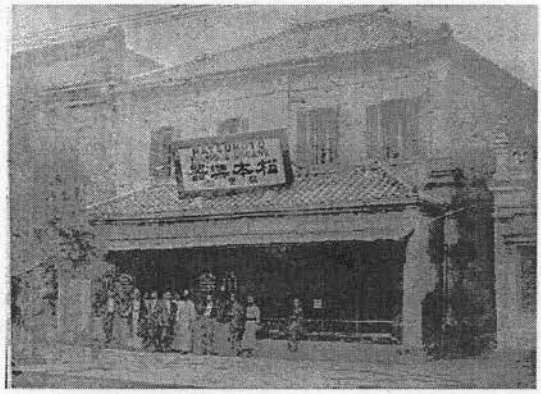
銅版(表４－No.１・15)

全国楽器協会員名簿(表４－No.７)

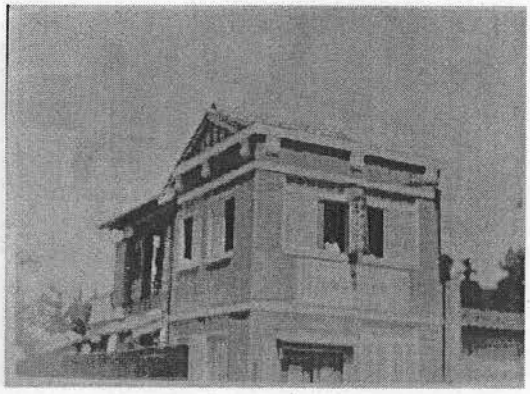
松本新吉 60歳頃



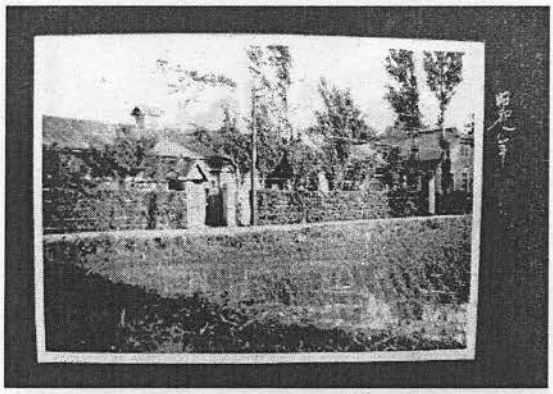
明治39年設立 月島工場



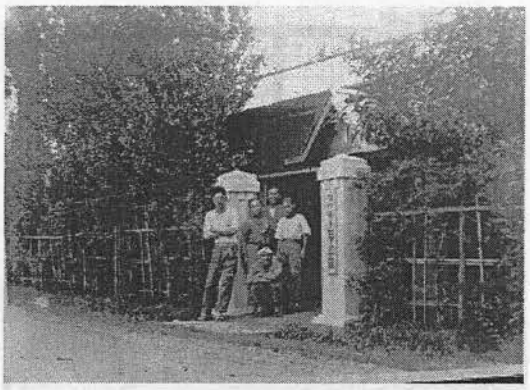
明治37年開店 松本楽器店 現山野楽器店



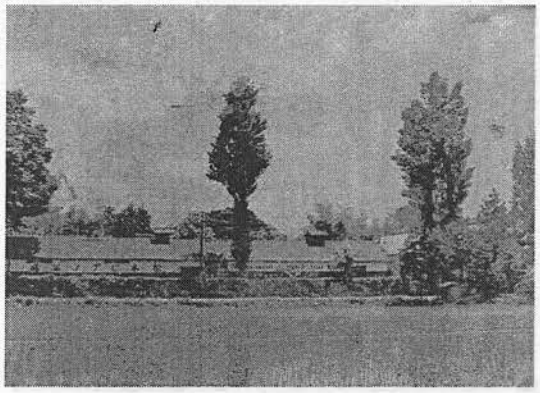
松本ピアノ販売店 場所・年代不詳



県道沿いの松本ピアノ工場 昭和８年

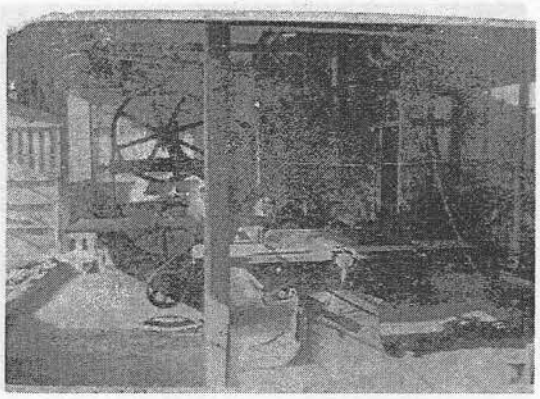


同工場の出入口 昭和８年頃

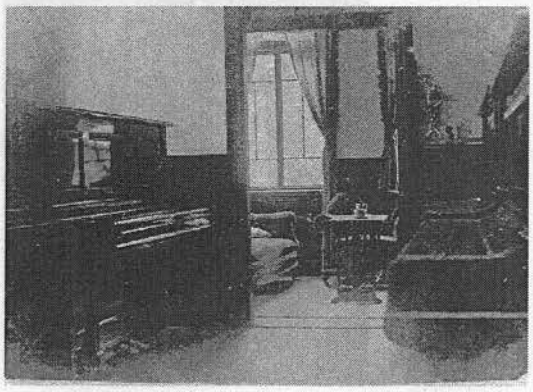


ポプラ並木と工場遠景 昭和11～12年頃

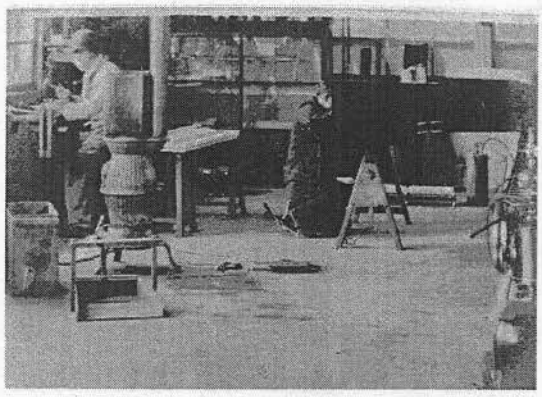
事務所(右)と作業場(旧小屋３) 昭和11年頃



木工作業場　年代不詳

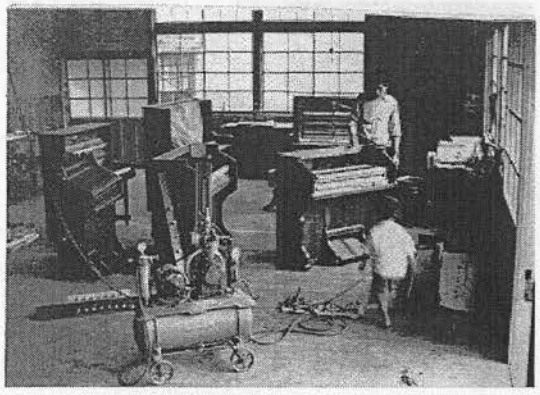


事務所の展示室(手前)・応接室　年代不詳



工場内作業風景　昭和11～12年頃

工場内作業風景　昭和11～12年頃



工場内作業風景　昭和11～12年頃

ピアノ運搬用トラック　昭和11年頃

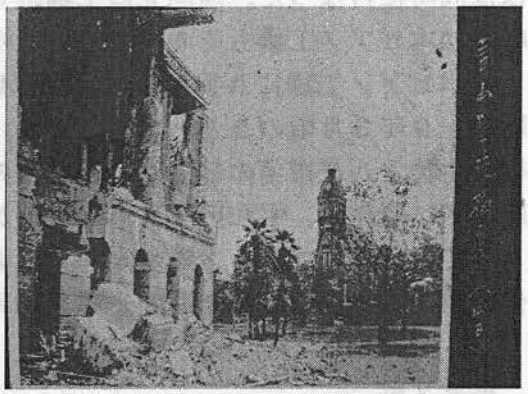
車庫前　昭和21年頃

事務所前　年代不詳

工場出身者　昭和27年

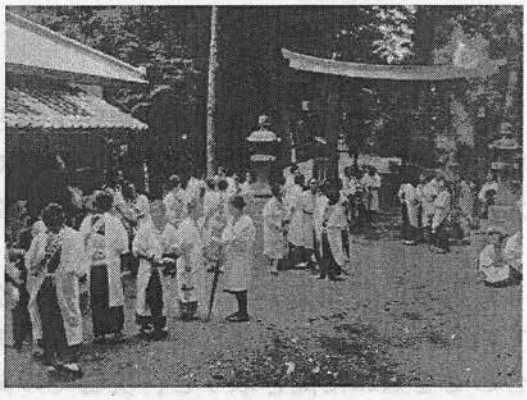
工場前　昭和29年

関東大震災による母屋・蔵の被害状況



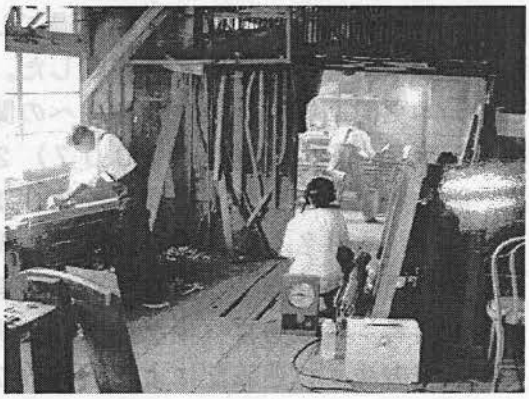
同震災後の青山学院

台風による冠水　昭和12年



八幡神社に集う国防婦人会　年代不詳

NHKﾄﾞﾗﾏ「四季ｭｰﾄﾋﾟｱﾉ」　昭和54年



ﾃﾚｺﾑｽﾀｯﾌﾄﾞﾗﾏ「君に香る花を」平成７年

１１　木更津第二海軍航空廠の疎開

（１）航空廠と松本ピアノ工場への疎開(図１２)

米英開戦を目前に控えた昭和１６年(１９４１)１０月、東京湾の要衝である木更津の巌根に第二海軍航空廠が開庁した。航空廠は海軍の航空機の修理工場であり、補給部・飛行機部・発動機部・兵器部などが置かれていた。昭和１９年(１９４４)当時、全国に１０箇所あった航空廠のうち、第二海軍航空廠は最も規模が大きかったという。太平洋戦争が始まって、航空機の損耗が激しくなると、第二海軍航空廠は八重原村・周西村に八重原工場を建設することを決定する。昭和１９年には、第二海軍航空廠の八重原分工場が稼動するが、戦局が悪化すると、生産力増強のため、木更津高等女学校(現千葉県立木更津東高等学校)等に学校工場を設立するとともに、米軍による本土空襲を避けるための工場疎開をほぼ同時に行なった。疎開先は工場、倉庫、学校、寺院、地下トンネルなどであり、外箕輪の松本ピアノ工場もその一つであった。

松本ピアノ工場に八重原工場兵器部航空計器班(第一工場)の一部が疎開してきたのは、昭和１９年９月頃のこととされている。この航空計器班の修理業務には、木更津高等女学校の生徒と八日市場の敬愛高等女学校の生徒が勤労動員されていたことが判っている。当時ピアノ製作は、平和産業自粛の動きが高まり、物資の不足、工員の出征などから、中断されていたようである。松本ピアノ工場内ではこの時期に時計や家具を作っていたという情報があるが、その製作期間や第二海軍航空廠との関わりなどはよく判っていない。

参考文献

・山崎庸男『増補版　２１世紀の君たちへ・伝えておきたいこと』うらべ書房　２００６

(２)聞き取り調査

松本ピアノ工場の建物群が疎開工場としてどのように使用されたのか、建物が現存する状況で確認すべく、関係者の協力を得て聞き取り調査を行った。ご協力いただいたのは、元木更津高等女学校の女学生３人及び松本新一氏である。

木更津高等女学校（以下「木高女」）の元女学生は、３人とも第３４回生（昭和１７年４月入学、昭和２１年３月卒業）であり、女学生時代のほとんどを戦争の影響下で過ごしている。また、３人とも、松本ピアノ工場に勤労動員された経験を持つ。今回は事前打ち合わせを兼ねた聞き取りと、現場での聞き取りの、２回の調査を行った。

現当主の松本新一氏は、昭和１０年（１９３５）生まれであり、戦時中は松本ピアノ工場内にある自宅で、その少年期を過ごしている。新一氏による情報は、全体の調査期間内に聞き取ったものを集約して記載した。

①元木更津高等女学校　女学生への聞き取り１（事前打ち合わせ・聞き取り）

調査日：平成１９年（２００７）２月１３日

話　者：元木更津高等女学校第３４回生(昭和１７年４月入学～昭和２１年３月卒業)
　　３名。本人の希望により氏名は掲載せず、Ａ氏・Ｂ氏・Ｃ氏とした。

調査員：布施慶子（君津市立久留里城址資料館）

協力者：能城秀喜（袖ケ浦市郷土博物館）

調査方法：口述筆記による聞き取り調査

場　所：Ａ氏宅

内容

松本ピアノ疎開工場に配置された木高女生について

・木高女生は、全員が一旦巌根へ行き、その後各方面に移ったように思う（A氏）。

・話者の３人は皆、馬来田の出身である。

・勤労動員は、昭和１９年（１９４４）９月からである。

・それぞれの動員配置先の移り変わり

Ａ氏（第二海軍航空廠→八重原分工場→松本ピアノ疎開工場（２ヶ月程度）→吉野小学校疎開工場で終戦）

Ｂ氏（最初から終戦まで松本ピアノ工場にいたと思う）

Ｃ氏（松本ピアノ工場で終戦を迎えた）

・終戦時、松本ピアノ工場にいた木高女生は４人（Ｂ氏・Ｃ氏、他に２名）。

・松本ピアノ工場には一時、他に３人のグループがいたが、終戦時にはそのグループは、別の場所で働いていた。

・動員の配置の仕方についての根拠は良くわからないが、自宅の方面ごとに配置されていた可能性もある。

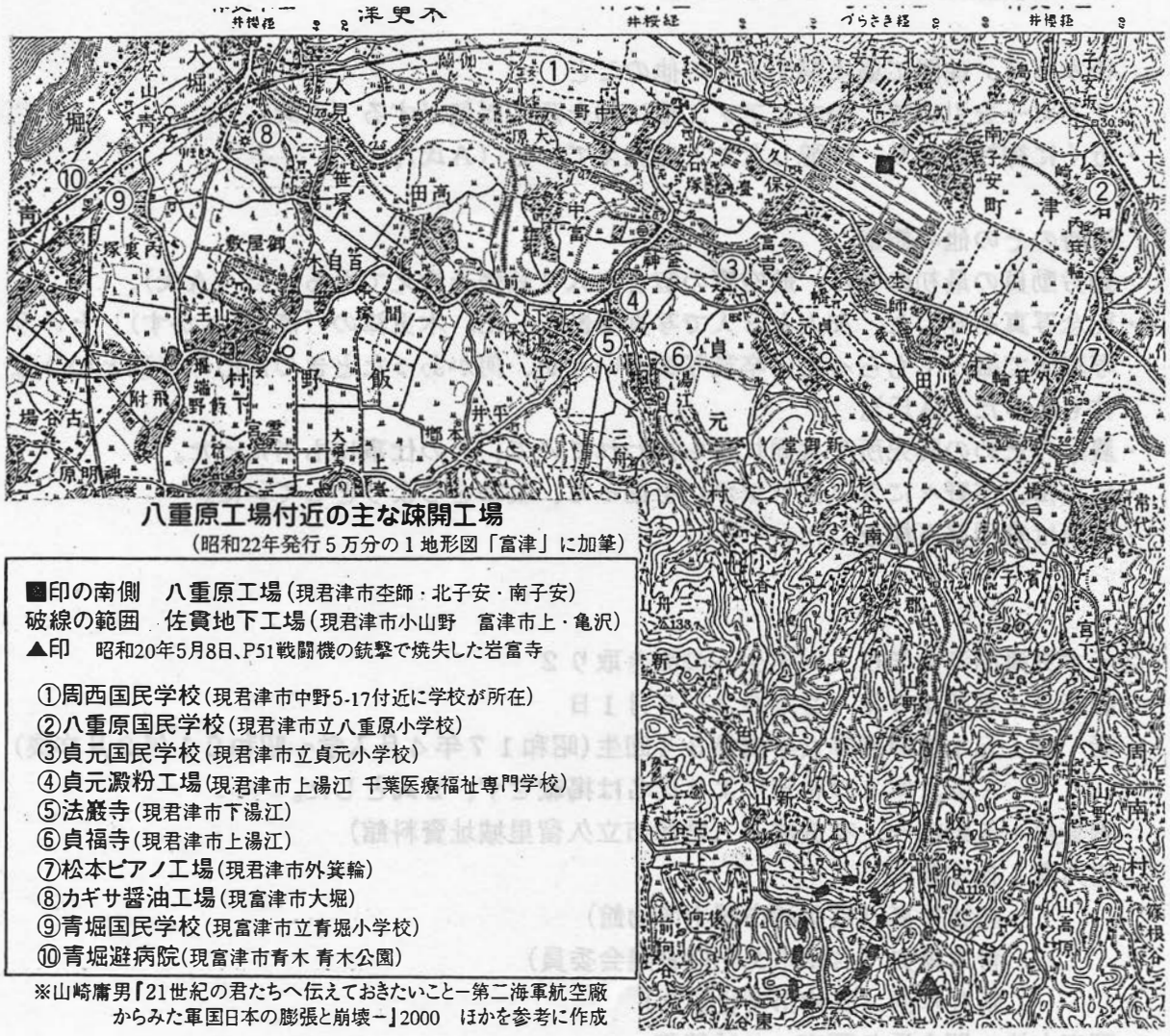


図１２　第二海軍航空廠 疎開工場位置図

松本ピアノ疎開工場への通勤手段

・当初は３人とも久留里線で通っていた（久留里線馬来田駅→房総西線木更津駅→周西駅→ 徒歩 →松本ピアノ工場）

・終戦間際の２週間位は、馬来田から自転車で通った（Ｂ氏のみ）。終戦間際には、久留里線が止まることが多くなり、家に帰れなくなってしまうために自転車通勤にした。

・馬来田の駅前から山内時計屋さんなど２人、富岡から若い人が１人、松本ピアノ工場に通っていて、自分は自転車に乗れたため、一緒につれて行ってもらった（山内時計屋さんたちは木高女生の動員とはまったく別口で、松本ピアノ工場で時計を作っていた。※修理の可能性もある）。自転車通勤は、馬来田→祇園→子安坂→松本ピアノ工場のルートで、１時間位かかったのではなかったか？７時頃、自宅を出ていたのではないか？

松本ピアノ工場での作業

・飛行機の計器類を直していた。

・出来上がると検査する装置があって、自分で検査をした。

・こんな検査で大丈夫か？と思った。

松本ピアノ疎開工場に関するその他のこと

・リアカーを引いて、松本ピアノ工場に物を運んだ気がする（Ａ氏）。

・近くに神社があり、休憩したことを覚えている（Ａ氏）。

当時のその他の記憶

・勤労動員の最初の頃は、航空廠の宿舎に入り勉強を教えてもらった（Ａ氏）。

・記念写真を写した。友人と３人で写真撮影をした。木更津の「高洲(たかす)」という写真店で撮ってもらった。卒業写真というか、何かあったときのための写真という意味もあった（Ａ氏）。

・農家のための託児所や共同炊事も行われていて、その仕事にも当たった。

・馬来田、市野々に穴（タコツボ）を掘って、攻撃をしようとしていた。

・戦後は集団登下校をした。

②元木更津高等女学校　女学生への聞き取り２

調査日：平成１９年（２００７）３月１日

話　者：元木更津高等女学校第３４回生(昭和１７年４月入学～昭和２１年３月卒業)
　　１名。本人の希望により氏名は掲載せず、Ｂ氏とした。

調査員：矢野淳一・布施慶子（君津市立久留里城址資料館）

協力者：松本新一
　　能城秀喜（袖ケ浦市郷土博物館）
　　青木重夫（君津市文化財審議会委員）
　　新井孝男（君津市文化協会）

調査方法：聞き取り調査　口述筆記

場　所：松本ピアノ工場
内　容
Q)木高女時代、入学の年は？
A)昭和１７年（１９４２）に入学した（３４回生)。

Q)当時の自宅の場所は？
A)馬来田。

Q)木高女時代の服装について
A)最初はスカート、次にモンペ、動員時は麻のような服を着ていた。血液型などを書いた札を縫い付けていた。

Q)動員の配属先は？
A)最初から終戦まで松本ピアノ工場にいた(他に配属された記憶はない)。兵器部の航空計器の担当ということだと思う。学校が工場になったという記憶は自分にない。

Q)松本ピアノ工場の印象は？
A)印象など考えたこともなかった。

Q)松本ピアノ工場では誰が働いていたか？
A）①監督する立場のような人（１人）
②女子挺身隊（２人で、一人は三島のナルトさん）
③木高女生（４人…終戦間際）
①～③が航空廠計器類修理関係者か？
④時計関係の作業をしていた人（５～６人かそれ以上、そのうち馬来田の人が「山内時計店」の人を含めて２人いた。富岡のクワダさん（ではないか？）もいた。）家具については。作っていたかどうか判らない。工場の建物についての記憶は、全くない。

Q)作業の内容は？
A)飛行機の計器類の分解、洗浄、組み立て。高度計・速度計・昇降度計・給圧計・油圧計・圧力計？など。修理の方法などは特に教えてくれない。監督のような人から、朝壊れた計器と部品を渡され、分解・洗浄し、(取れている部分や悪い部分は取り変えたりする）分解して同じように組み立てるだけ。自分で部品を選んだり、取りに行ったりすることはない。直し終わると装置を使って自分で検査をした。装置の使い方は、計器を機械の中に入れ、目盛りが所定の位置にくれば「合格」ということだった。「本当に直ったかどうかわからない」というと、「飛び立てればよい」といわれた。

Q)工具を使うことや、こうした修理を難しいと思わなかったか？
A)父が機械などを早くから事業に取り入れていた関係で、自分も機械作業を見なれていた。自分は比較的、抵抗なく作業したが、他の木高女生から、修理の方法をたずね

られたこともあった。
Q)使用していた工具で覚えているものは？
A)「ネジ回し」位しか覚えていない。小さな金槌を使ったか？その程度の工具でできる仕事だったのではないか？動力を使う機械類などは使っていない。

Q)計器類の担当と、時計を作る人が入り混じっているのか？
A)時計は時計、計器類は計器類だった。木高女生は計器類の方だけに携わった。

Q)工場内で、計器類を修理していた場所はどこか？
A)事務所から続く建物内（旧小屋３）で修理していた。南側に寄せた机に向かい（南側を向いて)、作業をした。ガラス越しに事務所（の仕上室）に、時計を作る人たちが見えた。

Q)松本ピアノ工場に現在まで残っていた資料（写真で照会）の中に、見覚えのあるものは？
A)あまりよく覚えていない。圧力計と油圧計（の写真）は見たことがある。

Q)勤務のきまりなどについて
A)朝の出勤簿のようなものはなかったと思う。
昼休みはあった。サイレンが合図だった。
外に出てレンゲ草畑で休んだ。
昼食については良く覚えていない（配布されたか？弁当を持参したかなど)。
給料はもらっていなかったのではないか。
何をやっているかしゃべってはいけなかった。

Q)松本ピアノ工場までどうやって通ったか？
A)最初は久留里線で通った。木高女生は前方の１両分に乗ることが決められていた。男子（中学生）は後方１両分に乗るよう決められており、間に緩衝地帯があった。同じ車両に乗ってはいけなかった。
　終戦間際になると、久留里線がよく止まるようになったので、自転車で通うようになった。馬来田→百目木→祇園→子安坂→松本ピアノ工場。馬来田の山内時計店さんや、富岡の人が誘ってくれ、一緒に通っていた。子安坂がきつかった。

Q)工場周辺で覚えていることは？
A)衣料切符をもらって、工場の近くの店に買い物に行ったが、たいしたものは何もなかった。仕方なく何かの紐を買ったのを覚えている。

Q)空襲警報がなったことはあったか？
A)空襲のサイレンが工場にあった。サイレンが鳴るとレンゲ畑に逃げた。

Q)動員中に勉強を教えてもらったことは？

A)ない。３年３組の小倉先生が、仕事の様子を見に回ってきたかもしれない。
Q)終戦をどこで迎えたか？
A)自宅で玉音放送を聞いた。当時はまだ松本ピアノ工場に動員されていたが、その日は家にいた。学校は９月１日から始まった。

Q)その他に戦時中の思い出は？
A)ただ一生懸命にやっていた。

③松本新一氏への聞き取り
調査日：平成１９年（２００７）１月から２月の間に随時
話　者：松本新一氏
調査員：矢野淳一・布施慶子（君津市立久留里城址資料館）ほか
調査方法：口述筆記による聞き取り調査　等
場　所：松本ピアノ工場
内　容
・戦時中、工場の建物では家具を作っていた。
・事務所の建物では時計を作っていた。
・いずれも、航空廠の人が使うために作っていたものではないかと思う。事務所の仕上室南側の窓は、そのために外光を多く取り込めるよう改造されたものである。
・事務所に続く建物では航空廠の計器類の修理をしていた。平屋建てで大きな屋根だった。入口が２箇所あったのではないか？建物の東側の端は変電設備になっていた。
・事務所に続く建物の裏に炊事場があって、そこで働く人の食事を作っていて、食事時にいい匂いがしたのを覚えている。
・工場の建物の腰屋根部分に、空襲のサイレンが付いていた（戦後、それは君津町へもっていった）。電話をひいていたので、電話連絡を受けてサイレンを鳴らしたのかもしれない。

（３）残留資料（表６）
松本ピアノ工場内には、航空廠に関係する資料、及び関係すると「思われる」資料が多く残されていた。こうした資料は他の疎開工場でも残留の例が報告されておらず、戦争の様子を物語る貴重な例といえる。こうした資料の中から、表６の資料と、数点の追加資料を受贈した。大型の機械、机など保存できなかったものや、今後もピアノ製作に使用するために、新しい作業スペースに移動されたものがある。収集と識別には、航空廠や八重原分工場にやはり学徒動員などされていたボランティアの協力を得た。
資料の中で、計器類としては、バキュームゲージ・圧力計（昭和１４．６　田中計器製ほか）・油圧計（２号耐寒　田中計器製）・電流計（Ｓ１７年製　竹本電気製ほか）・定針儀（昭和１６年６月製造）などが確認されている。
これらの修理のために使用されたと考えられる工具及び材料としては、材料箱（ネジ類入り）、工具箱（ヤスリ入り）、ドライバー、コイルなどである。
また、基礎的な備品として、作業机、小引き出しなどが残されていた。小引き出しは

数字で区分されていた。工場部屋３にあった机は航空廠関係のものではないかといわれる（新一氏)。後に足を切り、低くしてピアノ用に使用された。

その他に、モーター、トランス(変圧器)、航空エンジン発動機部品？、射爆照準器のガラス？、発電機、電熱器(日本電熱機器製造所製ほか)、整流子電動機(理研発動機(株))、真空ポンプ、電動ドリル、ふいご、顕微鏡、トーチランプ、丸いガラス（時計用か？）といった資料が残されていた。

工場北屋外の大型機械類が航空廠関係のものと伝えられているが、木材加工用であり、計器修理との関連は不明である。戦時中に家具製作をした可能性が伝えられているか、家具製作のため戦時中に使用され放置されたものか、あるいは戦後に払い下げられたものかなどは判っていない。

これら３８点の中には、木高女生などの扱った計器類に関わる資料とは、直接関係ないと思われる資料もある。戦時中の時計や家具製作のための資料との分別も難しい。また本業であるピアノ製作関係資料である可能性、あるいは戦後の払い下げ等の可能性も含め、今後の分析が必要である。

また、全体の資料を通して、航空廠の備品識別のために所属等が書き込まれたものが６点見られたので記しておく。書き込みは「第二工場　第二班」「兵三工場　内空機２０３３」「空含計器室」「兵７―１８～２３２　戸棚No９」「第貳■」「兵一工場」であった。

また、戦時中に航空廠関係で作らされていたのではないかとされる家具として、工場部屋３に収納棚が置かれていた。

（４）解説

第二海軍航空廠の松本ピアノ工場への疎開は、昭和１９年（１９４４）９月以降と考えられる。疎開した部局は八重原工場兵器部の航空計器班の一部とされており、実際に航空計器類の分解・洗浄・調整が行われていたことが、聞き取り及び残留資料から推察できる。航空計器班は、「第一工場」とされているが、残留資料に書き込まれた備品の所属とは必ずしも一致していない。

航空計器班の修理業務に携わっていたのは、今回の聞き取り調査によると、木高女第３４回生のほかに、女子挺身隊と、その監督の立場の人のようである。木高女生の配置には入れ替わりがあり（松本ピアノ工場から吉野小学校へ異動となった木高女生がいる)、同じ顔ぶれで最初から最後までいたわけではないようである。終戦時に松本ピアノ工場に配置されていた木高女生は４名であった。

航空計器の修理業務を行っていた場所は、事務所から続く平屋の建物の内部と考えられる。この建物は戦後木更津の海苔商へ移築されたという。

松本ピアノ工場内ではその他に時計や家具を作っていたという情報がある。時計関係の作業は、少なくとも終戦直前には、事務所仕上室において行われていた証言がある。仕上室の南側の窓は採光用に改造されており、窓際に寄せられた机で作業が行われていたと考えられる。馬来田の「山内時計店」の関係者が作業に携わっていた様子である。時計の使用目的、製作が始まった時期、及び航空廠との関わりの詳細は不明である。家具製作については、資料と証言が少なく、やはり不明の点が多い。

この他に、松本ピアノ工場には防空サイレンがあったことが判った。サイレンは工場建物内に取り付けられており、戦後は君津町で使用されたという。

木更津高等女学校第３４回生についての補足

袖ケ浦市郷土博物館　能城秀喜
※現在、袖ケ浦市平川公民館

木高女第３４回生は、学生時代の殆どを太平洋戦争の影響下で過ごしており、木高女の動員学徒の中でもこの学年が最も多く疎開工場に配置された。第３４回生の生徒数は、入学時は１５０名であったが、戦局の悪化により都市部から疎開してきた生徒の転入が相次ぎ、昭和１９年9月１５日の第二海軍航空廠入廠時（３年生）には１８４名に増加している。参考までに、『千葉県教育百年史』第２巻に掲載されている木高女の昭和１９・２０年度生徒異動表をみると、木高女は昭和１９・２０年度の２年間で転入者４１９名（うち第３４回生は７８名）、転出者・退学者・死亡者１０７名、差し引き３１２名の生徒が増加している。昭和２０年４月から８月までだけみると転入者１９３名、転出者・退学者・死亡者２０名であり、転入者だけに限ると１か月の平均転入者数は３８．６名、１日平均１名以上が転入していたという驚異的な数字が算出される。

第３４回生に動員令が下ったのは昭和１９（１９４４）年9月１４日で、学校は午後１時から壮行式を行なった。第３４回生たちは、９月１５日の午前７時５６分巌根駅着の列車に乗って第二海軍航空廠巌根工場に入廠し、直ちに身体検査が受けた。この身体検査では不合格者が２名いたが（『千葉県教育百年史』第２巻）、第二海軍航空廠の上部組織である横須賀海軍鎮守府に配属され、事務作業に従事させられている。残る１８２名は、２１名が巌根工場、１６１名が八重原分工場に配置された。八重原分工場により多くの生徒が配置されたのは、第３４回生入廠以前に勤労動員されていた同校第３３回生が、既に巌根工場に配置されていたため、八重原分工場のほうがより多くの人手を必要としていたからだと考えられる。木高女は、千葉県立木更津中学校（現：千葉県立木更津高等学校）とともに、昭和１９年１１月２５日に第二海軍航空廠巌根工場配下の学校工場となる。しかし、当時第３４回生は勤労動員中であり、昭和２０年の学芸会（２月１１日、紀元節）に全校生徒が登校したものの（根本磯子　「昭和２０年を顧みて」　平成７年）、母校が学校工場と化している実情は知らなかった可能性がある。終戦後、２学期が開始したのは9月１日である。彼女たちが木高女を卒業したのは昭和２１（１９４６）年3月２７日で、この時の生徒数２２７名であった。

Ｂさんは、久留里線での通勤状況について「列車では、木高女生は前方１両分に乗ることが決められていた。男子（中学生）は後方１両分に乗るよう決められており、間に緩衝地帯があった。同じ車両に乗ってはいけなかった。」と証言している。当時、久留里線で通学していた木更津中学校第４３・４４回生の飯山英雄氏は、『四方ヶ原の誌』において「汽車通学はＳＬ貨客混合３輌編成の久留里線で何時も最後部だ。帰りは恐い。半輌に全員押込まれ鎧戸を閉め、校歌斉唱や木中魂を叩き込まれる。」と回想している。

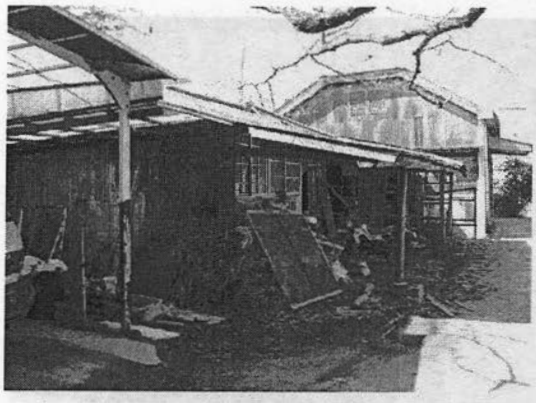
参考文献

・千葉県教育百年史編さん委員会　1974年３月　『千葉県教育百年史』第２巻　通史編（大正・昭和Ⅰ）
・千葉県立木更津東高等学校　1981年３月　『創立７０周年記念誌』
・根本（旧姓：安井）磯子　1995年８月　「昭和20年を顧みて」『市民の戦争体験文集』　鎌ヶ谷市
・飯山英雄　1999年11月　「奪われた青春」『四方ヶ原の詩　回想・戦中の中学生の生活』木中山紫会古稀記念冊子作成実行委員会
・山崎庸男　2006年12月　『増補版　21世紀の君たちへ・伝えておきたいこと　―第二海軍航空廠からみた軍国日本の膨脹と崩壊―』うらべ書房

資料番号	建物	名称	備考
ワ-1	蔵	エンジン部品発電器	
ワ-2	蔵	トランス	
ワ-3	蔵	モーター	
ワ-4	蔵	電灯笠	8ケ
ワ-5	蔵	整流子電動機	理研発動機(株)
ワ-6	蔵	ラジオ	
ワ-7	蔵	顕微鏡	箱入り
ワ-8	蔵	工具箱	
ワ-9	蔵	航空エンジン発動機部品	
ワ-10	蔵	不明品	「兵三工場内空機2033 №25」
ワ-11	蔵	ラジオシャーシー	3ケ組
ワ-12	蔵	工具箱	ヤスリ入り
ワ-13	蔵	ロカ器部品	
ワ-14	蔵	電熱器	日本電熱機器製造所製(100V-100W)
ワ-15	蔵	計器(圧力計)	S19/製造
ワ-16	蔵	バキュームゲージ	空含計器室
ワ-17	蔵	定針儀	S16年6月製造　航空計器
ワ-18	蔵	圧力計I型	S14.6田中計器製
ワ-19	蔵	電流系	S17年製　竹本電機製
ワ-20	蔵	油圧系	2号耐寒　田中計器製
ワ-21	蔵	コイル	
ワ-22	蔵	電動ドリル(部品)	ミズホ製
ワ-23	蔵	計測器	2点
ワ-24	蔵	油圧計パイプ(?)	
ワ-25	蔵	2連パイプ	計器の一部
ワ-26	蔵	部品(ジャイロ?)	
ワ-27	蔵	木製コイル(?)	「第二工場第二班」
ワ-28	蔵	エアー関係部品(?)	
ワ-29	蔵	真空ポンプ	
ワ-30	蔵	反射式電熱器	
ワ-31	蔵	コイル材料	糸巻状
ワ-32	蔵	ベルト	空含計器室
ワ-33	蔵	マイクロメーター	
ワ-33	蔵	材料箱	
ワ-34	蔵	コイル	
ワ-35	蔵	トーチランプ	空含計器室
ワ-36	蔵	懐中電灯	木製
チW-1	倉庫2南東区西	フイゴ	2台
チW-2	倉庫2南東区西	小引出し	

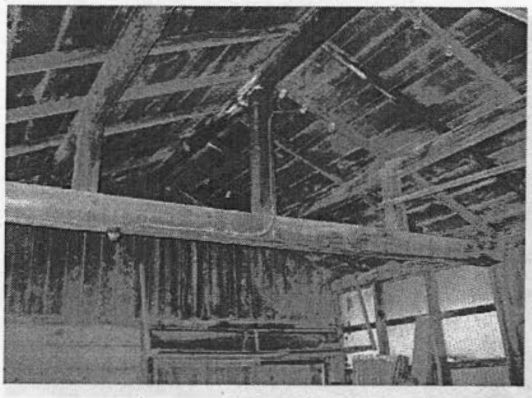
表6　航空廠関係資料一覧(調査時確認資料)

※この他、運搬作業時に保存を決めた追加資料あり。



小屋３　奥に事務所、間に倉庫２がある

倉庫２　左に小屋３、右に事務所

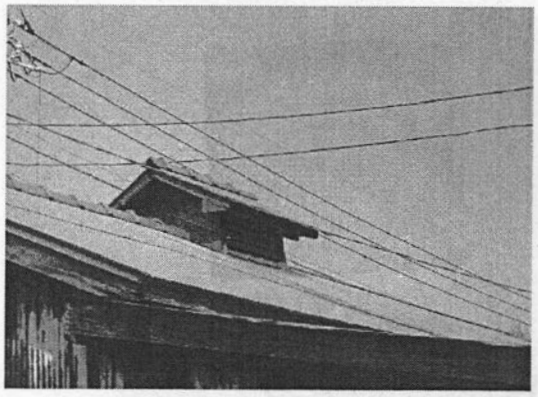


倉庫２の小屋組

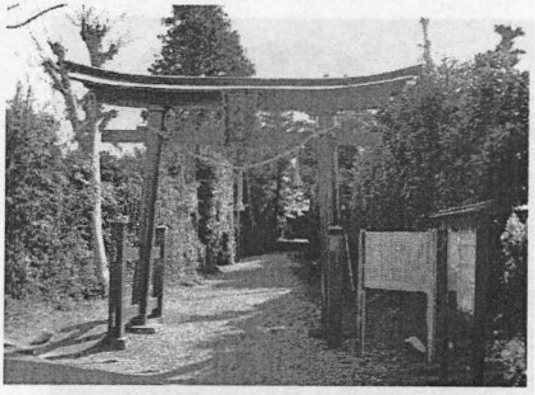
倉庫２　事務所がガラス越しに見える

事務所南側の仕上室

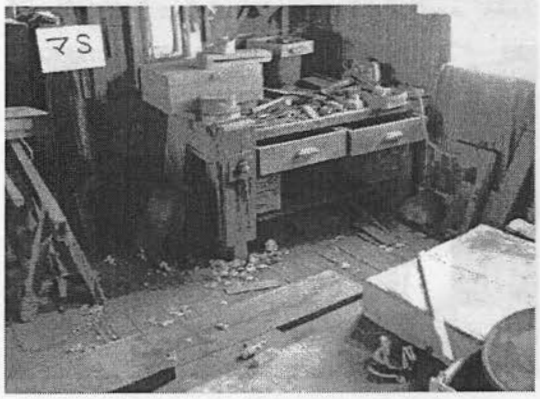
事務所仕上室　採光のため上部を窓に改造



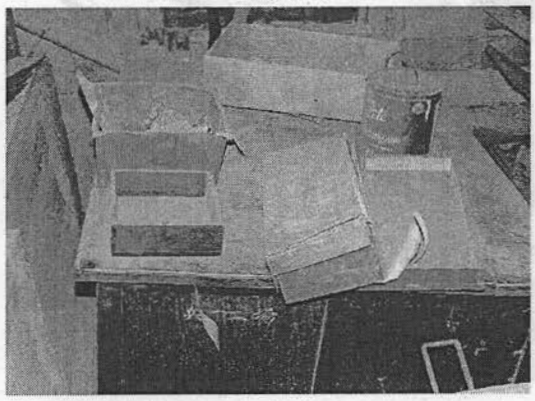
工場の腰屋根　かつてサイレンが付いていた



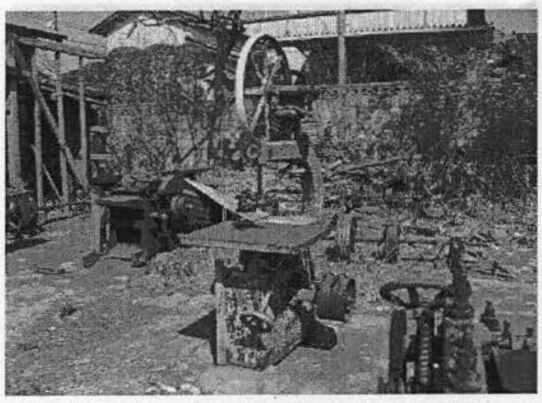
工場南側に所在する八幡神社



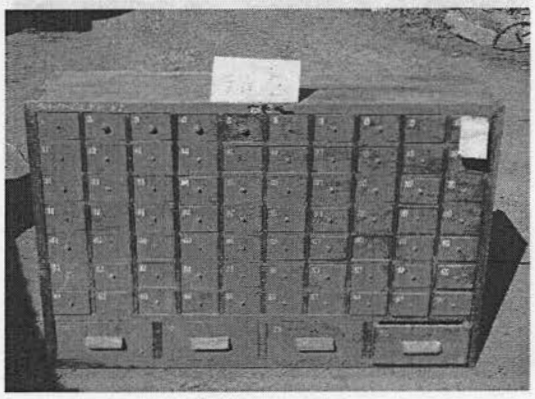
工場の机



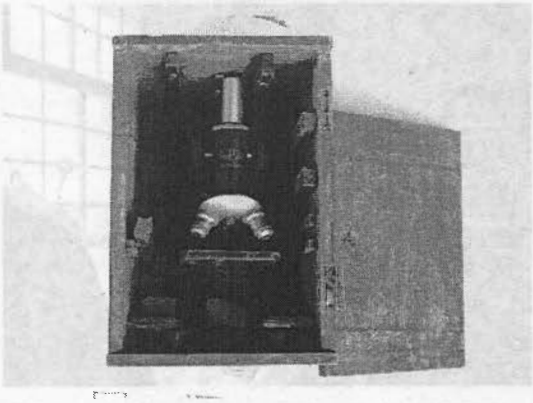
工場の机 「兵一工場」と記載



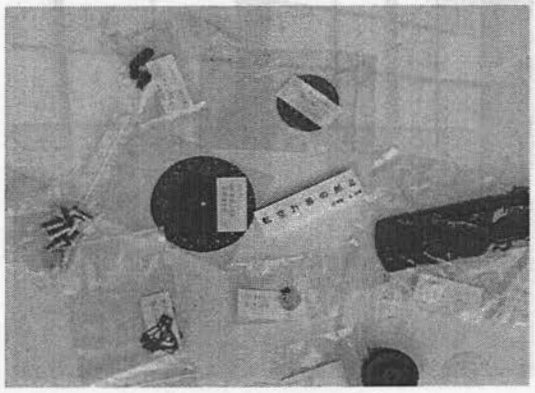
工場北屋外の大型機械



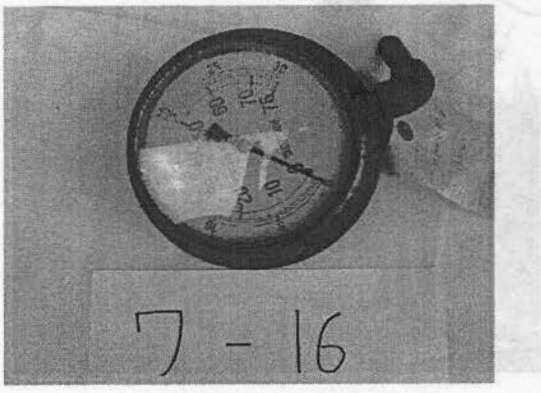
小引き出し 「兵7-18-232戸棚No.9」と記載



顕微鏡(表６－ワ７)

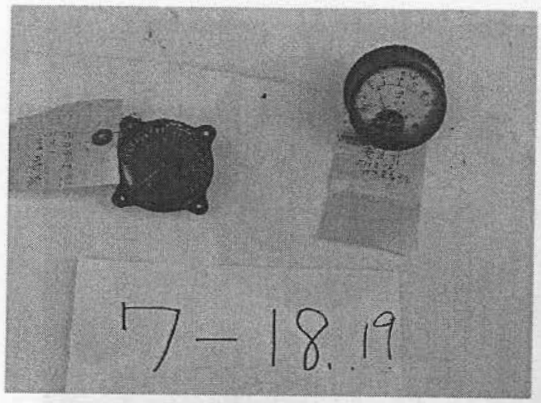


航空計器の部品類

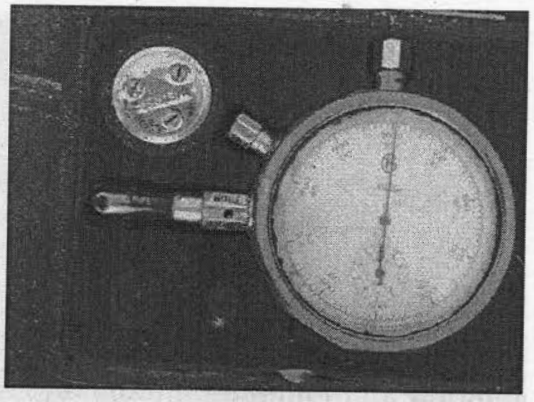


バキュームゲージ (表６－ワ16)

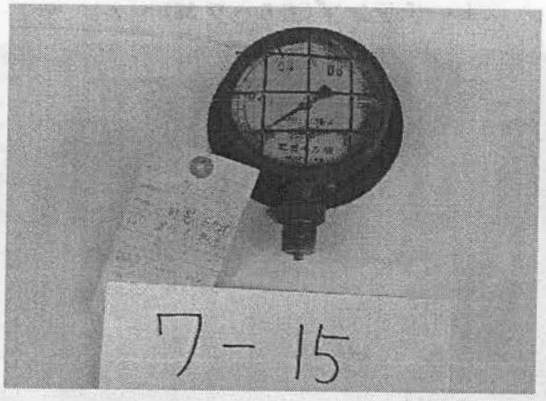
アンペアメーター



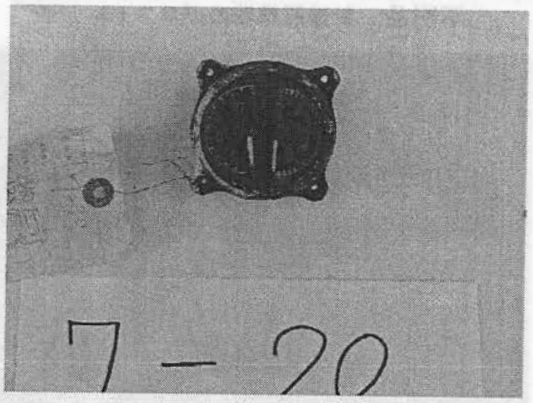
圧力計・電流計(表６－ワ18・19)



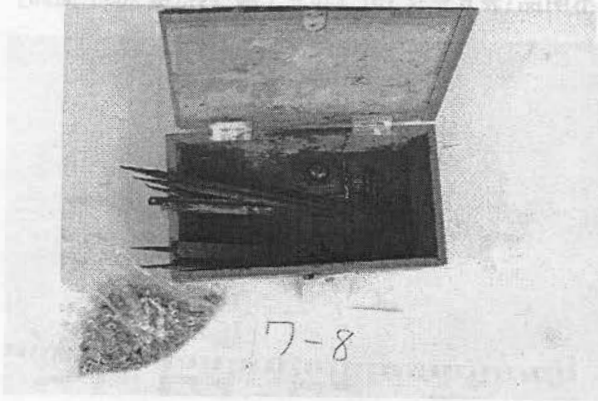
圧力計



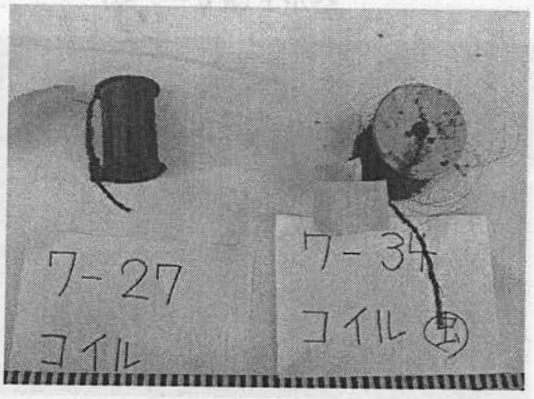
圧力計(表６－ワ15)



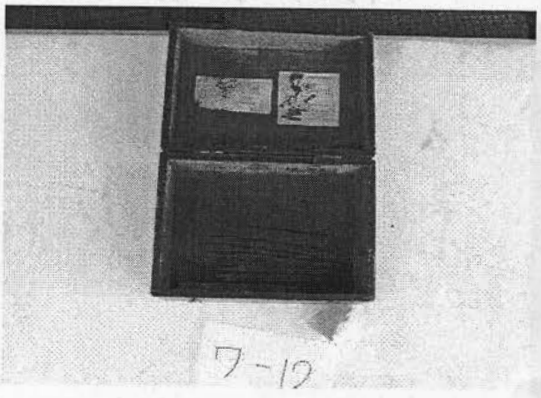
油圧計(表６－ワ20)



工具箱(表６－ワ８)

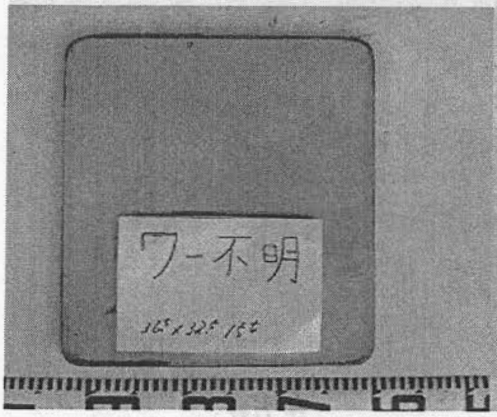


コイル(表６－ワ27・34)



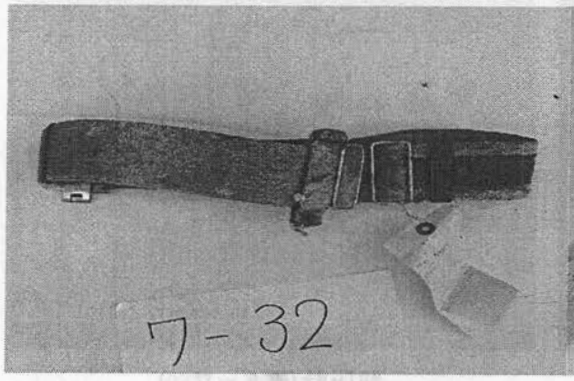
工具箱(表６－ワ12)

金属製容器「第貳[illegible]」と記載

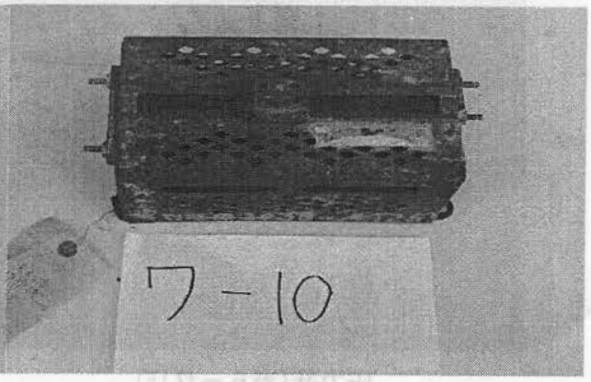


不明品　射爆照準器のガラスカ

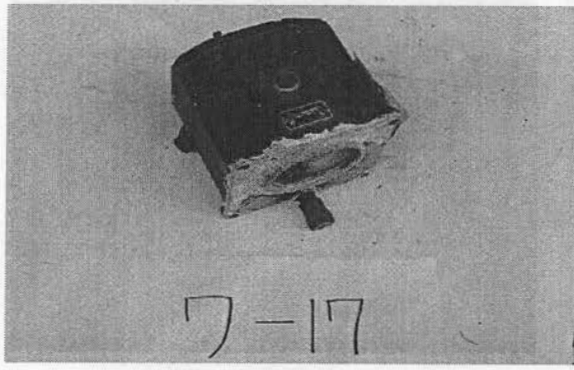
トーチランプ(表６－ワ 35)



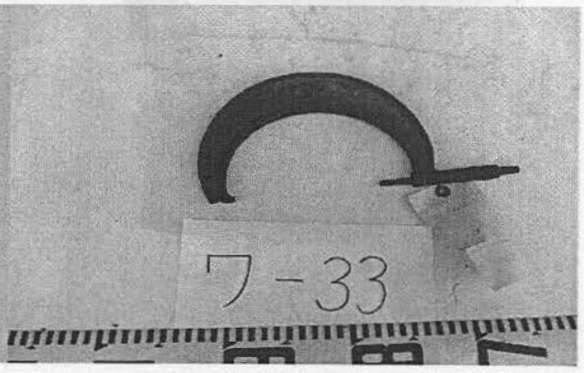
ベルト(表６－ワ 32)



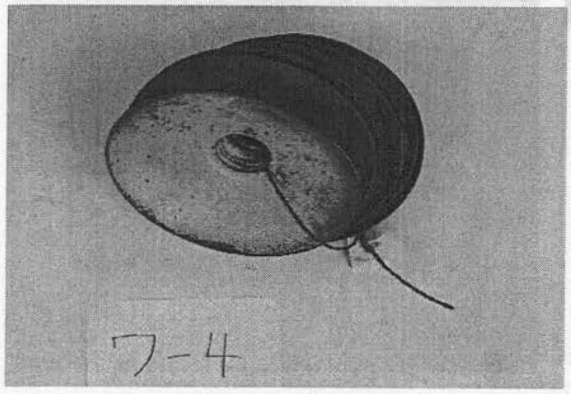
不明品(表６－ワ 10)「兵三工場 内空機 2033 №25」



定針機(表６－ワ 17)



マイクロメーター(表６－ワ 33)



電灯の笠(表６－ワ４)

１２　資料等一覧

松本ピアノ工場から運び出された資料ならびに調査の成果は、下記の場所に保存・保管されている（平成19年7月現在）。なお、保存・保管資料の一覧は下記の通りである。

No.	種　類	数量	所有者	保管場所	備　考
1	ピアノ	13	君津市教育委員会	文化ホール・周南中学校内倉庫	P8　表1
2	オルガン	5	君津市教育委員会	周南中学校内倉庫	P8　表1
3	破損オルガン	2	君津市教育委員会	旧香木原小学校	P8　表1
4	ピアノ製作用具(歴史資料)	1式	君津市教育委員会	旧香木原小学校	
5	ピアノ製作用具(修理用)	1式	君津市教育委員会	周南中学校内倉庫	
6	航空廠関係資料	1式	君津市教育委員会	旧香木原小学校	P56　表6
7	建築保存部材	16	君津市教育委員会	旧香木原小学校	P61　表8
8	会社関係資料及び紙製資料	173	君津市教育委員会	周南中学校内倉庫	P39　表4
9	松本ピアノ関係資料	1式	個人	周南中学校内倉庫	P40　表5
10	古写真	1式	個人	周南中学校内倉庫	
11	調査成果物(記録写真)	CD2枚	君津市教育委員会	文化振興課	P62　表9
12	調査成果物(映像記録)	ビデオ1本	君津市教育委員会	文化振興課	
13	調査成果物(音声記録)	2本	君津市教育委員会	文化振興課	
14	調査成果物(調査野帳)	1式	君津市教育委員会	文化振興課	

表７　資料所在一覧

No.	保存部位	点数・サイズ	備　考
1	窓枠(内部のガラス戸を含む)	1セット	
2	応接室天井の回り縁	長さ30cm	
3	応接室天井　照明付け根のロゼット	70cm角	
4	応接室照明器具	1点	
5	展示室　格天井と中央照明の台座	100cm角	照明器具は応接室のもののみ保存
6	玄関庇の持ち送り金具	1点	
7	玄関の金属プレート	3点	
8	各部屋名プレート	3点	
9	工場瓦	4点	種類の異なるもの

表８　建築関係保存部材一覧

DISC 1

1 ピアノ・オルガン 写真 認識用
1 ピアノ・オルガン 写真 その他
1 ピアノ・オルガン 写真 フレーム
2 保存資料(ピアノ以外) 第一次運搬分 20070212
2 保存資料(ピアノ以外) 第二次運搬分 20070326
2 保存資料(ピアノ以外) 板碑
3 建物 解体 業者解体 20070406
3 建物 解体 部材取外 20070326
3 建物 敷地内の建物 工場
3 建物 敷地内の建物 工場 旧作業小屋基礎確認 20070129
3 建物 敷地内の建物 工場 建築構造 200701
3 建物 敷地内の建物 事務所
3 建物 敷地内の建物 土蔵
3 建物 敷地内の建物 敷地内風景
3 建物 敷地内の建物 母屋 20070301
4 航空廠関係 工場周辺 20070406
4 航空廠関係 聞き取り調査 ★非公開 20070301

DISC 2

5 保管状況 オルガン・修理工具類保管 周南中倉庫
5 保管状況 ピアノ運搬状況 20070129
5 保管状況 ピアノ保管 周南中教室
5 保管状況 用具等保管 20070212運搬分 香木原
6 調査風景
7 室内配置詳細 工場 南下屋 20070127
7 室内配置詳細 工場 部屋1 20070127
7 室内配置詳細 工場 部屋2 20070127
7 室内配置詳細 工場 部屋2(圧着台 20070326)
7 室内配置詳細 工場 部屋3 20070107
7 室内配置詳細 工場 部屋4 20070127
7 室内配置詳細 工場 部屋5 20070127
7 室内配置詳細 工場 北屋外 20070127
7 室内配置詳細 工場 北屋外(工作機械 20070301)
7 室内配置詳細 工場 廊下 20070127
7 室内配置詳細 事務所 応接室
7 室内配置詳細 事務所 仕上室
7 室内配置詳細 事務所 事務室
7 室内配置詳細 事務所 展示室
7 室内配置詳細 事務所 廊下
7 室内配置詳細 小屋1 20070127
7 室内配置詳細 小屋2 20070127
7 室内配置詳細 小屋3 20070127
7 室内配置詳細 倉庫1 20070127
7 室内配置詳細 倉庫2 20070127
7 室内配置詳細 土蔵 20070127 (正ワ、誤ア)
8 追加 会社関係資料・古写真

表9 調査写真集 項目一覧

No.	資　料　名	年代	材質・寸法	数量	備　　考
1	箱蓋(裏)	大４	木製、６３×９５cm	1	No.２と同一資料
2	箱蓋(表)	大４	木製、６０×９３cm	1	No.１と同一資料、墨書「大隈内閣大勝利記念」
3	箱蓋(表)	明４３	木製、５６×６５cm	1	No.４の猫足膳８脚が入っていた箱。墨書「恩師松本先生台下　為修業記念贈呈　明治四拾参年三月弐拾日出匳　東京府銀座四丁目四番地　松本楽器製造合資会社　輸送中丁寧安全ヲ要ス」
4	猫足膳	明４３	木製漆塗り	8	朱色
5	角盆	不明	木製漆塗り、２５×２５．５cm	1	「Ａｏｉｋｅ　Ｐｉａｎｏ　Ｓｔｏｒｅ」の文字入り。朱色に花・蝶
6	記念品楯	昭３７	木製にブロンズ貼り付け	1	東京ピアノ商組合主催、第一回全日本ピアノショウ出品記念
7	感謝状	昭３７	紙製、５０×３８cm	1	東京ピアノ商組合からの感謝状。額入り。出品ピアノ写真付
8	絵画「松本新吉生家」	不明	板絵、４４×３８cm	1	額入り。松本新吉五女の起美江の画 ｶ
9	写真「月島工場新設当時」	明後期	額４８×４１cm、写真２５×２０cm	1	額入り
10	写真「銀座松本楽器」	明後期	１４．８×１０．５cm	1	額入り
-2	写真「八重原工場」	昭８頃	２１．５×１６．５cm	1	No.１０と同一の額入り
11	写真「松本新吉」	大正	２５×３０．５cm	1	額入り
12	写真「松本ピアノ」		２７×１８cm	1	浜松市楽器博物館に展示されたアップライトピアノ
13	写真「八重原工場事務所応接室に置かれたピアノ」	平１８	４１×２９cm	1	松本ピアノのほか西川・ヤマハピアノ
14	法被(はっぴ)	昭10頃	木綿製、丈９０cm	1	「千葉県八重原松本ピアノ工場」の文字入り印半纏。背紋にエンブレム。胴周りに「MATSUMOTO」の文字入り。
15	丸型エンブレム		鋳物製、径８．５cm	15	
16	板状エンブレム	昭後半	鋳物製、３０×２cm	11	「FOUNDER　SHINKICHIMATSUMOTO　1885-1941」
17	板状エンブレム		鋳物製、２０×３cm	11	中央にエンブレム。「ESTABLISHED　1892」
18	ベル型エンブレム		金メッキ	3	「S.MATSUMOTO　ＰＩＡＮＯ」
19	フレーム用文字基盤		金メッキ	1	「MATSUMOTO & SONS」
20	書籍『大日本商工録』	昭６	２６．６×１９．８×３cm	1	楽器の部　松本新吉 八重原村松本ピアノ。創業大正１４年
21	書籍『事業及人物』	昭１９	２６×１８×７．５cm	1	申込書、領収書５０円あり。６２３頁に松本新治
22	文庫本『魯庵の明治』	平９		1	著者/内田魯庵、出版社/講談社
23	文庫本『明治事物起源 三』	平９		1	著者/石井研堂、出版社/筑摩書房
24	書籍『楽器　業界戦争』	昭６２	１８．５×１３×１．３cm	1	著者/坂口義弘、出版社/あっぷる出版社
25	書籍『楽器業界』	昭５２	１７．４×１０．７×１．６cm	1	著者/檜山陸郎、出版社/教育社
26	書籍『日本のピアノ１００年』	平１３	１９．７×１４×２．９cm	1	著者/前間孝則・岩野裕一、出版社/草思社
27	書籍『銀座物語』	平９	１７．４×１１．２×1.５cm	1	著者/野口孝一、出版社/中央公論社
28	書籍『オルガンの文化史』	平８	１９．５×１３．６×２cm	1	著者/赤井　励、出版社/青弓社
29	雑誌『ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｽｸｴｱNo.45』	平５	２８×２１cm	2	ちばぎん総合研究所
30	雑誌『週刊新潮　第51巻36号』	平１８	２６×１８cm	1	西川オルガンについて

表１０　松本ピアノ関係資料一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）

No.	資　料　名	年代	材質・寸法	数量	備　　考
31	手帳	明３３	１１．５×６．５cm	1	赤褐色手帳。松本新吉の渡米日記
32	二等賞牌（メダル）	明３６	径６．６cm、漆桐箱９．５×９．５cm	1	第５回内国博覧会受賞。箱入り
33	丸型エンブレム	昭初期	銅メッキ真鍮、径５．９cm	1	「S. MATSUMOTO　ＰＩＡＮＯ　MANUFACTORY」
34	領収書綴	昭29	更紙製、１４．８×２１cm	1	昭和２９年２月１７日～２９年７月２８日
35	丸鋸・カッター			7	ピアノ製作用具
36	コテ、角ノミ、鋸のあさりだし他			9	ピアノ製作用具
37	西洋カンナ部分			1	ピアノ製作用具。刃なし
38	やすり			1	ピアノ製作用具。帯鋸を研ぐ
39	釘抜き			1	
40	丸鋸			1	ピアノ製作用具
41	名入れ用型抜き金板			1	「松本ピアノ」
42	ベル			1	始業・終業時に使用したベル ヵ
43	木部締め具		木製、長さ２８×６．５×６．５cm	2	1点に「松本ピアノ工場」の印が入る
44	ふいご		木製	1	航空廠の仕事をしていた時代のもの ヵ
45	ピアノ製作用具		木製	10	１０点まとまっていたが、これがセットとなるか不明
46	ピアノ製作用具		木製	23	鍵盤脇傾斜削り、象牙を削る台、締め具、アップ脚上部の型、鍵盤ボタンを貼る台 プッシングクロス、アップ腕木、クレームの下に入れる高さ調節器。グランド蓋側面の型、長蝶盤の一部　等
47	ピアノ製作用具		木製	21	敷板の型、鍵盤の丸み取り、鍵盤の丸み取り等
48	ピアノ製作用具		木製、３９×９×１．２cm	1	「土台木棧穴位置」の文字あり
49	ピアノ製作用具		木製、大４５×６×３．１cm	3	大２点、小１点
50	ピアノ製作用具(採寸台)		木製、２０×２４×８（３．７）cm	1	固定用の孔１つ
51	ピアノ製作用具		長さ３９cm・金属部分２０cm・捻子の部分５cm	1	Ｔ字型
52	工場の看板		５０×１５×２cm	1	「有限会社　松本ピアノ工場」
53	ピアノ製作用具(採寸台)		４７（２６）×２１．６×０．９cm	1	台形。鉛筆で袖板の名あり。固定用孔１
54	楕円形板		５１×３３×０．５cm	1	飾り板状。用途不明
55	ピアノ製作用具(採寸台ヵ)		３４×２１×５．５（１）cm	1	固定用の孔１つ
56	ピアノの型取り用具		ベニヤ板製、５４．８×２９．４cm・楕円形部分３７．３×１２．３cm	1	ピアノ型取り用具ヵ。一部破損
57	感謝状	昭２	３８．５×２７cm	1	生田神社改築時の献納に対する感謝状
58	感謝状	昭３８	４０×３０．７cm	1	第５回国際音楽教育会議の出品への感謝状。額入り
59	ピアノ製作用具(採寸台?)		木製、６８×５．８×２．２（１．３）cm	1	断面台形で、片側がカーブしている。孔１つ
60	ピアノの型取り用具		木製、４５×５．７（３．２）×１．１cm	1	上部がカーブしている。孔1つ。両端に凸型の切れ込みあり。
61	ピアノの型取り用具		木製、大９３×３．５×０．７cm、小５５×３．２×０．６cm	2	孔１つ。２本で１対。「表」「６．５」の鉛筆文字あり。

No.	資　料　名	年代	材質・寸法	数量	備　考
62	ピアノの型取り用具		木製、５０．７×２．５×０．４cm	1	ゆるいカーブ状、孔１つ
63	ピアノ製作用具		木製、５５．５×３．７×１cm	1	カーブ状。孔１つ。「三分五厘」の鉛筆文字あり。
64	ピアノの型取り用具		木製、１９．２×７．３×１．５cm	1	孔１つ。釘が２本出ている。
65	ピアノの型取り用具		木製、２１．５（１５．９）×５．７×０．６cm	1	一部台形。孔1つ。「鍵盤ワキ」の鉛筆文字あり。
66	ピアノの型取り用具		木製、２１．３×５．３（１．６）×０．３cm	1	台形。孔1つ。一部破損
67	ピアノの型取り用具		木製、１５．７×３．２×０．７cm	1	等間隔に孔３つ。鉄骨下の高さを決める。
68	ピアノの型取り用具		木製、２１．４×３．７×０．３cm	1	孔１つ
69	ピアノの型取り用具		木製、①５３．５×９．５×０．７cm、②４７．５×３．５×１．６cm	2	駒ピンの型。低音の味のはねだしの型。緩いＳ字状。釘が多数打ってある。①は西洋の刀状の形、②は板を２枚貼り合せ
70	ピアノの型取り用具		木製、５７×３．７×１cm	1	ピアノ親板の取り付け板。「巾２寸６分　厚８分」「袖巻板」の鉛筆文字あり。
71	ピアノの型取り用具		木製、４７．３×３．２×０．５cm	1	駒ピン穴型(高音部)。緩いＳ字状。３本ずつピンを打った跡あり。「昭和三十五年四月改正」「小堀」の鉛筆文字あり。
72	ピアノの型取り用具		木製、１２８．７×３×１cm	1	型取りの棒。表面に切込みあり。それぞれに数字が打たれる。
73	ピアノの型取り用具		木製、３０×５．７×０．７cm	1	定規。片側に孔１つ。
74	ピアノの型取り用具		木製、４７．５×３．７×０．６cm	1	中音コマの型。緩いＳ字状。片側に孔１つ。「５５」の鉛筆文字あり。
75	ピアノの型取り用具		木製、４７．５×３．７×０．８cm	1	中央部コマピン穴の型。緩いＳ字状。孔１つ。規則的なピン孔あり。
76	ピアノの型取り用具		木製、５５．９×３．３×０．７cm	1	高音部木取り用具。緩いＳ字状。孔１つ。「６５」の鉛筆文字あり。
77	ピアノの型取り用具		木製、６２．７×３．７×０．８cm	1	低音部ゴマの型。木取り用。緩いカーブ状。孔１つ
78	ピアノの型取り用具		木製、４７×３．２×０．６cm	1	高音部コマピンの位置取り型。孔1つ。カーブ状ピン穴多数。一部破損
79	団扇		全長３６cm、縦２２．５×横２３．５cm	1	エンブレム、「ピアノ・オルガン製造・修理」「有限会社　松本ピアノ工場」「千葉県君津町外箕輪ＴＥＬ君津８番」の文字入り。
80	プレート		３．２×６．３cm	1	「ConeMills　６８６ BLUEWAY」の銘入り
81	エンブレム		径８．３cm	1	円形。表面は立体的。裏面はフラット
82	書籍『京浜実業家名鑑』		１５×２２．２cm	1	７６６頁と補遺１４頁は欠損。松本新吉の部分は、切り取っている。西川虎吉の記述はあ
83	グランドピアノマーク		２９．５×１９．８cm	1	グランドピアノの商標を画いている。「H. MATSUMOTO GRAND PIANO TOKIO. JAPAN. 」とある。一部破損
84	ピアノカタログ		６１．５×２１．５cm	1	表紙「MATSUMOTO PIANOFORTES ESTABLISHED １８９２　創業明治２５年　松本ピアノ工場　千葉県君津郡君津町　電話(君津)８番」、①「松本グランドピアノ、第一八五号型、八十八鍵(７ 1/4オクターブ)　全長百八十五糎　黒色塗　マホガニー塗　木地塗」、②「松本ピアノ“Ｃ”型　品質概要　黒色光沢塗仕上及びマホガーニー塗仕上げ　７オクターブ四分ノー　最上象牙鍵盤」、③アップライト内部「７ 1/4 Octaves (88Keys)」

No.	資　料　名	年代	材質・寸法	数量	備　　考
85	定価表	昭30年代カ	１２．７×１７．８ｃｍ	14	「定価表」「松本ピアノ　竪型C５号　一般販売価格　黒285,000　マホガーニー295,000、竪型C12号(ドイツ製レンナーアクション)　一般販売価格　黒320,000　マホガーニー330,000、平型№185(ドイツ製レンナーアクション)　一般販売価格470,000」「創業明治25年　松本ピアノ工場　千葉県君津郡君津町電話(君津)８番」
86	定価表	昭初期カ		1	「Matsumoto　Piano」「優秀にして廉価なる新製松本ピアノ普及型　特価金三百八拾円也新製松本ピアノ普及型の発売は、現代楽器製造工業の進歩せる技術を以て、音楽普及の一般大衆化に貢献せんとする奉仕的計画であります。其の堅牢にして実用に適し、音色麗はしく音量また豊富にして、この優れたる品質に対照しこの破格的値段は、従来絶対に供給不可能とされたる新製ピアノであります。」「要概質品　八十五鍵　硬質模象牙鍵盤　新式総鉄骨　二重交叉式三絃張　黒色光沢塗仕上　高サ一二五糎　長サ一五０糎」「松本ピアノ工場　千葉県君津郡八重原　電話八重原８番　東京営業所　東京市麻布区笄町七十九電話青山６８６５番」
87	定価表	昭30年代以降		1	「マツモトピアノ定価表」「12号　88鍵(７1/4オクターブ)　三本ペタル弱音装置付　高さ129cm　間口156cm　奥行64cm　重量275kg　/　ドイツ製レンナーアクション　ドイツ製レンナーハンマー　象牙鍵盤　黒塗　300,000円　ウオルナット及マホガニー塗　315,000円　/　特性国産アクション　レンナーハンマー　象牙鍵盤　黒塗　280,000円　ウオルナット及マホガニー塗　295,000円　/　特性国産アクション　特性ハンマー　アクリル鍵盤　黒塗　265,000円　ウオルナット及マホガニー塗　280,000円　/　「132号　88鍵(７1/4オクターブ)　三本ペタル弱音装置付　高さ132cm　間口156cm　奥行64.5cm　重量285kg　/　ドイツ製レンナーアクション　ドイツ製レンナーハンマー　象牙鍵盤　黒塗　325,000円　ウオルナット及マホガニー塗　340,000円　/　特性国産アクション　レンナーハンマー　象牙鍵盤　黒塗　305,000円　ウオルナット及マホガニー塗　320,000円　/　特性国産アクション　特性ハンマー　アクリル鍵盤　黒塗　285,000円　ウオルナット及マホガニー塗　300,000円」「千葉県君津郡君津町外箕輪(有)松本ピアノ工場　電話(釜神)１０６」
88	板状エンブレム			2	①「ESTABLISHED　１８９２」銘、②「FOUNDER SHINKICHI MATSUMOTO　１８８５－１９４１」銘
89	ピアノの型取り用具		木製、１２．４×３．８×０．３ｃｍ	1	竹を縦に半分に割ったような形、孔一つ
90	原料仕入帳(帳簿)	Ｓ２１	２１×１７．５×３cm	1	箪笥・ピアノ製品及び原料仕入れ
91	金銭出納簿(帳簿)	Ｓ２１	２０×１６×１．５cm	1	Ｓ２１．９～Ｓ２３．４
92	金銭出納簿(帳簿)	Ｓ２７	２０×１６×１．５cm	1	Ｓ２７．７～Ｓ３０．５
93	売上元帳(帳簿)	Ｓ２７	２０×１６×１．５cm	1	Ｓ２７．８～Ｓ３０．１１
94	売上帳(帳簿)	Ｓ２９	２０×１６×１．５cm	1	Ｓ２９．６～Ｓ３３．８、２部Ｓ４１～Ｓ５６．３
95	金銭出納簿(帳簿)	Ｓ２９	２１．６×１７×１．２cm	1	Ｓ２９．６～Ｓ３２．４
96	元帳(帳簿)	Ｓ３３	２７×２０．３×２cm	1	Ｓ３３．６～Ｓ３５．６

No.	資　料　名	年代	材質・寸法	数量	備　考
97	元帳(帳簿)	S３５	２７×２０．３×２cm	1	Ｓ３５．６～Ｓ３６．６
98	製品売上帳(帳簿)	S２３	２７×２０×３cm	1	Ｓ２３年～Ｓ２４年
99	治具		木製、５９．７×奥行５．９×１．２cm	1	台形、中央部に楕円刳り貫き
-2	治具（キース台取り付け）		木製、４０×４．８×１cm	1	端に文字「ツキアナ」、モクネジ位置表示、釘３本
-3	治具		木製、４０．３×５(４)×０．８cm	1	「４３．３月改正　５分長く」、「正面上１３．５、下１２．５」の文字
-4	治具		木製、４９×２．３×０．５cm	1	「キー台、１寸６分の場合、下羽目幅」の文字
-5	治具		木製、４３×２．６×０．６cm	1	「ウデ木、小型」の文字
-6	治具(型取り具)		木製、４１．３×３．６×０．９cm	1	カーブした型取り具。均等に４ヶ所孔あき
100	治具		木製、５６．５×１１．８×１cm	1	平行四辺形の板、一部カーブあり。
-2	治具		木製、３９．６×８×１cm	1	両面に異なる寸法表示(土台出来上がり寸法２．６寸幅、２．４寸高、木取長サ１．３５分厚２寸８分、幅２寸５．５厘　ほか)
-3	治具		木製、４４．２×８×０．７cm	1	「土台穴あけ」、二辺に厚さ１cmの台付き
-4	治具		木製、61.2×4.3×1.9cm	1	三角柱の木(ケニバン押・・・・・)
-5	治具		木製、３６×1.７×１cm	1	一部台付き
101	治具(型取り具)		木製、５２×８（２．５）×２cm	1	変形型取り具
-2	治具		木製、５６．７×６．２×１cm	1	文字「袖巻板幅２．６寸、厚８分、長６寸２分」
-3	治具(型取り具)		木製、６４．７×７．８×３cm	1	敷居状の型取り具
102	治具		木製、４５．３×２×１cm	1	土台、ア２．４分、ヤ２寸６分（物差状）、釘２本釘穴２
-2	治具(腕木)		木製、５０．５×３．５×０．９cm	1	文字「上羽目用.上」、釘穴等間隔４cm、他１長方形腕木
-3	治具(型取り具)		ベニヤ製、４５．３×６．２(４)×０．５cm	1	台形状の型取り具、昭和４６年４月改正
-4	治具		木製、９．３×４．６×０．９cm	1	上羽(長方形)、釘２本間隔３cm
-5	治具		木製、３９．８×４．６（３．６）×０．３cm	1	台形の杉板
-6	治具(型取り具)		木製、２９．７×６×１．８cm	1	敷居状の型取り具、片方に溝
103	治具		木製、５６．８×１×０．７cm	1	文字「土台ツナギネジ穴」、釘穴５本(釘３本)
-2	治具(物差し)		竹製、５０．５cm	1	
-3	治具(腕木)		木製、３８．５×１．５×１cm	1	釘穴３、釘２本の間隔２．３cm
-4	治具		木製、７５．７×１．１×１．２cm	1	文字「大(日)？上羽目　穴」
-5	治具		木製、７３．２×２．６cm	1	金属製蝶番５個ツナギ
104	治具(型取り具)		木製、２４．７×２．４×０．５×１cm	1	孔１つ
-2	治具(型取り具)		木製、９．５×４．３(３．５)×１．６cm	1	変形カーブ型取り具。２箇所に孔。文字不明
-3	治具(型取り具)		木製、２７×３．２(０．５)×１cm	1	カーブ状型取り具。孔１つ。一部欠損
105	治具		木製、７４×１３．８×２．３cm	1	二つ折りたたみ。先端丸くカーブ。片側削り。同所に径２．５cmの孔
106	治具		木製、１８．８×９．３×１．３cm	1	片側刳り付き。台形物入れ状

No.	資　料　名	年代	材質・寸法	数量	備　　考
-2	治具		木製、１３．８×４．７×１．２cm	1	「足　上　側」の文字あり。２枚の切込み入り板をL字型に張り合わせ
-3	治具		木製、３２×３×２．２（１．１）cm	1	等間隔に６個の孔と切れ込みあり。１個の孔の部分を削っている
-4	治具		木製、２３．８×４×２．７（１．８）cm	1	台形に傾斜。中側に刳り溝（低い方０．２，深い方１．１cm）
-5	治具		木製、２１．２×８×０．９cm	1	薄板カーブ（トップとの差０．６cm）
-6	治具		木製、２１．２×６．６（５．３）×１cm	1	やや台形の台付き。幅４．９～５寸の文字
-7	治具		ベニヤ製、２３．８×７．４×０．３cm	1	目印釘３本あり
107	治具（にぎり穴定規）		木製、５２．５×６．９×１cm	1	ほぼ長方形。真ん中がやや膨らんでいる。孔１つ。釘1本。
-2	治具	S47?	木製、４２×９．８（４．１）×０．９cm	1	背カーブ板状。孔１つ。「４７・１・６表・厚・上・６・（不明）」の文字
108	治具		木製、４１．５×３．７×０．９cm	1	ブーメラン状腕木？。孔１つ
-2	治具		木製、４５×２．５×１cm	1	片端切れ込み。間隔の違う目盛あり。孔１つ
-3	治具（腕木）		木製、５５．７×３．５×１cm	1	長方形の腕木。孔１つ
109	治具		紙製、２１×９．４（７．６）cm	1	厚紙。型紙（キース台前から）。孔１つ
-2	治具		木製、１９．３×１１．８×０．４cm	1	１つの角カーブ。孔１つ
-3	治具		木製、２５×７・８×０・９	1	孔１つ。「土台　キャスタ位置」の文字。矢印の釘あり。裏側に「袖巻幅２寸５分、厚７分、エクリ５寸５分」の文字
-4	治具		木製、１９．６×９．６×１cm	1	１つの角カーブ。孔１つ
-5	治具（型取り具）		木製、２９．２×７（３）×１cm	1	変形。中央部分高く、両脇刳り込みあり。孔１つ
-6	治具		ベニヤ製、２９．２×７．４（２．５、５．６）×０．３cm	1	５と形状が類似。孔１つ
-7	治具		木製、３０．６×４．８×０．３cm	1	キース台。ワキ貼板。孔１つ
-8	治具	不明	木製、１９．９×８×（２．３）×０．９cm	1	Ｌ字型にカーブ。刳り板。孔１つ
110	治具（型取り具）	不明	木製、２９．１×６．７（２．９）×０．５cm	1	変形。中央部分高く、両脇刳り。孔１つ。「厚１寸５分５厘」の文字
-2	治具	不明	紙製、１７×９．３（１．９）cm	1	ボール紙。罫線２本入り。切れ込み２箇所。片側カーブ。孔１つ。
-3	治具	不明	木製、４２．５×１７．２（１１．７）×０．７cm	1	杉貼り合せ板。孔１つ。「腕木、厚１・５分右」の文字
111	治具	不明	木製、５１．３×４５×６８×０．８cm	1	三角定規状板。孔１つ。「表、厚」の文字
-2	治具	不明	木製、５９．５×３１×６６．５×０．７cm	1	三角定規状板。孔１つ。「表、厚」の文字

No.	資　料　名	著　者	年月日	種類	数量	備　考
1	月間楽譜二十年史（一）	堀内敬三		コピー		
2	地図（新湊町）			コピー		
3	松本新吉・西川虎吉系図ほか			コピー	２部	音楽雑誌
4	山葉寅楠渡米日記(表紙のみ)	浜松史蹟調査顕彰会		コピー		遠江資料叢書六
5	松本雄二郎調査原稿１～32			コピー		西川・松本
6	創業の精神に新しい息吹を	河合楽器製作所	S52			河合楽器創業50年
7	市民フォト千葉	千葉市市長広報課	S60. 4	雑誌		鍛冶屋神になった男
8	ピアノの保存について	全国ピアノ技術者協会		冊子		（東和ピアノ商会）
9	MATSUMOTO & SONS　カタログ			冊子	3	海外向け？
10	松本ピアノ定価表					君津郡君津町
11	MATSUMOTO　カタログ					Ｃ型・グランド
12	松本ピアノ店　名刺					名古屋市中区
13	ピアノ展について(出品一覧)	全国ピアノ技術者協会	1952			上野松坂屋
14	ピアノ展出品一覧表	全国ピアノ技術者協会	1953			大阪心斎橋
15	松本新吉渡米日記コピー			コピー		
16	ピアノ松月会名簿			コピー		
17	松友会員住所録		1955年調	コピー		
18	西川オルガン･西川ピアノ			コピー		日本楽器横浜工場
19	房総の手作り楽器	千葉県立上総博物館	Ｈ２．７	冊子	4	
20	ＯＳＳＡ２	うらべ書房	Ｈ３．12	冊子		手作りピアノを
21	ＲＥＥＤ ＯＲＧＡＮ ＡＴＬＡＳ	ロバート･R.ジェレーマン		コピー		
22	松本オルガンリスト	佐藤泰平	H18. 10	コピー		
23	四季ユートピアノ反響資料	NHK　佐々木昭一郎	H55. 1	コピー	多	モニター感想、報道等
24	松本ピアノ社長宛礼状	NHK　佐々木昭一郎	H55. 10	実物		イタリア放送協会賞
25	松本ピアノ社長宛礼状	NHK報道局長・佐々木	H55. 4	実物		
26	木更津市の主な戦争遺跡	能城秀喜				
27	東京大正博物館受賞人名録		T3. 7. 10	コピー		佐藤泰平所蔵
28	紙巧琴定価表及び曲譜定価表	製造人　松本新吉	M28年	コピー		横浜開港資料館　平野正裕
29	松本楽器合資会社楽器楽書目録･ＣＤ付		M45、6	コピー		横浜開港資料館　平野正裕
30	スタインウェイ社カタログ		H20			Stainwey & Sons
31	地域活性化事例集	(松本ピアノ保存会)	H22			財団法人地域活性化ｾﾝﾀｰ
32	松本新吉伝	大場南北	S60			うらべ書房
33	横浜開港資料館紀要２３		H17			横浜開港資料館
34	横浜開港資料館紀要２４		H18			横浜開港資料館

表１１　松本ピアノ関係追加資料一覧(松本ピアノ・オルガン保存会作成)

No.	年　月　日	記　事　名	新聞社名	種類	備　考
1	明治40年（1907） ４月６日	博覧会出品の楽器	東京日日新聞	コピー	松本合資会社出品
2	昭和55年（1980） １月９日	君津市内でロケ	千葉日報	実物	NHK映像詩「四季」ユートピアノ
3	昭和55年（1980） １月12日	詩情豊かな音と映像のドラマ	読売新聞	実物	NHKテレビ　「四季」ユートピアノ
4	昭和60年（1985） ６月１日	日本のピアノルーツ本県に	千葉日報	実物	君津市の松本新一さん
5	昭和60年（1985） 10月12日	郷土の先覚者「松本新吉伝」	千葉日報	実物	5年半の集大成、発刊
6	昭和60年（1985） 11月14日	房総の技（10）絶妙の音づくり	君津製鉄所きみつ	実物	西洋文化をいち早く吸収
7	昭和63年（1988） ３月13日	富津市「ふっつ昔むかし」出版	朝日新聞	実物	燭台付ピアノ（石渡鋼氏宅西川ピアノ）
8	平成2年（1990） ５月21日	流儀はゆっくり気持ち込め	朝日新聞	実物	この人を訪ねて　手作りピアノ松本新一さん
9	平成5年（1993） ４月15日	よみがえった百年前の音色	読売新聞	コピー	富士美術館の「紙腔琴」復元　松本新吉作
10	平成元年（1989） ８月１日	ふるさとの音色楽しんで	産経新聞	切抜き	上総博物館企画展「房総の手作り楽器」
11	平成19年（2007） ２月６日	郷土の先覚者にスポット	千葉日報	コピー	「松本・柳」展
12	平成19年（2007） ２月21日	松本新吉・柳敬助展	房総ファミリア	実物	催し物案内
13	平成19年（2007） ２月21日	美しき音色記憶の中に	東京新聞	実物	君津の工場取り壊しへ
14	平成19年（2007） ２月　日	松本ピアノ君津市に20台寄付	毎日新聞	コピー	老朽の工場取り壊し
15	平成19年（2007） ３月８日	大正期のピアノ保存へ	塩尻市市民タイム	コピー	塩尻東小1918年寄贈
16	平成19年（2007） ５月８日	松本ピアノ保存第2楽章	読売新聞	コピー	君津の文化遺産
17	平成19年（2007） 10月22日	松本ピアノ地元で演奏会	朝日新聞	切抜き	八重原公民館文化祭
18	平成19年（2007） 11月22日	自分と地域再発見	房総新聞	コピー	生涯ファステバル
19	平成19年（2007） 11月22日	松本ピアノ　N02	周南公民館報「ひろば」	実物	
20	平成19年（2007） 12月1日	郷土の音色に包まれて	広報きみつ	切抜き	生涯ファステバル
21	平成20年（2008） ６月16日	忙人寸語	千葉日報	コピー	松本ピアノオルガン保存会
22	平成20年（2008） ６月16日	幻の「松本ピアノ」展示	千葉日報	コピー	市役所ロビーで
23	平成20年（2008） ６月19日	大正時代の音を奏でる	新千葉新聞	コピー	市役所展示、コンサート
24	平成20年（2008） ６月22日	明治・大正彩った音色	読売新聞	コピー	1914年製松本ピアノ展示
25	平成20年（2008） ６月23日	君津でコンサート	毎日新聞	切抜き	純国産ピアノ製造松本新吉にちなみ

表１２　松本ピアノ関係新聞報道一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）

No.	年　月　日	記　事　名	新聞社名	種類	備　考
26	平成20年（2008） ６月24日	「松本ピアノ」美しい調べ	朝日新聞	切抜き	君津市役所 ランチタイムコンサート
27	平成20年（2008） ６月25日	大勢が大正の音色に酔う	新千葉新聞	コピー	松本ピアノコンサート
28	平成20年（2008） ６月25日	大正時代の音色演奏	(特報)かずさ新報	コピー	ランチタイムコンサート
29	平成20年（2008） ８月29日	幻の音色ファンら喝采	日本経済新聞	コピー	ちばの風　市民グループが「文化遺産」修復
30	平成20年(2008) 11月20日	大正の音色を聴く	周南公民館報「ひろば」	実物	松本ピアノふるさとコンサート周南中学校 11・25
31	平成20年(2008) 11月19日	復元再生に感動(二葉高)	長野日報	実物	君津市(千葉)の保存会が来訪
32	平成20年(2008) 11月19日	大正期の音色響く(東小)	市民タイムス(塩尻)	実物	君津市の保存会が視察に
33	平成20年(2008) 11月19日	明治時代のピアノ見学	信濃毎日新聞	コピー	メーカーの地元千葉の住民グループ
34	平成20年(2008) 11月19日	二葉で明治のピアノ見学	諏訪　市民新聞	コピー	君津市の「松本ピアノ・オルガン保存会」一行
35	平成21年(2009) ５月27日	「松本ピアノ」音色再び	朝日新聞	実物	亀山少年自然の家に寄贈
36	平成21年(2009) ６月21日	歴史ある幻のピアノの寄贈	房総新聞	実物	君亀　松本ピアノ贈呈式＆おひろめ会
37	平成21年(2009) ８月23日	コラム「春秋」	日本経済新聞	実物	「祝ピアノ300年」　明治14年購入ピアノ修復
38	平成22年(2010) ２月24日	音色市民に届く	東京新聞	コピー	2月22日(月)第二回市役所ロビーコンサート
39	？	恩賜金で購入のピアノ、民家に	毎日新聞	コピー	大正天皇ご成婚記念　岐阜県日本大正の村

〔コンサート・研修会等〕

No	タイトル	開催日／会場	演奏者等
1	八重原地区ふれあい文化祭「松本ピアノを聴く会」	2007. 10. 21／八重原公民館	
2	第1回ランチタイムコンサート	2008. 6. 23／君津市役所ロビー	飯田陽子・園田彰子
3	松本ピアノ秋の研修会(2枚)	2008. 11. 18／長野県諏訪二葉高・塩尻小学校	
4	山のフェステバル～ピアノ贈呈～	2009／君津亀山少年自然の家	
5	初夏のさわやかコンサート(2枚)	2009. 6. 28／周西公民館	鈴木希実トリオ・松本衣子・松岡知子
6	松本ピアノもみじコンサート	2009. 11. 29／君津亀山少年自然の家・同窓会	崔氏
7	松本衣子ソプラノリサイタル	2009. 6. 21	
8	第2回きみつ夢未来コンサート	2009. 12. 6／君津市民文化ホール	鈴木希実
9	新春フレッシュコンサート	2010. 1. 17／生涯学習交流センター	鈴木希実・子ども
10	松本ピアノ浜松視察研修(2枚)	2010. 2. 4／浜松楽器博物館・国立音楽大学資料館	
11	第2回ランチタイムコンサート	2010. 2. 22／君津市役所ロビー	鈴木希実・郷田祐美子
12	そよ風コンサート	2010.6.26／松丘コミュニティーセンター	岡田照江・柳澤聖香
13	第3回ランチタイムコンサート(3枚)	2010. 9. 22／君津市役所ロビー	君津市民の歌(編曲 堀優香・1分30秒)、佐星・倉貫・吉川・高品・堀
14	山のフェステバル(2枚)	2010. 10. 17／君津亀山少年自然の家	鈴木希実・ソプラノ榎本愛
15	3世代コンサート ノーカット版(2組)	2011. 1. 30／君津市民文化ホール	元岡作成1部・2部
16	3世代コンサート 短縮版(3枚)		東谷作成
17	第4回ランチタイムコンサート(2枚)	2011. 12. 2／市役所ロビー	ピアノ＆サックス
18	松本ピアノコンサートin八重原(3枚)	2012. 2. 12／八重原公民館	ピアノ・フルート・クラリネット
19	響け！ふるさとのピアノ～修復ピアノお披露目コンサート～	2012. 3. 21／周南中学校	
20	松本ピアノベビーグランド	2012. 2. 22	鈴木希実
21	ソプラノの歌声とともに(2枚)	2012. 6. 30	渡辺知子・ソプラノ:大平奈々

〔テレビ・ラジオ番組〕

No	番　組　名	制作・放送局・放送日	備　考
1	「ビルマの竪琴」MD	ニッポン放送ラジオ・１９５５．１	松本ピアノCMあり
2	夕べのひととき「話題の広場」MD	ＮＨＫFMちば・１９８５．７．２３	
3	「四季ユートピアノ」ビデオ・DVD	ＮＨＫテレビ・１９７９	
4	「君に香る花を」ビデオ	テレコムスタッフ・フジテレビ・１９９５．９．９	横浜・松本ピアノ工場ロケ
5	「周南中文化祭」で松本ピアノ演奏	ＮＨＫニュース・２００８．１０．２５	

〔その他〕

No	タイトル	備　考
1	松本新吉渡米日記　ＮＯ1・2　CD	松本雄二郎
2	松本雄二郎所蔵写真リスト　CD	

表１３　松本ピアノ関係ＣＤ・ＤＶＤ一覧（松本ピアノ・オルガン保存会作成）

調査後記

今回の調査は、緊急の記録調査であり、調査と同時に受贈資料の選定も行った。

調査記録と受贈資料は膨大な量にのぼり、かつテーマが特種な分野でもあった。その後、調査結果の整理はごく一部が行われたに過ぎず、実物資料の整理も分析すべき課題も多く残したが、後の研究や作業のための基礎資料として活用できるよう、調査と整理を進めたつもりでいる。

残された整理作業を挙げれば、ピアノとオルガンの詳細な調査、製作用具の整理・同定・使用方法調査、新たに出現した関係者への聞き取り調査、会社関係資料などの分析、古写真の整理・分析・保存処理、航空廠関係資料の詳細調査などが、主な事柄といえる。

ところで、今回の調査にあたり、ボランティア調査員の協力があったことを特記しておく。松本ピアノについての研究を進めてきた小糸川倶楽部のメンバーをはじめ文化財関係者、近隣博物館のボランティアなど、市内外から協力の申し出があり、それぞれが調査の主力を担った。また、ご多用の中、予定を調整してご協力くださった松本新一・衣子夫妻をはじめ、突然の調査にも関わらず、遠方から駆けつけて下さった佐倉市民文化ホールの馬場孝之氏、風組渡邊設計室の渡邊義孝氏、元木更津高等女学校(現千葉県立木更津東高等学校)の皆様方の力によるところが大きい。

もとより十分な調査を計画できずに作業を開始したが、今回の成果を得ることができたのは、地域文化の伝承を願う方々の善意の協力によるものであることを申し添える。

-千葉県君津市-
松本ピアノ工場調査報告書

発行日　平成２５年５月３１日
発　行　君津市教育委員会
編　集　君津市教育委員会教育部文化振興課
〒２９９－１１９２
君津市久保２丁目１３番１号